—————————————————————————————————————	声楽	  声楽実技研究V			科目ナンバリング	VM3M1C05	
	桑原	 〔 理恵他					
		ス分け			単位数	2単位	
対象学科	音楽				開設学年	3年次	
 開講時期	前期	]					
		 卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	 アポリシー
選択•必修区分		*				ABO	CDE
備考	※声	楽コース必修			l		
授業の概要		声楽実技研究 I ~IVで習得した歌唱技術をより確かなものとするとともに、楽曲のレパートリーを広げていく。 楽曲の構成についても研究する。					
	楽曲(	の構成について		技術をより確かな	iものとするととも!	こ、楽曲のレパート!	リーを広げていく。
	楽曲(	の構成について	も研究する。	技術をより確かな	;ものとするととも(	ま前学習	リーを広げていく。 事後学習
授業計画		の構成について=	も研究する。 学習		;ものとするととも(: 		T
授業計画	1		も研究する。 学習	图内容	;ものとするととも(	事前学習 シラバスを読み授業の概要をかくに	事後学習 学修計画を立てる 発生を中心に指
授業計画	1	各自の課題確認 各自課題曲13	も研究する。 学習	<b>習内容</b> (s)	;ものとするととも(	事前学習 シラバスを読み授業の概要をかくに んする 発生、息の流れに 留意した歌唱練習	事後学習 学修計画を立てる 発生を中心に指導内容をまとめて
授業計画	1 2	各自の課題確認 各自課題曲13 各自課題曲13	も研究する。 学習 忍と目標設定 (発声法・呼吸法	<b>3内容</b> (表)	はのとするととも()	事前学習 シラバスを読み授業の概要をかくに んする 発生、息の流れに留意した歌唱練習をする 発声練習をし、言葉の抑揚を旋律	事後学習 学修計画を立てる 発生を中心に指導内容をまとめて 発音についての 指導内の練習する
授業計画	1 2 3	各自の課題確認 各自課題曲13 各自課題曲13	も研究する。 学習 忍と目標設定 (発声法・呼吸法 (発声・言葉と旋 (歌詞の意味とま	<b>3内容</b> (表)	\$ものとするととも(	事前学習 シラバスを読み授定 ルする 発生、息の流れに留をする 発生の世でを表する 発声の世でのである。 音葉の内でである。 言葉の内でである。 言葉の内でである。 言語のように練習する。	事後学習 学修計画を立てを 発生を容練 でいたま習 でいたま習 でのおまずる 発音導返 に内容しまする 発音導返したまする 歌詞を繰返しいてまする 歌詞を視についてまする ない おいまする

7

8

各自課題曲14(発声・言葉と旋律)

各自課題曲14(歌詞の意味と表現)

発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する

発声練習をし、言 葉の抑揚を旋律

にのせて歌う

9	各自課題曲14(仕上げ)	豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する
10	各自課題曲15(発声法·呼吸法)	発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする	
11	各自課題曲15(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言 葉の抑揚を旋律 にのせて歌う	発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する
12	各自課題曲15(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌 詞の内容を表現で きるように練習す る	歌詞を繰返し読 み、表現について 考察する
13	各自課題曲15(仕上げ)	豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する
14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容につ いて考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱 練習を行う	伴奏を含めてどう 表現したいかをま とめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽実技研究VI			科目ナンバリング	VM3M1C06		
担当者	桑原	理恵他					
担当形態	クラ	ス分け			単位数	2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期						
	:	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択•必修区分		*				ABO	CDE
備考	※声	楽コース必修					
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・言葉の発音や表現法をさらに向上させ、各自に応じた楽曲の内容が伝わる演奏表現ができる。 *実技試験は6分以上8分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。  声楽実技研究 I ~ V で習得した歌唱技術をより確かなものとするとともに、楽曲のレパートリーを広げていく。伝わる表現の仕方についても研究する。						
	回		学習	 引内容		事前学習	事後学習
授業計画	1				シラバスを読み授 業の概要をかくに んする	学修計画を立てる	
	2	2 各自課題曲16(発声法·呼吸法)			発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする	発生を中心に指導内容をまとめて 繰返し練習する	
	3	各自課題曲16	(発声・言葉と旋行	(聿)		発声練習をし、言葉の抑揚を旋律 にのせて歌う	発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する
	4	4 各自課題曲16(歌詞の意味と表現)			言葉の意味や歌 詞の内容を表現で きるように練習す る	歌詞を繰返し読 み、表現について 考察する	
	5	5 各自課題曲16(仕上げ)				豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する
	6	各自課題曲17	(発声法·呼吸法	)		発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする	
	7	各自課題曲17	(発声・言葉と旋行	津)		発声練習をし、言 葉の抑揚を旋律 にのせて歌う	発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する

8

各自課題曲17(歌詞の意味と表現)

9	各自課題曲17(仕上げ)	豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する
10	各自課題曲18(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする	
11	各自課題曲18(発声・言葉と旋律)		発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する
12	各自課題曲18(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌 詞の内容を表現で きるように練習す る	歌詞を繰返し読 み、表現について 考察する
13	各自課題曲18(仕上げ)	豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する
14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容につ いて考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱 練習を行う	伴奏を含めてどう 表現したいかをま とめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽	声楽実技研究™			科目ナンバリング	VM3M1C07	
担当者	桑原	桑原理恵他					
担当形態	クラ	ス分け			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期	l					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		*				ABC	DEF
備考	※声	楽コース必修					
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	を表現 *実 各自(	各自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・演奏表現を深め、各自に応じた楽曲を表現豊かに演奏できる。 *実技試験(学内演奏会)は8分以上10分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。  各自の個性・声を知り、声に合ったレパートリーをつくる。声楽実技研究 I ~ VIで習得した歌唱技術をさらに高め、楽曲のレパートリーを広げていく。学内演奏会でのプログラミングや演奏マナーについて学ぶ。					
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	各自の課題確認と目標設定				シラバスを読み授 業の概要をかくに んする	学修計画を立てる
	2 各自課題曲19(発声法・呼吸法)				発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする		
	3	各自課題曲19	(発声・言葉と旋行	律)		発声練習をし、言 葉の抑揚を旋律 にのせて歌う	発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する
	4	各自課題曲19	(歌詞の意味と表	₹現)		言葉の意味や歌 詞の内容を表現で きるように練習す る	歌詞を繰返し読 み、表現について 考察する
	5 各自課題曲19(仕上げ)				豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する	
		6 各自課題曲20(発声法·呼吸法)				2% 4 D 0 2 1 1 1 -	発生を由心に指
	6	各自課題曲20	(発声法·呼吸法	)		発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする	
	H		(発声法・呼吸法			留意した歌唱練習をする 発声練習をし、言	導内容をまとめて 繰返し練習する

9	各自課題曲20(仕上げ)	豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する
10	各自課題曲21(発声法·呼吸法)	発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする	
11	各自課題曲21(発声・言葉と旋律)		発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する
12	各自課題曲21(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌 詞の内容を表現で きるように練習す る	歌詞を繰返し読 み、表現について 考察する
13	各自課題曲21(仕上げ)	豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する
14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容につ いて考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱 練習を行う	伴奏を含めてどう 表現したいかをま とめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

-1		·						
科目名 ————————————————————————————————————	声楽	声楽実技研究[20] 科目ナンバリング				VM3M1C08		
担当者	桑原	桑原 理恵他						
担当形態	クラ.	ス分け			単位数	2単位		
対象学科	音楽	学科			開設学年	4年次		
開講時期	後期	]						
ᇃᇷᇰᄵᇹᄼ		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー	
選択·必修区分		*				ABC	DEF	
備考	※声	楽コース必修						
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	を表現 * 実記 むこと 各自	自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・演奏表現を深め、各自に応じた楽曲表現豊かに演奏できる。 実技試験(学内演奏会)は8分以上10分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わないが、日本歌曲を必ず含こと。 自の個性・声を知り、声に合ったレパートリーをつくる。声楽実技研究 I ~WIで習得した歌唱技術をさらに高、日本語を含む楽曲のレパートリーを広げていく。						
	回	回				事前学習	事後学習	
授業計画	1	各自の課題確認	忍と目標設定			シラバスを読み授 業の概要をかくに んする	学修計画を立てる	
	2	各自課題曲22	(発声法·呼吸法	.)		発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする		
	3	各自課題曲22	(発声・言葉と旋?	律)			発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する	
	4	各自課題曲22	(歌詞の意味と表	表現)		言葉の意味や歌 詞の内容を表現で きるように練習す る	歌詞を繰返し読 み、表現について 考察する	
	5	5 各自課題曲22(仕上げ) 6 各自課題曲23(発声法・呼吸法)				豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	
	6				発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする			
	0							
	7	各自課題曲23	(発声・言葉と旋:	律)			発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する	

9	各自課題曲23(仕上げ)	豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する
10	各自課題曲24(発声法·呼吸法)	発生、息の流れに 留意した歌唱練習 をする	
11	各自課題曲24(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言 葉の抑揚を旋律 にのせて歌う	発音についての 指導内容をまとめ て繰返し練習する
12	各自課題曲24(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌 詞の内容を表現で きるように練習す る	歌詞を繰返し読 み、表現について 考察する
13	各自課題曲24(仕上げ)	豊かな響きで内容 を表現できるよう に練習する	録音した自分の 演奏を聴き課題を 確認する
14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容につ いて考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱 練習を行う	伴奏を含めてどう 表現したいかをま とめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	器楽実技研究Ⅴ(	ピアノ)		科目ナンバリング	PS3M1C13			
担当者	眞鍋 協子 他							
担当形態	クラス分け			単位数	2単位			
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次			
開講時期	前期	前期						
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー			
選択・必修区分	*				ABCDE			
備考	※ピアノコース必修							
	1							

1 用 右	~ L /	次にアノコーへ必修							
授業のテーマ及び 到達目標	練習日	練習曲というジャンルを通して多くの作曲家に触れ、ピアノ技術の新しい視野を開くことを目標とする							
授業の概要	高度な	「度な技術を目指して、難易度の高い練習曲を習得する。特に、ロマン派以降の練習曲に取り組む							
	□	学習内容	事前学習	事後学習					
授業計画	1	セメスターの授業計画を立てる		指示された事柄について練習を進める					
	2	ロマン派から近現代の練習曲について学ぶ	ロマン派の練習曲 にはどのような曲 があるのか調べる	後期ロマン派の 時代背景を知る					
	3	読譜と分析① ロマン派の時代背景を中心に学修する	読譜の徹底	技術の向上を目 指す					
	4	読譜と分析② ロマン派の様式を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求					
	5	課題曲の構成 奏法を中心に学修する	課題曲の時代背 景を調べる	指示された事柄に ついて練習を進 める					
	6	課題曲の読譜 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練 習する	楽曲分析					
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	奏法の追求	指示された事柄に ついて練習を進 める					
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	転調を意識して練習					

9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
10	課題曲を分析する④ 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強 弱をつける	技術の徹底
11	課題曲を分析する⑤ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音 色作り	音色の追求
12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和
14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄に ついて練習を進 める
15	総括	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員での採点)

科目名	器楽実技研究VI(ピアノ)			科目ナンバリング	PS3M1C14		
担当者	眞鍋 協子 他						
担当形態	クラス分け			単位数	2単位		
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次		
開講時期							
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー		
選択・必修区分	*				ABCDE		
備考	※ピアノコース必修	※ピアノコース必修					
授業のテーマ及び 到達目標		é曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を をね備えられている。古典派、ロマン派の音楽と比較しながら、近・現代の音楽を把握できる					

備考	жピ7	アノコース必修								
授業のテーマ及び 到達目標		後曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を 様ね備えられている。古典派、ロマン派の音楽と比較しながら、近・現代の音楽を把握できる								
授業の概要		学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。近・現代の楽曲を通してその特徴を理解し、感性豊かな音楽 作りを目指す								
	回	学習内容	事前学習	事後学習						
授業計画	1	セメスターの学習計画を立てる 近・現代の作曲家についてについて学ぶ	レッスンまでに1曲 完成させておく	指示された事柄に ついて練習を進 める						
		近・現代の作品について① 近・現代の作品を聴く	近・現代の作品を聴く	近・現代の時代背 景を復習する						
	3	近・現代の作品について② 楽曲を決め読譜と分析を行う	指示された内容まで到達するよう練 習する	近・現代の音階を 考えて練習						
	4	課題曲の構成① 和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求						
		課題曲の構成② 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄に ついて練習を進 める						
	6	課題曲の読譜 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練 習する	楽曲分析						
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	近・現代の奏法を 作曲家に即して練 習							
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練 習						

9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
10	課題曲を分析する④ 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強 弱をつける	技術の徹底
11	課題曲を分析する⑤ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音 色作り	音色の追求
12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和
14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄に ついて練習を進 める
15	総括	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員での採点)

科目名	器楽	実技研究Ⅷ(	ピアノ)		科目ナンバリング	PS3M1C15		
担当者	眞鍋	協子 他						
担当形態	クラン	ス分け			単位数	2単位		
対象学科	音楽学科				開設学年	4年次		
開講時期	前期	前期						
	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー	
選択•必修区分		*				ABCDEF		
備考	※ピフ	アノコース必修						
授業のテーマ及び 到達目標	学内演奏(公開)を経験することにより、演奏技術を更に向上させる。演奏家・教育者・ピアノ指導者として、卒業後、活動可能となる素養を身に付けることを目標とする					指導者として、卒		
授業の概要	学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。曲目の選定は自由とし、個人の適正に応じた任意の楽曲に取り組む。3年次までに修得した楽曲分析および技術を反映させながら独自の演奏を完成させる							
	回		学習	引内容		事前学習	事後学習	
授業計画	4年次の研究テーマを決める① 研究内容についての時代背景を学ぶ			 :学ぶ		テーマを探す	指示された事柄に ついて練習を進 める	
	2	4年次の研究テ 研究内容につい	ーマを決める② へての様式を中心	小に学ぶ		テーマとなる作品 を聴く	時代背景・様式を 復習する	

読譜を中心とする

和声感を身に着け

課題曲の様式を 調べる

指示された内容ま

で到達するよう練

近・現代の奏法を

作曲家に即して練

和声を調べる

習する

練習

形式を調べる

奏法の追求

指示された事柄に

指示された事柄に ついて練習を進 める

和声を意識して練 習

ついて練習を進 める

楽曲分析

楽曲の読譜と分析①

形式を中心に学修する

楽曲の読譜と分析② 和声を中心に学修する

研究テーマ曲の読譜

研究テーマ曲の分析①

形式を中心に学修する

研究テーマ曲の分析②

奏法を中心に学修する

音楽的表現の追求①

和声を中心に学修する

時代背景・様式を中心に学修する

3

4

6

7

8

9	音楽的表現の追求② 強弱を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	音楽的表現の追求③ 和声を中心に学修する	楽譜をよく見て強 弱をつける	読譜の徹底
11	音楽的表現の追求④ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音 色作り	音色の追求
12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和
14	公開演奏の心構えと準備・ホールの響きを踏まえた表現法	表現法を工夫して練習	指示された事柄に ついて練習を進 める
15	公開演奏の心構えと準備・総括	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書·参考資料等	

成績評	価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員による採点)

科目名	器楽実技研究垭(	ピアノ)		科目ナンバリング	PS3M1C16		
担当者	真鍋 協子 他						
担当形態	クラス分け 単位数 2単位						
対象学科	音楽学科 開設学年 4年次						
開講時期	後期						
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー		
	*				ABCDEF		
備考	※ピアノコース必修			•			
授業のテーマ及び 卒業試験(公開)を経験することにより、演奏技術を更に向上させる。演奏家・教育者・ピアノ指導者として、卒 到達目標 業後、活動可能となる素養を身に付けることを目標とする							

授業のテーマ及び 到達目標  空業試験(公開)を経験することにより、演奏技術を更に向上させる。演奏家・教育者・ピアノ指導者として、卒業後、活動可能となる素養を身に付けることを目標とする  学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。曲目の選定は自由とし、個人の適正に応じた任意の楽曲に取り組む。3年次までに修得した楽曲分析および技術を反映させながら独自の演奏を完成させる  回 学習内容 事前学習 事後学習 指示された事柄ついての時代背景を学ぶ プーマの楽曲についての時代背景を学ぶ デーマとなる作品 時代背景・様式復習する  3 解究テーマの楽曲を学ぶ② デーマとなる作品 を聴く おままして、発音を中心とする 様置 新式を中心に学修する 様置 和声感を身に着ける ポオを中心に学修する 和声感を身に着ける 教習	1 開
取り組む。3年次までに修得した楽曲分析および技術を反映させながら独自の演奏を完成させる   回   学習内容   事前学習   事後学習   日   研究テーマの楽曲を学ぶ①	
担業計画   1	授業の概要
1 研究内容についての時代背景を学ぶ	
2 研究内容についての様式を中心に学ぶ を聴く 復習する 復習する 楽曲の読譜と分析①	授業計画
お式を中心に学修する   練習   お式を調べる   検習   お式を調べる   和声感を身に着け   本はの泊せ	
4 楽曲の読譜と分析② 和声を中心に学修する 和声感を身に着ける 表法の追求	
研究テーマ曲の読譜   課題曲の様式を   指示された事柄ついて練習を進める	
6 研究テーマ曲の分析① 指示された内容まで到達するよう練 楽曲分析 習する	
7 研究テーマ曲の分析② 奏法を中心に学修する 近・現代の奏法を 作曲家に即して練 のいて練習を進 める	
8 音楽的表現の追求① 和声を中心に学修する 和声を調べる 習	

9	音楽的表現の追求② 強弱を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	音楽的表現の追求③ 和声を中心に学修する	楽譜をよく見て強 弱をつける	読譜の徹底
11	音楽的表現の追求④ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音 色作り	音色の追求
12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和
14	公開演奏の心構えと準備・ホールの響きを踏まえた表現法	表現法を工夫して練習	指示された事柄に ついて練習を進 める
15	公開演奏の心構えと準備・総括	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書·参考資料等	

成績評	価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員による採点)

科目名	器楽実技研究 V (管弦打) 科目ナンバリング					PS3M1C13		
担当者	馬込	、勇•柏尾 岡	川徳 他					
担当形態	クラ	ス分け			単位数	2単位		
対象学科	音楽	·····································			開設学年	3年次		
開講時期	前期	前期						
	]	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー	
選択·必修区分		必修				AB	DE	
備考	※管	弦打楽コース必修	多					
到達目標  授業の概要	今までやってきたことを確信へと変えることができる 3年次は1・2年次で身に付けた基礎力を基に、応用・実践という段階に入る。エチュード(オーケストラスタディ 含)の種類も増やし、難易度を上げていく							
	回 学習内容				事前学習	事後学習		
授業計画	1 前期の学習計画および内容の確認 他					事前に考えておく	学修内容の確認 と復習	
	2 実技試験用ソロ曲の選定					候補曲を考えてお く	学修内容の確認 と復習	
	エチュードおよびソロ曲① (エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)					研究および練習	学修内容の確認 と復習	
	4 エチュードおよびソロ曲② (エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)				忍 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習	
	5 エチュードおよびソロ曲③ (エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)				研究および練習	学修内容の確認 と復習		

エチュードおよびソロ曲④

エチュードおよびソロ曲⑤

エチュードおよびソロ曲⑥

6

7

8

他)

(エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認

(エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)

(エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)

研究および練習

研究および練習

研究および練習

と復習

と復習

と復習

学修内容の確認

学修内容の確認

学修内容の確認

9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
10	エチュードおよびソロ曲® (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わ せをしておく	反省を基に伴奏 合わせをする
14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、 更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの 課題を修正する	反省を基に伴奏 合わせをする
15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※ 無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加 え、更に音楽性自 体も高める	実技試験の総括 と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	前期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	器楽	B楽実技研究Ⅵ(管弦打) 科目ナンバリング PS3M1C14					
担当者	馬込	. 勇•柏尾 岡	川徳 他				
担当形態	クラ	ス分け			単位数	2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期						
240.24.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.	- 3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		必修				AB	DE
備考	※管	炫打楽コース必何	多				
授業のテーマ及び到達目標	今まで できる	でやってきたことを らようになる	を確信へと変化さ	5せ、更に初見能	力や、音楽に対す	極的に挑戦し、スキル るあらゆる適応力を  、る。エチュード(オ-	を身に付けることが
授業の概要	含)の	種類も増やし、糞	維易度を上げてい	、く。同時にソロ曲	由を複数挑むことも	視野に入れる	
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	前期の反省と後	期の展望につい	て他		前期の反省と後期 の展望を考えてお く	学修内容の確認 と復習
	2	実技試験用ソロ	曲の選定			候補曲を考えてお く	学修内容の確認 と復習
	3	エチュードおよて (エチュード課題		通し・音やtempoの	の確認)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	3	(エチュード課題	1後、ソロ曲の粗) 	通し・音やtempoの		研究および練習研究および練習	
	4	(エチュード課題 エチュードおよて (エチュード課題 エチュードおよて	後、ソロ曲の粗i バソロ曲② i後、ソロ曲の流な がソロ曲③		忍 他)		と復習 学修内容の確認
	4 5	(エチュード課題 エチュードおよて (エチュード課題 エチュードおよて (エチュード課題 エチュードおよて	i後、ソロ曲の粗i がソロ曲② i後、ソロ曲の流が がソロ曲③ i後、ソロ曲のダイ がソロ曲④	れについての確認	② 他)	研究および練習	と復習 学修内容の確認 と復習 学修内容の確認
	5	エチュード課題 エチュードおよて (エチュード課題 エチュードおまて (エチュード 課題 エチュード 課題 エチュード およて	後、ソロ曲の粗i がソロ曲② i後、ソロ曲の流が がソロ曲③ i後、ソロ曲のダイ がソロ曲④ がソロ曲のアー	れについての確認	忍 他) 他) ヨン等の確認	研究および練習研究および練習	と復習 学修内容の確認 と復習 学修内容の確認 と復習 学修内容の確認 と復習

9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
10	エチュードおよびソロ曲® (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わ せをしておく	反省を基に伴奏 合わせをする
14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、 更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの 課題を修正する	反省を基に伴奏 合わせをする
15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※ 無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加 え、更に音楽性自 体も高める	実技試験の総括 と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	器楽	実技研究Ⅷ(	管弦打)		科目ナンバリング	PS3M1C15		
担当者	馬込	、勇•柏尾 岡	川徳 他		•			
担当形態	クラ	ス分け			単位数	2単位		
対象学科	音楽	 学科			開設学年	4年次		
開講時期	前期	]				<u> </u>		
A77 I		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	ディプロマポリシー	
選択•必修区分		必修 ABDE					DE	
備考	※管	弦打楽コース必何	<b>参</b>		'			
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	を存 きる 4年2	かに発揮すること では1・2・3年次で	が求められる。高	いところに目標の の集大成となる	を定め、挑戦し続	をに集大成としてこれ けるという積極性と	精神を養うことがで	
	回		学習	内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1	前期の学習計画	面および内容の確	摇認 他		事前に考えておく	学修内容の確認 と復習	
	2	学内演奏会(前	期実技試験)用い	/ロ曲の選定		候補曲を考えておく	学修内容の確認 と復習	
	3	エチュードおよて (エチュード課題	バソロ曲① 〔後、ソロ曲の粗〕	到 ·辛かtompo		研究および練習	学修内容の確認 と復習	
				曲C-目 (effellibo	の確認)			
	4	エチュードおよて (エチュード課題	バソロ曲② 後、ソロ曲の流れ			研究および練習		
	Ė	(エチュード課題 エチュードおよび	i後、ソロ曲の流ね	れについての確認	認 他)		学修内容の確認	
	5	(エチュード課題 エチュードおよて (エチュード課題 エチュードおよて	後、ソロ曲の流れ バソロ曲③ 1後、ソロ曲のダイ	れについての確認	認 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習 学修内容の確認	
	5	(エチュード課題 エチュードおよて (エチュード課題 エチュード課題 他)	後、ソロ曲の流が がソロ曲③ i後、ソロ曲のダイ がソロ曲④ i後、ソロ曲のアー	れについての確認	認 他) 他)	研究および練習研究および練習	学修内容の確認 と復習 学修内容の確認 と復習 学修内容の確認	

9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
10	エチュードおよびソロ曲® (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わ せをしておく	反省を基に伴奏 合わせをする
14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、 更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの 課題を修正する	反省を基に伴奏 合わせをする
15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※ 無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加 え、更に音楽性自 体も高める	実技試験の総括 と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	器楽	実技研究垭(	管弦打)	<u> </u>	科目ナンバリング	PS3M1C16	
担当者	馬込	、勇•柏尾 岡	川徳 他				
担当形態	クラン	ス分け			単位数	2単位	
 対象学科	音楽	 学科			開設学年	4年次	
開講時期	後期	]					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択•必修区分		必修 ABI					DE
備考	※管	弦打楽コース必何	<b>多</b>		•		
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	ととな に目 <sup>4</sup> 4年が 独創 <sup>1</sup>	る。前期同様、i 標を定め、挑戦し では1・2・3年次で	きさに集大成とし、 続けるという積を で身に付けたこと 野にもまたがり、	てこれまで学修し 極性と精神を養う の集大成となる。 社会に出る準備	たことを存分に発 ことができるように 。 従って、プロの演	はさらに「卒業演奏 揮することが求めら なる 「奏家としての心構え スンを行う。後期は	れる。高いところ
	回		学習	门内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	前期の反省と後	期の計画につい	て他		前期の反省と後期 の目標を考えてお く	学修内容の確認 と復習
	2	実技試験用ソロ	曲の選定			候補曲を考えておく	学修内容の確認 と復習
	3	エチュードおよて				研究および練習	学修内容の確認
		(エナュート 誄越   	後、ソロ曲の粗力	通し・音やtempoo	の確認)	別元63607家日	と復習
	4	エチュードおよて				研究および練習	
		エチュードおよて (エチュード課題 エチュードおよて	バソロ曲② 〔後、ソロ曲の流々	れについての確認	認 他)		と復習 学修内容の確認
	5	エチュードおよて (エチュード課題 エチュードおよて	バソロ曲② i後、ソロ曲の流z バソロ曲③ i後、ソロ曲のダz	れについての確認	恩 他)	研究および練習	と復習 学修内容の確認 と復習 学修内容の確認 学修内容の確認
	5	エチュードおよて (エチュード課 エチュードおよて (エチュード課 世 (エチュード (エチュード (エチュード (エチュード (エチュード (エチュード (エチュード (エチュードおよて	バソロ曲② i後、ソロ曲の流が バソロ曲③ i後、ソロ曲のダイ バソロ曲④ i後、ソロ曲のアー	れについての確認 イナミクスの確認 ーティキュレーシ:	認 他) 他)	研究および練習研究および練習	と復習 学修内容の確認 と復習 学修内容の確認 学修内容の確認 学修内容の確認

9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
10	エチュードおよびソロ曲® (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わ せをしておく	反省を基に伴奏 合わせをする
14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、 更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの 課題を修正する	反省を基に伴奏 合わせをする
15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※ 無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加 え、更に音楽性自 体も高める	実技試験の総括 と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	創作	創作応用演習 V (作曲)			科目ナンバリング	CR3M1N21	
担当者	西林	は 博子 他				,	
担当形態	複数	Ţ			単位数	2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	l					
選択・必修区分	:	卒業要件 教職課程 保育士			音楽療法	ディプロマ	アポリシー
		<b>₩</b>				AB	CD
備考 	※作曲コース必修						
授業のテーマ及び 到達目標	豊かフ	宇曲・編曲の全般に必要な確かな知識と技術をさらに主体的に習得し、幅度がな感性と創造性を作曲と編曲を通じて表現し、創作を通じて自己表現				見をし、コミュニケー	ションを行う
授業の概要	のコー の楽! ロマン	.和声学a(和声実習)/2.和声学b(コラール分析・演奏)/3.コード進行(クラシックだけでなくポピュラーの楽曲 Dコード進行を分析)/4.鑑賞(週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成する)/5.編曲 クラシック、ポピュラ・ D楽曲をピアノ、室内楽に編曲し、演奏する/6.即興演奏法/7.作曲実習/8.楽曲アナリーゼ(バロック、古典 コマンの楽曲を分析)/9.管弦楽法(室内楽)/10.対位法(パレストリーナスタイル、カノン、フーガまで)/11.フ コアリーディング(管弦楽、室内楽(総譜)の視奏・分析)					ラシック、ポピュラー ゼ(バロック、古典、
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	創作応用演習 V 課題の目標と取				自作品の創作、創作の制作、創作応用演習IV全般の復習	課題の練習、演 習、鑑賞
	2	伴奏付け・即興 (近親転調終止	演奏・和声実習 形による調の判!	定)		課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	3	伴奏付け・即興 (近親転調バス		課題実習、鑑賞 (レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	4	伴奏付け・即興 (ソプラノ近親転				課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習
	5					課題実習、鑑賞 (レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習
	6			()		課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	7			ベスク)		課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習
	(ソフラン近親転調の美音)    楽曲アナリーゼ(ピアノ曲)   ブルグミュラー25の練習曲(牧歌)				課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	

9	楽曲アナリーゼ(室内楽曲) アイネクライネナハトムジーク	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
10	楽曲アナリーゼ(室内楽曲) アイネクライネナハトムジーク	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
12	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
13	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
14	自作曲のレッスン、記譜について④ 演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
15	創作応用演習Ⅴのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試 験のための課題 演習

使用教科書	和声 II 理論と実習(音楽之友社),
	新総合音楽講座5コード進行表(ヤマハ),
	コラール名曲集(全音楽譜出版社),
	管弦楽法(音楽之友社),
	名曲で学ぶ対位法(音楽之友社)
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出
	課題/レポート	10%	鑑賞レポート(週3曲以上)
	平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作	応用演習VI	(作曲)		科目ナンバリング	CR3M1N23	
担当者	西林	互林 博子 他					
担当形態	複数	Į.			単位数	2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	]			•		
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
選択・必修区分		*				AB	CD
備考	※作	曲コース必修					
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	豊か 1.和戸 の楽! ロマン	な感性と創造性を を学a(和声実習) ード進行を分析) 曲をピアノ、室内 ンの楽曲を分析)	を作曲と編曲を通 /2.和声学b(コラ/4.鑑賞(週3曲) 楽に編曲し、演奏	届広いジャンルの音 見をし、コミュニケー フラシックだけでなく する) / 5.編曲 クラ 習 / 8.楽曲アナリー・ - スタイル、カノン、フ	ションを行う 		
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	VIの学修課題内容の説明。課題の目標と取り総 自作品の創作。V全般の復習			み方について。	自作品の創作、創作応用演習IV全 般の復習	課題の練習、演 習、鑑賞
	2	楽曲アナリーゼ (吹奏楽曲課題	・スコアリーディン 1)	ノグ		課題実習、鑑賞 (レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習
	3	楽曲アナリーゼ (吹奏楽曲課題	・スコアリーディン 2)	ノグ		課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	4	楽曲アナリーゼ・スコアリーディング (管弦楽曲課題1)				課題実習、鑑賞 (レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習
	5	楽曲アナリーゼ (管弦楽曲課題	・スコアリーディン 2)	ノグ		課題実習、鑑賞 (レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習
	6	即興・対位法・和声実習 (準固有和音調バス)				課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	7	即興・対位法・和声実習 (準固有和音調ソプラノ)				課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習

9	即興・対位法・和声実習 (固有和音同主調ソプラノ)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
11	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について③ 移調について	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
13	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
14	自作曲のレッスン、記譜について④ 演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
15	創作応用演習VIのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試 験のための課題 演習

使用教科書	和声 II 理論と実習(音楽之友社),
	新総合音楽講座5コード進行表(ヤマハ),
	コラール名曲集(全音楽譜出版社),
	管弦楽法(音楽之友社),
	名曲で学ぶ対位法(音楽之友社)
参考書‧参考資料等	

成績評	F価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出
		課題/レポート	10%	鑑賞レポート(週3曲以上)
		平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作	創作応用演習Ⅷ(作曲) 科目ナンバリン				CR3M1N23		
担当者	西林	互体 博子 他						
担当形態	複数	复数 単位				2単位		
対象学科	音楽	· 楽学科 開設				4年次		
開講時期	前期	1						
選択・必修区分		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー	
医扒 必修区方		*				AB	CD	
備考	※作	曲コース必修						
授業のテーマ及び 到達目標	個性	由・編曲の全般に必要な確かな知識と技術をさらに主体的に習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターする 生豊かな作品(作曲作品、編曲作品)を制作し、作品を通じて、奏者や聴衆と音楽的コミュニケーションを行う で、自己の成長と音楽の美しさを追求し、地域社会の音楽文化の発展に寄与する						
授業の概要	のコー の楽 ロマン	.和声学a(和声実習) / 2.和声学b(コラール分析・演奏) / 3.コード進行(クラシックだけでなくポピュラーの楽曲 のコード進行を分析) / 4.鑑賞(週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成する) / 5.編曲 クラシック、ポピュラー の楽曲をピアノ、室内楽に編曲し、演奏する / 6.即興演奏法 / 7.作曲実習 / 8.楽曲アナリーゼ (バロック、古典、 コマンの楽曲を分析) / 9.管弦楽法(室内楽) / 10.対位法 (パレストリーナスタイル、カノン、フーガまで) / 11.ス コアリーディング (管弦楽、室内楽 (総譜) の視奏・分析)						
	回	学習内容			事前学習	事後学習		
授業計画	1		Ⅲの学修課題内? スり組み方につい	自作品の創作、創作の制作、創作の用演習IV全般の復習	課題の練習、演 習、鑑賞			
	2	2 即興·対位法 和声実習(借用和音)①				課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習	
	3	即興·対位法 和声実習(借用	和音)②	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習			
	4	即興·対位法 和声実習(借用	和音)③			課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習	
	5	音楽形式(ソナケ	タ形式)理論〜実	2署①		課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	
	6	6 音楽形式(ソナタ形式)理論~実習②				課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	
		7 音楽形式(ソナタ形式)理論~実習③				課題実習、鑑賞		
	7	音楽形式(ソナク	夕形式)理論~実	2習3		(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	

9	楽曲アナリーゼ(近代作品)② ラヴェル ソナチネ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習
10	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習
11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
12	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について③ 移調について	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
13	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について④ 楽譜の仕上げ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について⑤ 演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
15	創作応用演習Ⅶのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試 験のための課題 演習

使用教科書	和声 II 理論と実習(音楽之友社),
	新総合音楽講座5コード進行表(ヤマハ),
	コラール名曲集(全音楽譜出版社),
	管弦楽法(音楽之友社),
	名曲で学ぶ対位法(音楽之友社)
参考書•参考資料等	

成績評	F価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出
		課題/レポート	10%	鑑賞レポート(週3曲以上)
		平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作	=応用演習Ⅷ(	(作曲)		科目ナンバリング	CR3M1N24		
担当者	西林	は 博子 他						
担当形態	複数	ζ			単位数	2単位		
対象学科	音楽	 <b>学</b> 科			開設学年	4年次		
開講時期	後期	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
選択・必修区分		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー		
		* ABCDEF						
備考	※作	曲コース必修						
授業のテーマ及び 到達目標	個性語	豊かな作品(作曲 ミ、自己の成長と	3作品、編曲作品 音楽の美しさを追	)を制作し、作品 選求し、地域社会の	を通じて、奏者や! の音楽文化の発展		ニケーションを行う	
授業の概要	のコー の楽E ロマン	ード進行を分析)。 曲をピアノ、室内:	/4.鑑賞(週3曲以 楽に編曲し、演奏 /9.管弦楽法(室	以上の楽曲を鑑賞 §する/6.即興演 内楽)/10.対位	賞・レポートを作成 !奏法/7.作曲実習 法(パレストリーナ	フラシックだけでなく する)/5.編曲 クラ 3/8.楽曲アナリー・ スタイル、カノン、フ	ラシック、ポピュラー ゼ(バロック、古典、	
	□		学習	内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1		Ⅲの学修課題内? 以組み方につい			自作品の創作、創 作応用演習™全 般の復習	課題の練習、演 習、鑑賞	
	2	即興·対位法·和 (内部変換)	口声実習			課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習	
	3		3 即興·対位法·和声実習 (構成音の転位)			課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習	
	4	即興・対位法・利 (構成音の転位	ロ声実習 、休符、アウフタ <u>・</u>	<b>クト</b> )		課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習	
	4		、休符、アウフタ	<b>クト</b> )		(レポート作成)、 楽曲アナリーゼ 課題実習、鑑賞	課題復習課題復習	
	5	(構成音の転位 即興・対位法	、休符、アウフタ·  進行)①	<b>クト</b> )		(レポート作成)、楽曲アナリーゼ 課題実習、鑑賞 (レポート作成)、楽曲アナリーゼ 課題実習、鑑賞		
	5	(構成音の転位 即興・対位法 和声実習(反復 即興・対位法	、休符、アウフタ· 進行)① 進行)②	<b>クト</b> )		(レポート作成)、 楽曲アナリーゼ 課題実習、鑑成 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ 課題実習、鑑成 実曲アナリーゼ 課題実別、鑑成 (レポアナリーゼ 課題実習、鑑賞	課題復習	

9	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
10	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
11	自作曲・自編曲のレッスン、記譜について③ 移調について	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習
12	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について④ 楽譜の仕上げ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
13	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について⑤ 効果的な音響・PAについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
14	自作曲・自編曲のレッスン、記譜、演奏について⑥ 演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 (レポート作成)、 楽曲アナリーゼ	課題復習
15	創作応用演習Ⅷのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試 験のための課題 演習

使用教科書	和声 II 理論と実習(音楽之友社),
	新総合音楽講座5コード進行表(ヤマハ),
	コラール名曲集(全音楽譜出版社),
	管弦楽法(音楽之友社),
	名曲で学ぶ対位法(音楽之友社)
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出
	課題/レポート	10%	鑑賞レポート(週3曲以上)
	平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作応用演習 V (電子キーボード) 科目ナンバリング				CR3M1N21		
担当者	中村 真貴						
担当形態	複数			単位数	2単位		
対象学科	音楽学科開設学年			3年次			
開講時期	前期	朝					
	卒業要何	件 教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー	
選択•必修区分	*	* ABCDEF					
備考	※電子キーボー	ードコース必修					
授業のテーマ及び 到達目標	中で、アイデン 力を入れる。 a.リダクション- b.トランスクリフ c.アレンジメント	子キーボードの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していくで、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。編曲にを入れる。  Jダクション→原曲のイメージを忠実に電子キーボードに再現  ランスクリブション→原曲の本質を損わず、電子キーボード独自の作品に書き直す  アレンジメント、パラフレーズ→編曲者の創造力によって原曲を自由に発展させる  攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。					
授業の概要	能、レジストレ-	・ション、いぶんと内容か ーション、リズムと内容か ベント等に積極的に参加	(多岐にわたる。	5,,,,,,,,,	<b>ン                                    </b>	が	
	回	学習	了内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1 前期の摂	テーション 受業計画 各学生の目標 戦の確認 コードの復習	票∙課題		シラバス確認	課題の習得・練習	
	2 ドミナント	ルト、即興(イントロ、エン・・モーションD型 冬1①譜読みと簡単な音		ーフ、カデンツ・	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	
	3 ドミナント	ルト、即興(イントロ、エン・・モーションS型 冬1②テクニック的な問題		ーフ、カデンツ・		課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	
	- 4						
	1 /1 1	ルト、即興、モチーフ、カ を1③サウンドと演奏のす		モーションD型	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	
	4 楽曲演奏		ŧとめ 		多くの音楽を聴く 課題の習得・練習	多くの音楽を聴く	
	4 楽曲演奏 ラインハ 多 ラインハ 6 型左手タ	を1③サウンドと演奏のまれた。即興、モチーフ、力 を2①譜読みと簡単な音 ルト、即興、モチーフ、カ	まとめ コデンツ・Ⅱ -IV・モ 色設定 コデンツ・Ⅱ -IV・モ	ションS型	多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習	多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	
	4 楽曲演奏 5 ラ楽 フーンハ演奏 フーン・フーン・フーン・フーン・フーン・フーン・フーン・フーン・フーン・フーン・	を1③サウンドと演奏のまれた、即興、モチーフ、力を2①譜読みと簡単な音ルト、即興、モチーフ、カタイプを2②テクニック的な問題ルト、即興、モチーフ、カルト、即興、モチーフ、カルト、即興、モチーフ、カ	まとめ コデンツ・II - IV・モ 色設定 コデンツ・II - IV・モ 夏の克服	÷一ションS型 ÷一ションD型&S	多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習	

9	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、初見連弾①ポピュ ラー 試験曲①アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
10	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、初見連弾②クラ シック 試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
11	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、初見連弾③管弦楽 試験曲④アレンジ仕上げ(テクニック面の克服)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
12	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、視奏①弦楽四重奏 試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏(テクニック面の克服)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
13	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、視奏②弦楽四重奏 試験曲⑥音色・演奏表現の向上(音色に伴う演奏法の確認)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
14	ラインハルト試験曲、パイプオルガン、即興、モチーフ、視奏③室 内楽編成 試験曲⑦音色・演奏表現の向上	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
15	ラインハルト・パイプオルガン試験曲のまとめ、即興、モチーフ、視奏④小編成オーケストラ 試験曲⑧試験曲の全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験問題の練習	実技試験の準備

使用教科書	ラインハルトオルガン教本50番(音楽之友社),
	新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ),
	その他、楽譜等をレッスン時に指定
参考書•参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい練習

科目名	創作応用演習VI(電子キーボード) 科			科目ナンバリング	CR3M1N22	
担当者	中村 真貴					
担当形態	複数			単位数	2単位	
対象学科	音楽学科開			開設学年	3年次	
開講時期	後期	·····································				
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法ディプロマポ		7ポリシー
選択•必修区分	*	* ABCDEF				
備考	※電子キーボードコー	ス必修				
授業のテーマ及び 到達目標	中で、アイデンティティ 力を入れる。 a.リダクション→原曲の b.トランスクリプションー c.アレンジメント、パラフ	子キーボードの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していくで、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。編曲にを入れる。 リダクション→原曲のイメージを忠実に電子キーボードに再現トランスクリプション→原曲の本質を損わず、電子キーボード独自の作品に書き直すアレンジメント、パラフレーズ→編曲者の創造力によって原曲を自由に発展させる 攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。				
授業の概要	ディンハルト、デジーツ 能、レジストレーション コンクール、イベント等	、リズムと内容が	多岐にわたる。	らソフンツク、オリ	<b>ン)ル、成成の曲、</b>	禰田、朱命の依
	回	学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	基礎知識の確認	画 各学生の目標・			シラバス確認	課題の習得・練習
	2 自作曲への取り	興(イントロ、エン 組み②オルガン& 読みと簡単な音も	編曲	<b>ー</b> フ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	ラインハルト、即	興(イントロ、エン	·ディング)、モチ·	一フ	課題の習得・練習	課題の習得・練習
	3 変奏曲①非和声					多くの音楽を聴く
	3 変奏曲①非和声楽曲演奏1②ティンハルト、即 変奏曲②変奏の	音音 クニック的な問題(  J興、モチーフ	の克服			多くの音楽を聴く
	3 変奏曲①非和声楽曲演奏1②ティンハルト、即変奏曲②変奏の楽曲演奏1③サーフインハルト、即変奏曲③応用と変奏曲③応用と	音音 クニック的な問題 一 「興、モチーフ )方法と分類 ウンドと演奏のま ー	の克服 とめ		多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習	多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	3 変奏曲①非和声楽曲演奏1②テーター フィンハルト、即変奏曲②変奏の楽曲演奏1③サーク・フィンハルト、即変奏曲③応用と楽曲演奏2①譜 フィンハルト、即変奏曲④モーツ変奏曲④モーツ	音音 クニック的な問題 「興、モチーフ )方法と分類 ウンドと演奏のま 「興、モチーフ ・一頭で発音を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の克服とめ		多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習	多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	3 変奏曲①非和声楽曲演奏1②テータ	音 クニック的な問題の	の克服 とめ 色設定 の克服		多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習	多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く

	9	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ 変奏曲⑦テーマの実作 試験曲②アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	10	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ 変奏曲⑧変奏の実作 試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	11	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ 変奏曲⑨実作のレッスン 試験曲④アレンジ仕上げ(テクニック面の克服)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	12	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ 即興①非和声音の様々な手法 試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏(テクニック面の克服)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	13	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ 即興①非和声音の様々な手法 試験曲⑥音色・演奏表現の向上(音色に伴う演奏法の確認)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	14	ラインハルト試験曲、パイプオルガン、即興、モチーフ 即興②リハモナイズの研究 試験曲⑦音色・演奏表現の向上	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	15	ラインハルト・パイプオルガン試験曲のまとめ、即興、モチーフ 試験曲®試験曲の全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験問題の練習	実技試験の準備

使用教科書	ラインハルトオルガン教本50番(音楽之友社),		
	新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ),		
	その他、楽譜等をレッスン時に指定		
参考書•参考資料等	算エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)		

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい練習

科目名	創作応用演習Ⅷ(電子キーボード)			科目ナンバリング	CR3M1N23	
担当者	中村 真貴					
担当形態	複数			単位数	2単位	
対象学科	音楽学科	音楽学科			4年次	
開講時期	前期					
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
選択•必修区分	*				ABC	DEF
備考	※電子キーボードコー	ス必修				
授業のテーマ及び 到達目標	電子キーボードの演奏中で、アイデンティティカを入れる。 a.リダクション→原曲の b.トランスクリプションー c.アレンジメント、パラフ	をもった自分自身 ロイメージを忠実に →原曲の本質を損フレーズ→編曲者	の音楽表現を追電子キーボート おず、電子キー の創造力によっ	当求し、音楽を通し に再現 ボード独自の作品 て原曲を自由に	、て人間性豊かな情 品に書き直す	
授業の概要	ラインハルト、テクニッ 能、レジストレーション コンクール、イベント等	ク、即興、モチーフ 、リズムと内容が	7、ポピュラーか 多岐にわたる。		ジナル、既成の曲、	編曲、楽器の機
	回	学習[	内容		事前学習	事後学習
授業計画	オリエンテーション 1 前期の授業計画 公開試験について グレード対策①				シラバス確認	課題の習得・練習
	2 グレード対策② 自作曲①大まかなフレーズ、ハーモニー、構成				課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
					課題の習得・練習	
	目作曲(2)レジス	トの方向性とオフ	リガード		多くの音楽を聴く	多くの音楽を聴く 
	目作曲②レジス   グレード対策④   4 楽曲アナリーゼ   自作曲③リズム	・スコアリーディンク			課題の習得・練習多くの音楽を聴く	
	グレード対策④ 4 楽曲アナリーゼ 自作曲③リズム グレード対策⑤ 条曲アナリーゼ	・スコアリーディンク	ゲ② ゲ③		課題の習得・練習多くの音楽を聴く	課題の習得・練習多くの音楽を聴く
	4 グレード対策④ 楽曲アナリーゼ 自作曲③リズム グレード対策⑤ 楽曲アナリーゼ 自作曲④レジス グレード対策⑥ 楽曲アナリーゼ	・スコアリーディン: 等の構成 ・スコアリーディン:	ゲ② ゲ③ Marian		課題の習得・練習多くの音楽を聴く 課題の習得・練習多くの音楽を聴く 課題の習得・練習	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	4 グレード対策④ 楽曲アナリーゼ 自作曲③リズム グレード対策⑤ 楽曲アナリーゼ 自作曲④レジス グレード対策⑥ 楽曲アナリーゼ 自作曲⑤テクニ グレード対策⑦ 楽曲アナリーゼ	・スコアリーディン? 等の構成 ・スコアリーディン? トレーションの調素 ・スコアリーディン?	グ② グ③ を グ④ 服		課題の習得・練習多くの音楽を聴く 課題の習得・練習多くの音楽を聴く 課題の習得・練習	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く

9	試験曲②アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
10	試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
11	試験曲④アレンジ仕上げ・テクニック面の確認	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
12	試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色・演奏(テクニック面の克服)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
13	試験曲⑥音色・演奏表現の向上(音色に伴う演奏法の確認)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
14	試験曲⑦音色・演奏表現の向上	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
15	試験曲⑧全体的な仕上げ・楽譜の確認	試験問題の練習	実技試験(公開) の準備

使用教科書	ラインハルトオルガン教本50番(音楽之友社),
	新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ),
	その他、楽譜等をレッスン時に指定
参考書•参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい練習

科目名	創作	応用演習Ⅷ(	電子キーボー	-ド)	科目ナンバリング	CR3M1N24	
担当者	中村	真貴			•		
担当形態	複数	Ţ			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 学科			開設学年	4年次	
———————— 開講時期	後期	]					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
選択•必修区分		*				ABC	DEF
備考	※電	子キーボードコー	-ス必修		'	•	
授業のテーマ及び 到達目標	中で、 力を a.リダ b.トラ c.アレ	アイデンティティ 入れる。 「クション→原曲の ンスクリプション・ ・ンジメント、パラ	をもった自分自身 ロイメージを忠実 →原曲の本質を持 フレーズ→編曲す	身の音楽表現を に電子キーボー 損わず、電子キー 者の創造力によっ	追求し、音楽を通し ドに再現 -ボード独自の作。 って原曲を自由に		
授業の概要	ライン 能、し		ク、即興、モチー、リズムと内容か	(多岐にわたる。		ジナル、既成の曲、	編曲、楽器の機
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーション 後期の授業計画 卒業公開試験について グレード対策①			シラバス確認	課題の習得・練習	
	2	グレード対策②自作曲①大まか	^なフレーズ、ハ-	一モニー、構成		課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	3	グレード対策③ オーケストレージ 自作曲②レジス		ブリガード		課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	4	グレード対策④ オーケストレー: 自作曲③リズム	ンョン②			課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	
	5	グレード対策⑤ オーケストレージ 自作曲④レジス		整		課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	
	6	グレード対策⑥ オーケストレー? 自作曲⑤テクニ		克服		課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	
	7	グレード対策⑦ オーケストレー? 自作曲⑥サウン		か		課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	
							課題の習得・練習

9	試験曲②アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
10	試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
11	試験曲④アレンジ仕上げ・テクニック面の確認	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
12	試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色・演奏(テクニック面の克服)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
13	試験曲⑥音色・演奏表現の向上(音色に伴う演奏法の確認)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
14	試験曲⑦音色・演奏表現の向上	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
15	試験曲⑧全体的な仕上げ・楽譜の確認	試験問題の練習	実技試験(卒業公 開)の準備

使用教科書	ラインハルトオルガン教本50番(音楽之友社),
	新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ),
	その他、楽譜等をレッスン時に指定
参考書•参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい練習

科目名	創作応用演習 V (ミュージックパフォーマンス			科目ナンバリング	CR3M1N21		
担当者	西林	西林 博子 他					
担当形態	複数	ζ			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 <b>学</b> 科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	1					
選択•必修区分		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
进机"必修区方		必修				ABC	DEF
備考	<b>※</b> ミュ	ュージックパフォー	-マンスコース必	修			
授業のテーマ及び 到達目標	Ⅱ 瑪	国々の実力に応じ 見代のニーズにあ 音楽を通して、人「	った演奏感覚を	身に付ける	音楽表現力を身	につける	
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていくまた、専攻の幅広い理解のために、楽器について、歴史について学習する。コード、ハーモニー等の理論について学習し、既存の音楽を自らの専門楽器で表現できるよう編曲する能力、自作曲を創作する				-一等の理論につ		
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーショ 課題・試験曲選				課題曲選曲	課題①練習·基礎 練習
	2	2 課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について				課題①背景について	課題①練習·基礎 練習
	3 課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演		(組み)			課題①アナリーゼ	課題①練習·基礎
	3			ついて			練習
	3		ž)と演奏表現に 			課題①アナリーセ	練習 無習 無限 無限 表表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表
	4	学が(アナリーも 課題①への取り フレーズ、ダイナ	ぎ)と演奏表現に 組み③ -ミクスと表現表も	見について			練習 既成曲①練習·基
	4 5	分析(アナリーセ 課題①への取りフレーズ、ダイナ 課題①のまとめ 既成曲①の編曲 分析(背景・リズ	がと演奏表現に 組み③ -ミクスと表現表記 (A)と演奏表現に (A)と演奏表現に	見について	こついて	課題①アケリーで	練習 既成曲①練習·基 礎練習 既成曲①練習·基
	5	分析(アナリーセ 課題①への取りフレーズ、ダイナ 課題①のまとめ 既成曲①の編曲 分析(背景・リズ	がと演奏表現に 組み③ -ミクスと表現表現 (自) (立)と演奏表現に (立)と演奏表現に (立)と演奏表現に (立)と演奏表現に (立)と演奏表現に	現について こついて 記譜(楽譜制作)に	こついて	課題①アケリーで 課題①のまとめ  既成曲①の編曲  既成曲①の編曲・	練習 既成曲①練習・基 で で で で で で で で で で で で で

9	既成曲②の編曲② 分析(アナリーゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲②の編曲・ 楽譜制作	既成曲②練習·基 礎練習
10	既成曲②の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	既成曲②のまとめ	試験曲練習·基礎 練習
11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	
12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について		試験曲練習·基礎 練習
13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習·基礎 練習
14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習·基礎 練習
15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習•提出 楽譜準備	創作応用演習 V のまとめ VIの準 備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名 ————————————————————————————————————	創作	創作応用演習VI(ミュージックパフォーマンス 科目ナンバリング CR3M1N22					
担当者	西林	西林 博子 他 					
担当形態	複数	Ţ			単位数	2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	I					
<sup>2</sup> 中 . 2 校 豆 八	:	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
選択・必修区分		必修				ABC	DEF
備考	<b>※</b> ミュ	-ージックパフォー	-マンスコース必	修			
授業のテーマ及び 到達目標	Ⅱ 瑪	見代のニーズにあ	、専攻実技の基 5った演奏感覚を 間性豊かな情操		音楽表現力を身	につける	
授業の概要	通して また、	で学び、個々のレ 専攻の幅広い理	パートリーを広け 理解のために、楽	ずていく ≦器について、歴史	こについて学習す	て、専攻実技の基本 る。コード、ハーモニ カ、自作曲を創作す	ニー等の理論につ
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーショ課題・試験曲選			課題曲選曲	課題①練習·基礎 練習	
		<b>調節① • の</b> 取し	<b>紀</b> ユ ①			課題①背景につ	課題①練習・基礎
	2	課題①への取り 分析(背景)と演	を表現について			いて	練習
		分析(背景)と演 課題①への取り	<b>養表現について</b>				練習
	3	分析(背景)と演課題①への取り分析(アナリーも	選奏表現について 川組み② ヹ)と演奏表現に 川組み③ トミクスと表現表:	ついて		いて	練習 課題①練習·基礎 練習
	3	<ul><li>分析(背景)と演</li><li>課題①への取り分析(アナリーも</li><li>課題①への取りフレーズ、ダイカ課題①のまとめ</li><li>既成曲①の編曲</li></ul>	i 要奏表現について が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	ついて 現について		課題①アナリーゼ	練習 課題①練習·基礎 練習 既成曲①練習·基
	3	分析(背景)と演課題①への取り分析(アナリー・社会のでは、まとめて、まとめて、まとめて、まとめて、まとめて、またのでは、またので	選奏表現について 別組み② ぎ)と演奏表現に 別組み③ トミクスと表現表記 は① ぶム)と演奏表現に	ついて 現について	こついて	課題①アナリーゼ 課題①のまとめ  既成曲①の編曲	練習 課題①練習·基礎練習 既成曲①練習·基礎練習 既成曲①練習·基
	3 4 5	分析(背景)と演 課題①への取り 分析(アナリー・1 課題①へ、のあずと のが、まとめのがする。 既成析(背景・リス 既成析(アナリー・1 の編曲での編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の編曲であり、の表面であり、の表面であり、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	選奏表現について 別組み② ヹ)と演奏表現に 別組み③ トミクスと表現表: 由① (ム)と演奏表現( 由②と演奏表現( 由②と演奏表現( 由②と演奏表現(	ついて 現について こついて 記譜(楽譜制作)に	こついて	訳題①アナリーゼ 課題①のまとめ 既成曲①の編曲 既成曲①の編曲・	練習 課題①練習·基礎練習 既成曲①練習·基礎練習 既成曲①練習·基礎練習

9	既成曲②の編曲② 分析(アナリーゼ)と演奏表現、記譜(楽譜制作)について	既成曲②の編曲・ 楽譜制作	既成曲②練習·基 礎練習
10	既成曲②の編曲③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 自編曲のまとめ	既成曲②のまとめ	試験曲練習·基礎 練習
11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	
12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について		試験曲練習·基礎 練習
13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習·基礎 練習
14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習·基礎 練習
15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習•提出 楽譜準備	創作応用演習 V のまとめ VIの準 備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	創作応用演習Ⅷ(ミュージックパフォーマンス 科目			科目ナンバリング	CR3M1N23		
担当者	西林						
担当形態	複数	複数単位数				2単位	
対象学科	音楽	 <b>学</b> 科			開設学年	4年次	
開講時期	前期						
選択・必修区分		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
		必修				ABC	DEF
備考	<b>※</b> ミュ	ュージックパフォー	-マンスコース必	修			
授業のテーマ及び 到達目標	ΠĐ	固々の実力に応じ 見代のニーズにあ 音楽を通して、人「	うった演奏感覚を		音楽表現力を身	につける	
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていくまた、専攻の幅広い理解のために、楽器について、歴史について学習する。コード、ハーモニー等の理論について学習し、既存の音楽を自らの専門楽器で表現できるよう編曲する能力、自作曲を創作する			-一等の理論につ			
	回		学習	引内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーション 1 課題・試験曲選曲				課題曲選曲	課題①練習·基礎 練習
	2	課題①への取り分析(背景)と演				課題①背景について	課題①練習·基礎 練習
		3 課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について				課題①アナリーゼ	課題①練習•基礎
	3			ついて		 	練習
			ž)と演奏表現に 			課題①アナリーセ	練習 既成曲①練習・基 礎練習
		学が(アナリーも) 課題①への取り フレーズ、ダイナ	ž)と演奏表現に 	現について			既成曲①練習・基
	4	分析(アナリーセ 課題①への取りフレーズ、ダイナ 課題①のまとめ 既成曲①の編曲 分析(背景・リズ	ぎ)と演奏表現に 	現について		課題①のまとめ 既成曲①の編曲	既成曲①練習·基礎練習 既成曲①練習·基
	5	分析(アナリーセ 課題①への取りフレーズ、ダイナ 課題①のまとめ 既成曲①の編曲 分析(背景・リズ	ž)と演奏表現に 組み③ ーミクスと表現表 曲① ム)と演奏表現( 並)と演奏表現、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	現について こついて 記譜(楽譜制作)に		課題①のまとめ 既成曲①の編曲 既成曲①の編曲・	既成曲①練習·基礎練習 既成曲①練習·基礎練習 既成曲①練習·基

9	自作曲への取り組み② ハーモニーについて	作曲(伴奏)楽譜 制作	作曲·基礎練習
10	自作曲への取り組み③ 細かな表情と楽譜作成 演奏のまとめ	楽譜制作	試験曲練習·基礎 練習
11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	
12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について		試験曲練習·基礎 練習
	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習·基礎 練習
14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習·基礎 練習
15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習•提出 楽譜準備	創作応用演習Ⅶ のまとめ Ⅷの準 備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	創作応用演習呱(ミュージックパフォーマンス 科			科目ナンバリング	CR3M1N24		
担当者	西林	西林 博子 他					
担当形態	複数	複数単位数				2単位	
対象学科	音楽	·····································			開設学年	4年次	
開講時期	後期	1					
選択・必修区分		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
迭价"必修区方		必修				ABC	DEF
備考	<b>※</b> ミ⊐	∟ージックパフォー	-マンスコース必	修			
授業のテーマ及び 到達目標	ΠĐ	国々の実力に応じ 見代のニーズにあ 音楽を通して、人「	った演奏感覚を		音楽表現力を身	につける	
授業の概要	通して また、	で学び、個々のレ 専攻の幅広い理	パートリーを広け 関解のために、楽	げていく 器について、歴史	について学習す	て、専攻実技の基本 る。コード、ハーモニ カ、自作曲を創作す	-一等の理論につ
	回		学習	]内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲				課題曲選曲	課題①練習·基礎 練習
	2	課題①への取り 分析(背景)と演				課題①背景について	課題①練習·基礎 練習
		3 課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について					
	3			ついて		課題①アナリーゼ	課題①練習·基礎 練習
			ž)と演奏表現に 			課題①アナリーゼ	課題①練習·基礎 練習 既成曲①練習·基 礎練習
		学が(アナリーも 課題①への取り フレーズ、ダイナ	ぎ)と演奏表現に 組み③ -ミクスと表現表 -	現について			既成曲①練習•基
	4	分析(アナリーも 課題①への取り フレーズ、ダイナ 課題①のまとめ 既成曲①の編曲 分析(背景・リズ	がと演奏表現に 組み③ -ミクスと表現表 (A)と演奏表現( (B)	現について		課題①のまとめ 既成曲①の編曲	既成曲①練習·基礎練習 既成曲①練習·基
	5	分析(アナリーも 課題①への取り フレーズ、ダイナ 課題①のまとめ 既成曲①の編曲 分析(背景・リズ	ぎ)と演奏表現に 組み③ -ミクスと表現表: 由① ム)と演奏表現( を)と演奏表現、記 を)と演奏表現、記 を)と演奏表現、記 を)と演奏表現、記	現について こついて 記譜(楽譜制作)に		課題①のまとめ 既成曲①の編曲 既成曲①の編曲・	既成曲①練習·基礎練習 既成曲①練習·基礎練習 既成曲①練習·基

9	自作曲への取り組み② ハーモニーについて	作曲(伴奏)楽譜 制作	作曲·基礎練習
10	自作曲への取り組み③ 細かな表情と楽譜作成 演奏のまとめ	楽譜制作	試験曲練習·基礎 練習
11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	
12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について		試験曲練習·基礎 練習
	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習·基礎 練習
14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習·基礎 練習
15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習•提出 楽譜準備	創作応用演習Ⅶ のまとめ Ⅷの準 備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	サウンドデザイン ▼ 科目ナンバリング			SD2M1N29			
担当者	向野	向野 友規·西田 和政					
担当形態	複数	复数単位数				2単位	
対象学科	音楽	音楽学科 開設学年				3年次	
開講時期	前期						
選択•必修区分	:	卒業要件 教職課程 保育士 音楽療法				ディプロマ	アポリシー
		*				AB	DE
備考	<b>※サ</b> '	ウンドデザインコ·	一ス必修				
授業のテーマ及び 到達目標	■トレ	ンド感のある音	色の制作や、それ		に活かすことができる ジすることができる きるようになる		
授業の概要	■ŀレ	ッンド感のある音 <sup>・</sup>	色の制作を通じて	て、アレンジ力を針	<b>愛える</b>		
	回	学習内容				事前学習	事後学習
授業計画	1	■オリエンテーション					
	2	■ボリュームフェ	ェーダー、パンニ	ングのみを使用し	たミキシング①		
	3	3 ■ボリュームフェーダー、パンニングのみを使用したミキシング②					
	4	■リリースカット	ピアノの制作				
	5	■ボーカルチョッ	ップの制作①				
	6 ■ボーカルチョップの制作②						
	7	■サイドチェーン ラック制作	 ン(サイドチェーン	゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚゚゙゙゙゙゙゚゚゚゚゚	一等)を使用しト		
	8	■MIDIエフェクト	・を用いたトラック	制作			

	9	■レイヤリング、音の高さ等について①	
	10	■レイヤリング、音の高さ等について②	
	11	■独自性のある音色の制作① 使用頻度は低いが重要なプラグインについての知識を深める	
	12	■独自性のある音色の制作② グラニュラーシンセシス	
	13	■音響 理論と実習	
	14	■制作·実習	
	15	■制作·実習	
使用教科書			

使用教科書	
参考書·参考資料等	適宜プリントを配布する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
実技試験		80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
	課題/楽譜		正確さ
平常点		10%	バックステージ、演奏活動への取り組み

科目名	サウンドデザインVI			科目ナンバリング	SD2M1N30			
担当者	向野	可野 友規・西田 和政						
担当形態	複数	τ			単位数	2単位		
対象学科	音楽	音楽学科 開設学年				3年次		
開講時期	後期	1						
選択・必修区分	3	卒業要件 教職課程 保育士 音楽療法				ディプロマ	アポリシー	
	VV.4L.	<u>※</u> ウンドデザインコ・	→ × 145			AB	DE	
備考  授業のテーマ及び				スミュージックのシ	ジャンルの制作を	行い、さまざまな楽に	曲の流行などを理	
到達目標	解でき	きるようになる						
授業の概要				ンルの制作を行う ンや、使われてい	う る音色の制作を行	ゔ゙ゔ		
	口	学習内容				事前学習	事後学習	
授業計画	1	■オリエンテーション						
	2	■Houseのトラッ	ククを制作					
	3	■Hiphop/Trap0	のトラックを制作					
	4	■Future Bass0	Dトラックを制作					
	5	■Drum'n'Bass0	のトラックを制作					
	6 ■Garageのトラックを制作							
7 ■Drillのトラックを制作								
	8	■Jersey Club <i>0</i>	)トラックを制作					

	9	■Lo-Fi Hip Hopのトラックを制作				
	10	■Ambientのトラックを制作				
	11	■制作·実習				
	12	■制作·実習				
	13	■音響 理論と実習				
	14	■制作·実習				
	15	■制作·実習				
使用教科書						
参考書·参考資料等	等 適宜プリントを配布する					
成績評価基準		評価方法	割合		評価のポイント	

80%

10%

10%

正確さ

授業内容の習得、楽曲の完成度

バックステージ、演奏活動への取り組み

実技試験

課題/楽譜

平常点

科目名	サウンドデザインVII			科目ナンバリング	SD3M1N31	
担当者	矢賀部 竜成					
担当形態	単独			単位数	2単位	
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期					
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
選択•必修区分	*				ABCDEF	
備考	※サウンドデザインコース必修					

<b>偏</b> 考	$\mathcal{N}_{\mathcal{I}}$	※サワントナザインコース必修						
授業のテーマ及び 到達目標	音楽(	音楽の自分らしさを追求する。今まで聴いてきた音楽を自分のものにする。						
授業の概要		莫倣を離れオリジナルを目指した音楽制作。感性を高め、個性を高める。公開試験、学内外での演奏の場で、音楽の発表(パフォーマンスを含む)のみでなく運営する能力を高める。各自の音楽をより深める。						
	回	学習内容	事前学習	事後学習				
授業計画	1	卒業までの流れの確認 フォーリズムを再確認 音楽の基盤を再確認	フォーリズムを意 識して音楽を聴い ておく	シンプルな構成で はっきり曲の雰囲 気を出す				
	2	ミキシング曲の構成・構造	音楽を聴くとき、 様々な観点で聴く コードの復習	学内演奏会のための作品 構想、コードを意 識				
		エフェクトプラグイン EQを使い、無駄な音の成分を除く	EQをバイパスして 聴き比べ	より良い音を追及				
	4	ピッチ 音程補正 PCに頼りすぎもいけないが、ピッチに関して気を付ける	ヴォーカルの修正	ヴォーカルトラック の修正				
	5	リズム 土台となるリズムとグルーブ	グルーブを意識し て音楽を聴く	グルーブ感のある リズムを作る				
	6	ソフトシンセの音作り シンセの構造、機能、特徴、パラメーター	ブラス、パッド、 リード等の特徴	ブラス、パッド、 リード等の特徴を 生かす				
	7	ソフトシンセの音作り ADSR(EG) フィルター、レゾナンス、LFO	ブラス、パッド、 リード等の特徴	ブラス、パッド、 リード等の特徴を 生かす				
	8	マスタリング 2ミックス	マスタリングした 音源を作成	バウンスしてオー ディオファイル、 CDを作成				

9	リズムパターンの研究 (2ビート、4ビート、8ビート、16ビート)	楽器のリズムパ ターン、グルーブ を聴いておく	楽器のリズムパ ターン、グルーブ を再現
10	リズムパターンの研究 (ドラムンベース、世界の民族音楽のビート)	楽器のリズムパ ターン、グルーブ を聴いておく	楽器のリズムパ ターン、グルーブ を再現
11	オーケストレーションの研究 (楽器の特色、音色の違い) クラシックのオーケストラの学習		オーケストレー ションを中心に音 楽を作製
12	オーケストレーションの研究 (ポップスのアレンジとの違い)	いろいろなオーケ ストラを聴いてくる	オーケストレー ションを中心に音 楽を作製
13	オーケストレーションの研究 (音域の理解) ポップスのオーケストラの学習	スコアを見なが ら、オーケストラを 聴いてくる	オーケストレー ションを中心に音 楽を作製
14	生音の録音 ソフト音源を使うことが多いのでその中に1トラックでも生音が入る と曲がよくなる	接続、マイク、環 境を整えておく	録音したデータを 自分の曲の中で 最大限生かす
15	HMF、音楽の日のファンファーレ制作 オリジナルの修正 前期課題の修正	「自分にとって音 楽とは何か」を考 えてくる	言語化して自分を 深く知る

使用教科書	担当教員が適宜指示、配付
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント	
	実技試験	80%	課題曲、自由曲	
課題/楽譜		10%	課題の習得・練習	
平常点(態度)演奏活動		10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み	

科目名	サウンドデザインVⅢ			科目ナンバリング	SD3M1N32
担当者	矢賀部 竜成				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	後期				
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
選択・必修区分	*				ABCDEF
備考	※サウンドデザインコース必修				

ΝHI	考	※サウンドデザインコース必修							
	業のテーマ及び 達目標	卒業領	卒業制作としてのプロモーションビデオを制作することができる。						
授	業の概要	音楽	楽と映像の高度な融合を目指し、作品としてのプロモーションビデオを制作する						
		口	学習内容	事前学習	事後学習				
授	業計画	1	後期の目標、卒業までの制作活動計画 個人の作品・グループでの共同作品	曲を作ってくる	公開試験のイメー ジを広げる				
		2	自作曲 曲の構成・構造を人にわかりやすく伝える技術	コード、リズムの 書き方の研究	曲の大枠を作る				
		3	曲の構成、発展のさせ方	曲を発展させるた めのアイデアを出 してくる	アイデアをさらに 形にして表す				
			ヴォーカル録音 自分の声でも、ヴォーカルを頼んでもいいので「声」のむつかしさ に挑戦	録音する方法を調べておく	録音したデータを 自分の曲の中で 最大限生かす				
			サウンドエフェクトの制作	いろいろなサウン ドエフェクトを聴い ておく	サウンドエフェクト を自分の曲の中 で最大限に生か す				
		6	楽譜上での確認 耳や感覚でのチェックと楽譜上でのチェックで音楽的なミスを発見 する	ノーテーションソフ トの復習	異名同音、リズム の表記などを注 意して修正				
	7 54		ライブコンサート「音 創造!」オーディション曲提出	音源、楽譜を準備	指摘された箇所 の修正をして再度 提出				
		8	細部の調整 試験曲をいろいろな角度からチェック	チェックリストを作 製してくること	修正を丁寧にする				

9	ミキシング1(エフェクターの理解と研究、Reverb,Delay)	空間系のエフェクトの種類を聴き分ける	理解できたパラ メーターを操作
10	ミキシング2 (コンプレッサー) 音圧	必要なトラックとか かり具合を試す	理解できたパラ メーターを操作
11	ミキシング3(ヴォリューム、パン、オートメーション、マキシマイ ザー)	各トラックのバラン スを意識する	理解できたパラ メーターを操作
12	ミックスダウン最終段階に必要な知識		理解できたパラ メーターを操作
13	PAの体験 公開試験で後輩にPAを頼むため、自分の曲に必要なPAを把握 する	セッティング図を 考えてくる	コンサートとして 成り立つPAをまと める
14	試験のための楽曲作り1	音を耳で確認する	音を楽譜で確認する(楽譜の制作)
15	試験のための楽曲作り2 楽曲制作最終段階	オーディオ的に曲 を聴きながら仕上 げる	2ミックスとして完 成させる

使用教科書	担当教員が適宜指示、配付
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	課題曲、自由曲
	課題/楽譜	10%	課題の習得・練習
	平常点(スタッフの働き)	10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み

科目名	音楽	教育演習 V			科目ナンバリング	ME3M1N37	
担当者	岩山	当山 惠美子					
担当形態	単独	Į.			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 <b>学</b> 科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	 			ļ		
ᅄᄱᇝ		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		必修				AB	CD
備考							
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	教材 教育 る。生徒。	生徒主体の授業づくりについての理解をもとに、日本の伝統音楽を教材とした授業を構想し、学習展開案を作					
	保無	受業の検討を通り				事前学習	事後学習
授業計画					シラバスを熟読	質問紙調査結果で分かったことをまとめる	
	2	全国学力・学習状況調査の結果分析 PISA学力調査の結果分析				配付資料を読んでおく	二つの調査結果 で分かったことを まとめる
	3	「生徒主体」につ	いて考察			三つの調査結果 分析を見直してお く	「生徒主体」についてまとめる
	4	歌舞伎「勧進帳 ・歌舞伎の歴5				歌舞伎「勧進帳」 を視聴し、気づき をまとめておく	歌舞伎の歴史をまとめる
		歌舞伎「勧進帳」の教材分析 ・演技、化粧、衣装				富出や舞について	演出の特徴をまと
	5					調べておく	める
			衣装				
	Ŀ	*演技、化粧、***********************************	衣装 			調べておく	黒御簾音楽の特徴についてまとめる

9	題材目標と指導内容の検討	学習指導要領の 鑑賞指導内容を 再確認しておく	教える内容と任せ る内容を確認して おく
10	学習活動の工夫	主な学習活動を考 えておく	学習活動の細案をまとめる
11	予想される生徒の反応と教師の支援	生徒の反応を予 想しておく	学習活動と教師 の支援をまとめる
12	生徒の学びの把握(評価)	観点別学習状況 評価について復習 をしておく	指導計画をまと め、学習指導案を 作成する
13	模擬授業(A)と意見交換	模擬授業の準備 をしておく	意見交換会の内 容をまとめる
14	模擬授業(B)と意見交換	模擬授業の準備 をしておく	意見交換会の内 容をまとめる
15	改善課題検討会	課題についての改 善策を考えておく	検討会の意見を もとに学習指導案 を修正する

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3下(教育芸術社)
参考書・参考資料等 学生が作成する資料,	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	作品·演奏	40%	理解度、学習活動と支援の工夫、まとめ方
	毎時間の振り返り	20%	講義内容の理解、自分なりの考え

科目名	音楽	音楽教育演習VI				ME3M1N38	
担当者	岩山	岩山 惠美子·中村 理恵					
担当形態	単独	Į.			単位数	2単位	
対象学科	音楽	··········· 学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	]					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
選択・必修区分		必修				AB	CEF
備考							
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	もに、	教育改善の必要	<b>長性を理解する。</b>		したりすることを通	して、さまざまな教育 	育課題に気付くとと
			*** 41°	7 <del></del>		***********	± // ₩ 70
155 AH = 1	旦	回 学習内容 1 教育改革の流れ				事前学習	事後学習
授業計画	1					10年後の教育に ついて自分の考え をまとめておく 「音楽教育の流れ」をまとめる	
	2	「主体的・対話的	りで深い学び」に		学習指導要領改 訂の趣旨を調べ、 まとめておく	アクティブラーニ ングの授業づくり の視点をまとめる	
	3	3 「教科横断的な学習」について考察				配付資料を読んで、疑問点をまとめておく	教科横断的な題 材を考え、概要を まとめる
	4	先行実践の分析 (ICT活用が叫ばれるのはなぜ)				公開授業指導案と 授業記録を読み 直しておく	先行実践におけ る工夫点をまとめ る
	5 中学校の授業観察 (御船中学校 授業参観)				授業で取り扱う教 材の内容を調べて おく	観察記録をまとめる	
6 授業づくりの工夫点について検討				観察して気付いたことや質問を準備しておく			
	7 卒業研究の進め			め方(ガイダンス)		シラバス「卒業研 究」を読んでおく	興味のある教育 課題を洗い出す
	7	卒業研究の進&   	<b>3万(ガイダン</b> 人)			)	

9	過年度の卒業論文の内容を調べる	過年度の卒業論 文概要集を読み 直しておく	興味のある教育 課題を洗い出す
10	興味のある課題に関する情報を集める	探した資料を読 み、まとめておく	研究したい内容を 整理する
11	興味のある課題に関する情報を集める	探した資料を読 み、まとめておく	研究したい内容を 整理する
12	研究の動機と課題について考える	研究したい内容を まとめておく	教育界の動向を調べまとめておく
13	研究したい課題に関する情報を集める	探した資料等を読 みまとめておく	研究したい課題に 関する資料等を 探す
14	研究したい課題に関する情報を集める	探した資料等を読 みまとめておく	研究したい課題に 関する文献を探 す
15	研究の計画を立てる	探した文献を読ん でおく	研究の動機と研究計画をまとめる

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	中学校学習指導要領解説総則編(平成29年)(東山書房),
	中学生の音楽1,
	中学生の音楽2・3上,
	中学生の音楽2・3下(教育芸術社)
参考書·参考資料等	適宜、資料を配付

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	小論文	50%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	レジュメ、学習展開案	30%	理解度、学習活動と支援の工夫・改善の内容
	毎時間の振り返り	20%	講義内容の理解、自分なりの考え

科目名	音楽	終教育演習Ⅷ			科目ナンバリング	ME3M1N39		
担当者	岩山	岩山 惠美子						
担当形態	単独	Į.			単位数	2単位	2単位	
 対象学科	音楽	 学科			開設学年	4年次		
開講時期	前期	]						
53 In		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー	
選択•必修区分		必修				ABC	DEF	
備考	※仮	題目提出 R6年	5月22日(水)		•			
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	まとめ 音楽 1年次 研究:	りることができる。 制作のテーマを記 たから培ってきた 主題を設ける。	受定し、素材の教 理論・実践両面の	材化ができる。		」「研究の進め方」「ご		
3201000 117020	学級	計画に沿って研究 で音楽表現をつく -	だを進める。 (り出す指導につ 	いて構想する。				
	回		学習	内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1	研究計画 ・今後の研究の進め方 ・令和5年度卒業論文発表会の視聴				令和5年度卒業論 文概要集を読んで おく		
	2	研究計画 ・研究動機と研 再確認	ff究の方法につい	いて		研究の動機を読 み直しておく	主題に関する資料を読み、内容をまとめる	
	3	研究主題の設定・明らかにした				「何を明らかにした いのか」考えてお く		
	4	研究主題の考察				「研究主題につい て」を自分なりに 書いておく	指摘を受けた内 容を整理し、書き 直す。	
	5	研究の進め方 ・研究の基礎的な考え方や研究方法			研究計画を見直し ておく	「研究の構想」をまとめる		
	6	研究の実際・研究内容のホ	<b></b>			各自の計画に沿って研究を進め、その都度まとめておく	た内容について	
	7	研究の実際・基礎理論に関	関する内容の検討	र्ग		各自の計画に沿っ て研究を進め、そ の都度まとめてお く	た内容について	
						各自の計画に沿っ		

9	研究の実際 ・検証方法の検討	各自の計画に沿っ て研究を進め、そ の都度まとめてお く	た内容について
10	経過報告会 ・研究の経過報告と意見交換	経過報告の準備 をする	研究の取り組みを 振り返り、内容の 充実を図る
11	音楽制作の計画 ・教育課題をもとにテーマを検討	取り上げたい教育 課題を考えておく	テーマとする課題 について、関係資 料を読み深める。
12	音楽制作の計画 ・素材と表現方法の検討	過去の音楽制作 を参考に表現方 法を考えておく	制作計画を作成する
13	音楽制作 ・主張したいこととあらすじ	主張したいことを まとめておく	検討したあらすじ をまとめる
14	音楽制作 ・台本づくり	前回検討したあら すじを確認しておく	
15	研究の実際 ・研究内容の中間まとめ	これまでの研究内 容をまとめておく	指摘・指導をもと に修正し、研究を すすめる

使用教科書	
参考書·参考資料等	学生作成の資料

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	課題ごとの要約資料	40%	内容の深まり、伝える工夫
	毎時間の振り返り	20%	研究や制作への取り組み、積極性、協調性

科目名	音楽教育演習Ⅷ			科目ナンバリング	ME3M1N40		
担当者	岩山 惠美子						
担当形態	単独			単位数	2単位		
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次		
開講時期	後期						
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー		
選択・必修区分	必修				ABCDEF		
備考	※正式題目提出 R6年10月16日(水) 論文提出 R7年1月17日(金) 論文発表会 R7年1月29日(水)又は30日(木)の予定						

## 授業のテーマ及び 到達目標

各自の研究計画に従って研究を進め、分析・考察した結果をまとめることができる。 音楽制作を創り上げ、発表することができる。

## 授業の概要

各自で研究を進め、研究報告会での指摘や指導を参考に、分析・考察を深めていく。 音楽制作を創り上げ、発表に向けて準備や練習をする。

	自朱利下を創り上げ、光衣に向けて学術や緑白をする。   				
	回	学習内容	事前学習	事後学習	
授業計画	1	研究報告会 ・その後の取り組みの発表と検討会	夏期休業中実施し た研究の内容をま とめておく		
	2	音楽制作 ・台本の検討	あらすじを確認し ておく	台本を完成させる	
	3	音楽制作 ・BGMの選曲と作成	場面にあった音楽をつくっておく	気づきをもとにつ くった音楽を修正 し、楽譜に記録す る	
	4	音楽制作 ・テーマ曲の作成	場面にあった音楽 をつくっておく	気づきをもとにつ くった音楽を修正 し、楽譜に記録す る	
	5	研究経過報告 ・その後の取り組みの発表と検討会	研究を進めた箇所 の発表準備をして おく		
	6	研究内容の再検討 ・不十分な点の確認	研究計画に従って 研究を進め、その 都度まとめておく	指摘・指導を受け た内容について 再考し、研究を深 める	
	7	研究内容の再検討 ・内容充実のための意見交換	研究計画に従って 研究を進め、その 都度まとめておく	指摘・指導を受け た内容について 再考し、研究を深 める	
	8	音楽制作・演出の工夫	舞台配置や転換 についての計画図 を作成しておく	演出の工夫につ いてまとめる	

9	研究の実際 ・研究内容の分析		指摘・指導を受けた内容について 再考し、研究を深める
10	研究の実際 ・研究の成果と課題	残された課題をま とめておく	指摘・指導を受けた内容について 再考し、研究を深める
11	音楽制作 ・発表の準備	制作テーマの意図 や内容をまとめて おく	指摘・指導をもと に、発表原稿の内 容を修正する
12	プレゼンテーションの準備 ・発表資料の作成	発表原稿を作成しておく	指摘・指導をもと に、発表原稿の内 容を修正する
13	プレゼンテーションの準備 ・発表資料の見直し・修正	パワーポイントを 作成しておく	指摘・指導をもと にパワーポイント の内容を修正す る
14	プレ卒業論文発表と検討会	発表の準備をしておく	指摘・指導をもと に、発表の仕方や 資料を修正する
15	教育観・指導観についての検討	論文発表を終えて 考えたことをまと めておく	4年間の学びをま とめる

使用教科書	
参考書·参考資料等	学生作成の資料

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	課題ごとの要約資料	40%	内容の深まり、伝える工夫
	毎時間の振り返り	20%	研究や制作への取り組み、積極性、協調性

科目名	音楽療法演習V			科目ナンバリング	MT3M1T45		
担当者	村橋	村橋 和子・青 拓美					
担当形態	オムニバス				単位数	2単位	
対象学科	音楽	············· 学科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	]					
<sup>1</sup>		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		必修				ABO	CDE
備考							
授業のテーマ及び 到達目標	するこ	ことを目的とし、音 き歌い)を身につ!	f楽療法の意義に けることを目的と	こついて言語化で し、現場で使える	きる。技法では、 楽曲を10曲以上E	関わる意味を多角的 児童領域における路 音譜で弾き歌いでき	島床音楽技法(主 ∵る。 
授業の概要	を把抗	屋し、対象者の様	々な課題を探求	し、それについて	考察する。技法で	では児童領域の対象 技法(主に弾き歌い	マ 者の健康及び疾
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーショ課題曲の発表	<b>ل</b> ا			シラバスの熟読。	課題曲の練習
	2	児童臨床における基礎知識(発達段階の理解) 臨床場面における童謡の弾き歌い(春、花)				プリントの熟読、 用語の理解。課題 曲の練習	課題のまとめ課題曲の練習
		発達検査、知能検査 臨床場面における手あそび(乳児)				プリントの熟読、 用語の理解。課題	課題のまとめ
	3			見)		曲の練習	課題曲の練習
	4	臨床場面におけ 発達障害につい	†る手あそび(乳! 	見)  !い(友だち、先生	)		課題曲の練習課題のまとめ課題曲の練習
		臨床場面におけ 発達障害につい	+る手あそび(乳! 	い(友だち、先生	)	曲の練習 教科書の熟読、用語の理解。課題曲の練習 教科書の熟読、用	課題のまとめ
	4	臨床場面におけ 発達障害につい 臨床場面におけ ピアジェの発達 臨床場面におけ マーラーの発達	+る手あそび(乳) 	れ(友だち、先生 ・3歳児)	)	曲の練習 教科書の熟読、用 語の理解。課題曲 の練習 教科書の熟読、用 語の理解。課題曲	課題のまとめ課題曲の練習
	5	臨床場面におけ 発達障害についけ ピアジェの発達 での発達 での発達 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	中る手あそび(乳) 小て 中る童謡の弾き歌 理論 中る手遊び曲(2~ 理論 中る童謡の弾き歌	ない(友だち、先生 ・3歳児) ない(夏、海)		曲の練習 教科書の熟読、用 語の理解。課題曲 の練習 教科書の熟読、用 語の練習 教科書解。課題曲 の練習	課題のまとめ課題曲の練習課題曲のまとめ課題曲の練習課題曲の練習課題曲のまとめ

9	スターンの発達理論と情動調律 臨床場面における手遊び曲(4~5歳児)	教科書の熟読、用 語の理解。課題曲 の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
10	児童期・青年期の理解 臨床場面における童謡の弾き歌い(秋・山)	教科書の熟読、用 語の理解。課題曲 の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
11	子どもへの心理療法と音楽療法 臨床場面における手遊び曲(親子で行う活動)	教科書の熟読、用 語の理解。課題曲 の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
12	メディア依存について 臨床場面における童謡の弾き歌い(冬、雪)	教科書の熟読、用 語の理解。課題曲 の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	卒業論文のテーマについて考える 即興演奏	教科書の熟読、用 語の理解。課題曲 の練習	事例についてまと め。課題曲の練 習
14	音楽療法における声の使い方 (時期未定) *青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読し、 用語を調べる。	レッスンで学んだ ことをまとめる
15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示。	授業で学修したこ とを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	こころをつなぐミュージックセラピー(ミネルヴァ書房),
	ケースに学ぶ音楽療法 I (岩崎学術出版社),
	ケースに学ぶ音楽療法 II (岩崎学術出版社)
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
	レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	音楽	療法演習VI			科目ナンバリング	MT3M1T46	
担当者	村橋						
担当形態	単独	ł			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 <b>学</b> 科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	]					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択·必修区分		必修				ABO	CDE
備考							
授業のテーマ及び 到達目標	するこ	ことを目的とし、こ	の領域に音楽療	法の意義言語化		関わる意味を多角的 、児童領域における 音譜する。	
授業の概要	童領	域の対象者の様	々な課題を探求	し、それについて	考察する。技法で	及び疾患・障害を把 は、児童領域の対診 (主に即興)を学ぶ。	象者の健康及び疾
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーショ 論文を読む	ン	シラバスの熟読。	課題曲の練習		
	2		マについて考えるける童謡の弾き	プリントの熟読、 用語の理解。課題 曲の練習	課題のまとめ課題曲の練習		
	3	・シュタイナー教 ・臨床場面にお		歌い(動物、動物)	園)	プリントの熟読、 用語の理解。課題 曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	4	・臨床場面におり ・ダルクローズ「			園)	用語の理解。課題	
	_	・臨床場面におい ・ダルクローズ「・ ・臨床場面におい ・オルフの音楽者	ナる童謡の弾き!! リトミック」についける手遊び曲(カ			用語の理解。課題 曲の練習 プリントの熟読、 用語の理解。課題	課題曲の練習
	4	<ul><li>・臨床場面におり</li><li>・ダルクローズ「・</li></ul>	ける童謡の弾き リトミック」についける手遊び曲(か ける手遊の弾き ける童謡の弾き セラピーの実際	って いらだ) 歌い(乗り物、遠気		用語の理解。課題曲の練習プリントの熟読、用語の練習曲の練習プリントの熟読、課題曲の練習プリントの熟読、課題用語の理解。課題用語の理解。課題	課題曲の練習課題のまとめ課題曲の練習課題曲の練習課題曲のまとめ
	5	・臨床場面におい ・ダルクローズ「・ ・臨床場面におい ・ 本ルフの音楽者・ ・ ・ コ・ 関体験(ピア・ ・ カージック・ ・ カージック・ア・	ける童謡の弾き リトミック」についける手遊び曲(か ける手遊び曲(か な育についてできる ける童謡の弾き でフピーの実際 フノ)	って いらだ) 歌い(乗り物、遠気		用語の理解。課題 曲の練習 プリントの理解。 用語の練習 プリント理解の が用語の練習の が用語の練習のの理解 が用語の練習のの理解 が用語の が用語の が用語の が用語の が用語の が用語の が用語の が見いた。 が見いた。 が見いた。 が見いた。 が見いた。 はいた。 はいた。 はいた。 はいた。 はいた。 はいた。 はいた。 は	課題曲の練習課題のまとめ課題曲のまとめ課題曲のまとめ課題曲のまとめ課題曲のまとめ課題のまとめ

9	・セッション場面におけるアセスメント ・臨床場面における手遊び曲(親子で行う活動)	プリントの熟読、 用語の理解。課題 曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
10	<ul><li>・セッション場面における保護者への支援</li><li>・即興体験(声)</li></ul>	プリントの熟読、 用語の理解。課題 曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
11	・コミュニティ音楽療法の実際(児童) ・臨床場面における弾き歌い(その他)	プリントの熟読、 用語の理解。課題 曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
12	・児童領域の音楽療法見学	セッションの準備	セッションの記 録、まとめ
13	・事例研究 ・臨床場面における弾き歌い(その他)	事例の熟読。課題 曲の練習	事例研究のまと め
14	・私の卒論テーマについて考える ・臨床場面における弾き歌い(伴奏技法について)	先行研究のまとめ について調べる	卒論テーマに関 する先行研究を 探る
15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・卒論テーマについて考える	授業で学修したこ とを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	障害児の音楽療法 声・身体・コミュニケーション(春秋社)
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
	レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	音楽	療法演習Ⅷ			科目ナンバリング	MT3M1T47	
担当者	村橋	────────────────────────────────────					
担当形態	オム	ニバス			単位数	2単位	
対象学科	音楽	· 学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期	]					
選択・必修区分	:	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
医扒"必修区力		必修				AC	EF
備考							
授業のテーマ及び 到達目標	におし	<b>ハては、そこから</b>	見出した新たな社		「究から探り、音楽	だについてはその分 療法の研究や手段	
授業の概要				献を読み解く。また も適宜課題を発え		についても共に学び	び、様々な研究法
	回		学習	引内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーショ卒業研究の進め	ョン り方について理角		シラバスの熟読。	研究法のまとめ	
	2	文献を読み解き 弾き歌い(課題は	·、音楽療法の研 曲)	各自の卒業研究 に関する文献を読 み解く	自分の研究との 関連を検討し、ま とめる 課題曲の練習		
	3	個人研究につい弾き歌い、課題は		たみ解く		各自の卒業研究 に関する文献を読 み解く	自分の研究との
	3	弾き歌い(課題的	曲) 			に関する文献を読	自分の研究との関連を検討し、まとめる自分の研究との
		弾き歌い(課題的) では、	曲) 			に関する文献を読み解く み解く 各自の卒業研究 に関する文献を読	自分の研究との関連を検討し、まとめる自分の研究との関連を検討し、まとめる
	4	弾き歌い(課題的 個人研究につい 弾き歌い(自由的 グループ研究	曲) 			に関する文献を読 み解く 各自の卒業研究 に関する文献を読 み解く 実験法について調 べる、プリントの熟	自分の研究との関連を検討し、まとめる 自分の研究との関連を検討し、まとめる 課題をまとめる
	5	弾き歌い(課題的 個人研究につい 弾き歌い(自由的 グループ研究 実験法	曲) 			に関する文献を読み解く	自分の研究との関連を検討し、まとめる 自分の研究との関連を検討し、まとめる 課題をまとめる

9	個人研究について実験準備① 弾き歌い(自由曲)	各自の卒業研究 に関する文献を読 み解く	個人研究につい て準備
	個人研究について実験準備②(予備実験) 弾き歌い(自由曲)	研究の手順につ いて考える	研究の手順につ いて確認
	個人研究① 弾き歌い(自由曲)	研究の手順を確 認	研究をまとめる
12	個人研究② 弾き歌い(自由曲)	研究準備	研究をまとめる
	個人研究まとめ 弾き歌い(自由曲)	研究準備の確認	研究をまとめる
14	音楽療法における声の使い方(時期未定) *青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読 課題曲の練習	レッスンで学んだ ことをまとめる
15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示。	個人研究について 振り返る、課題曲 の練習	個人研究につい てまとめる

使用教科書	
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
	文献研究と発表	60%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	20%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	音楽	<b>續法演習</b> Ⅷ			科目ナンバリング	MT3M1T48	
担当者	村村	村橋和子					
担当形態	単独	ł			単位数	2単位	
対象学科	音楽	· 学科			開設学年	4年次	
開講時期	後期	1				,	
選択•必修区分		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
		必修				AC	EF
備考							
授業のテーマ及び 到達目標	におし	ハては、そこから	見出した新たな社	見点などを先行研		咒についてはその分 療法の研究や手段 ・目指す	
授業の概要	様々を		さらに卒業論文			他者の研究につい の方法についても	
	□		学習	門内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーショ各自の研究状況	ョン 記について発表し	画を検討する	シラバスの熟読。	研究計画の検討	
	2	各自の研究結果弾き歌いレッスン	₹についてまとめ レ(試験曲)	<b></b>		各自の研究結果をまとめる	自分の研究との 関連を検討し、ま とめる 課題曲の練習
	3		、各自の研究方内、方法について	各自の卒業研究 に関する文献を読 み解く	自分の研究との 関連を検討し、ま とめる 課題曲の練習		
	4	4 各自の研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う				各自の研究についてまとめ、発表準備を行う	自分の研究目的 と方法について検 計する
	文献を読み解き、各自の研究について考察する (研究目的、方法について再検討) 弾き歌いレッスン(試験曲)  6 文献を読み解き、各自の研究について考察する (研究結果について)  8 自の研究に関する文献を読み解 く課題曲の練習  各自の研究に関する文献を読み解 く課題曲の練習				自分の研究との 関連をまとめる 課題曲の練習		
					する文献を読み解 く	自分の研究との 関連をまとめる 課題曲の練習	
	7	文献を読み解き(研究結果につ		ついて考察する		各自の研究に関 する文献を読み解 く 課題曲の練習	自分の研究との 関連をまとめる 課題曲の練習
	8	文献を読み解き (研究結果の考 弾き歌い発表(記		ついてまとめる		各自の研究に関 する文献を読み解 く 課題曲の練習	自分の研究との 関連をまとめる 課題曲の練習

9	文献を読み解き、各自の研究についてまとめる (研究結果の考察) 弾き歌い発表(試験曲)	各自の研究に関 する文献を読み解 く 課題曲の練習	自分の研究との 関連をまとめる 課題曲の練習
10	文献を読み解き、各自の研究について考察する (研究結果について再検討)	各自の研究に関 する文献を読み解 く 課題曲の練習	自分の研究との 関連をまとめる 課題曲の練習
11	文献を読み解き、各自の研究についてまとめる (研究結果の考察とまとめ) 弾き歌い発表(試験曲)	各自の研究に関 する文献を読み解 く 課題曲の練習	自分の研究との 関連をまとめる 課題曲の練習
12	研究のプレゼンテーション方法について学ぶ 弾き歌い発表(試験曲)	プレゼンの方法に ついて調べる 課題曲の練習	プレゼンテーショ ンの準備、試験曲 の練習
13	各自の研究発表を行い、プレゼン方法について学ぶ(試験曲)		各自のプレゼンの 方法を検討する 課題曲の練習
14	各自の研究発表を行い、他者の発表についても検討する(試験 曲)	プレゼンテーショ ンの再検討、試験 曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
15	まとめ(弾き歌い、口頭試問)	授業で学修したこ とを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
	文献研究と発表	60%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	20%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	声楽Ⅴ			科目ナンバリング	NV3M3C13	
担当者	桑原 理恵他					
担当形態	クラス分け			単位数	1単位	
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次	
開講時期	前期					
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
選択・必修区分	選択				BDEF	
備考	※教職履修学生は履	修が望ましい(声	楽コースを除く)			
授業のテーマ及び 到達目標	呼吸法や発声など声楽のより幅広い技術の習得と共に内容が楽曲構成を理解し、各自に応じた楽曲を個性豊かに演奏ができる。教職履修学生は課題曲を暗譜し、はっきりとした発音と正しい音程で表情豊かに歌唱できるようにする。					
授業の概要	成の理解をさらに研究	し、個性豊かな	寅奏ができるよう	、より幅広い技術	る。言葉の表現内容の解釈や楽曲構の習得と豊かな心の形成を図る。	

授業のテーマ及び 到達目標	呼吸法や発声など声楽のより幅広い技術の習得と共に内容が楽曲構成を理解し、各自に応じた楽曲を個性豊かに演奏ができる。教職履修学生は課題曲を暗譜し、はっきりとした発音と正しい音程で表情豊かに歌唱できるようにする。					
授業の概要	成の * 声	のいかなる専門においても「歌うこと」は表現の基礎として重要である 理解をさらに研究し、個性豊かな演奏ができるよう、より幅広い技術 楽Ⅲ・Ⅳのテキストに加え、学生個々の進路や個性に応じた教材を「 職履修学生は「赤とんぼ」「浜辺の歌」「荒城の月」「花」を課題曲とし	の習得と豊かな心 <i>0</i> 吏用。試験曲はオペ	D形成を図る。		
	□	学習内容	事前学習	事後学習		
授業計画	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授 業の概要を確認 する	授業内容、課題 曲について確認 する		
	2	各自課題曲13(身体と声の関係)	身体を解放することを意識して練習 する	レッスン内容をま とめる		
	3	各自課題曲13(声の響き)	声の響きを意識し て練習する	レッスン内容をま とめる		
	4	各自課題曲13 (息の流れと身体の支え)	息の流れと身体の 支えを意識して練 習する	レッスン内容をま とめる		
	5	各自課題曲13(発声と発音)	発音と発声を意識 して練習する	レッスン内容をま とめる		
	6	各自課題曲14(発音とリズム)	正しい発音で歌え るように練習する	レッスン内容をま とめる		
	7	各自課題曲14(母音の響き)	豊かな母音の響き で歌えるように練 習する	レッスン内容をま とめる		
	8	各自課題曲14(言葉の響き)	どの言葉も豊かな 響きを歌えるよう に練習する	レッスン内容をま とめる		

9	各自課題曲14(歌詞の意味と表現)	歌詞の意味を理 解して歌う	レッスン内容をま とめる
10	各自課題曲15(母音の響きと呼吸法)	スムーズな息の流 れで歌唱できるよ うに練習する	レッスン内容をま とめる
11	各自課題曲15 (イタリア語の発音と発声)	どの言葉も豊かな 響きを歌えるよう に練習する	レッスン内容をま とめる
12	各自課題曲15(言葉と旋律の関係)	歌詞の意味を理 解し表現できるよ うに練習する	レッスン内容をま とめる
13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱でき るように練習する	呼吸・発声を中心 にレッスン内容を 復習する
14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留 意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッス ン内容を復習する
15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習 する	どのように表現す ればよいかまとめ る

使用教科書	イタリア歌曲集 I (全音楽譜出版社)
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽Ⅵ			科目ナンバリング	NV3M3C14
担当者	桑原 理恵他				
担当形態	クラス分け			単位数	1単位
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次
開講時期	後期				
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
選択・必修区分	選択 BDEF				BDEF
備考	※教職履修学生は履	修が望ましい(声	楽コースを除く)		
			_		
授業のテーマ及び 到達目標	呼吸法や発声など声楽のより幅広い技術の習得と共に、内容や楽曲構成を理解し、各自に応じた楽曲を個性 豊かに演奏できるようになる。				

備考	※教職履修学生は履修が望ましい(声楽コースを除く)								
授業のテーマ及び 到達目標		呼吸法や発声など声楽のより幅広い技術の習得と共に、内容や楽曲構成を理解し、各自に応じた楽曲を個性 豊かに演奏できるようになる。							
授業の概要	解をさ	現の基礎として重要な「歌うこと」を各自の専門に活かせるように、言葉の表現内容の解釈や楽曲構成の理 をさらに研究し、個性豊かな演奏ができるよう、より幅広い技術の習得と豊かな心の形成を図る。 学生個々の進路や個性に応じた教材を使用。試験曲はオペラアリアも可。							
	回	学習内容	事前学習	事後学習					
授業計画	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授 業の概要を確認 する	授業内容、課題 曲について確認 する					
	2	各自課題曲16(発音と呼吸法)	課題曲を原語で練 習する	レッスン内容をま とめる					
	3	各自課題曲16(母音の響き)	母音の響きを意識 して練習する	レッスン内容をま とめる					
	4	各自課題曲16(言葉と響き)	声の響きを意識し て練習する	レッスン内容をま とめる					
	5	各自課題曲16(旋律の表現)	フレーズのまとま りを感じて歌う練 習をする	レッスン内容をま とめる					
	6	各自課題曲17 (言葉の発音と母音の響き)	母音の響きに気を つけてイタリア語 で練習する	レッスン内容をま とめる					
	7	各自課題曲17(言葉と旋律)	原語を旋律に乗 せて歌えるように 練習する	レッスン内容をま とめる					
	8	各自課題曲17(旋律と呼吸)	フレーズと呼吸の 関りを感じて歌え るように練習する	レッスン内容をま とめる					
			,						

9	各自課題曲17(言葉と表現)	歌詞の意味を理 解して歌う	レッスン内容をま とめる
10	各自課題曲18(歌詞と発語)	発音に気をつけて 課題曲を練習する	
11	各自課題曲18 (テンポ・強弱などの表現)	楽譜に書かれて いる表示記号を表 現して歌う	レッスン内容をま とめる
12	各自課題曲18(伴奏と旋律)	伴奏と歌との関り を理解して歌う	レッスン内容をま とめる
13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱でき るように練習する	呼吸・発声を中心 にレッスン内容を 復習する
14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留 意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッス ン内容を復習する
15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習 する	どのように表現す ればよいかまとめ る

使用教科書	楽譜は授業時に指定
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	ピア	ピアノV			科目ナンバリング	NP3M4C05	
担当者	眞錦	協子 他					
担当形態	クラ	ス分け			単位数	1単位	
対象学科	音楽	<b>学科</b>			開設学年	3年次	
開講時期	前期	1					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
選択•必修区分		*	選択必修		選択必修	ΑI	DE
 備考	※作	曲・電子キーボー	-ド・音楽教育・音	楽療法コース必		┗ 収得希望者は履修 <i>カ</i>	が望ましい
授業の概要			たことを更に発展 技術、到達度に応		作品に触れ、より	高度な演奏技術の値	多得と作品理解に
	回		学習	]内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	セメスターの学習計画を立てる				シラバスを読み、 授業内容を確認 する	指示された事柄! ついて練習を進 める
	2 能力に応じた作品を選び、作品の様式・奏法を学ぶ 作品の様式に合っ 身体の使た奏法を考察する を見直す						
	3	3 決定した作品の時代背景を中心に学ぶ				作品の時代背景 を調べる	学びを表現につい
	4	決定した作品の	奏法を中心に学	<u></u> 'ऽ`		作品の正確に合ったふさわしい奏法	次回に向け、学/ だことをまとめる

たふさわしい奏法 を探る

試験課題候補曲

曲の時代背景を

を準備する

調べる

調べる

試験曲の正確な

指示された事柄に

ついて練習を進める

曲に合ったテンポ 学んだ形式をまと 感や音色をつかむ める

曲の様式について学んだ形式をまと

める

読譜を進める

試験の課題曲を決め、読譜する

試験曲の分析①

試験曲の分析②

試験曲の分析③

形式を中心に学ぶ

奏法を中心に学ぶ

時代背景を中心に学ぶ

6

7

8

	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ	同じ時代の他の作 曲家の作品を視 聴する	学んだ様式を整 理する
	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ	構成を形作る上で 重要な強弱法を見 直す	
	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ	ハーモニーと音色 のバランスを確認 する	学んだ和声につ いてまとめる
	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ	内容に合った音色を考える	適確なペダリング ができているか確 認する
	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ	曲の内容をまとめる	技術および表現 法の改善に取り 組む
	14	暗譜の確認	暗譜で安定した演奏が出来るよう練習する	
	15	まとめ	後期の課題候補 曲を準備する	学びの総まとめを する
使用教科書	各担			
参考書•参考資料等				

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度

科目名	ピアノⅥ			科目ナンバリング	NP3M4C06		
担当者	眞銱	眞鍋 協子 他					
担当形態	クラ	ス分け			単位数	1単位	
対象学科	音楽	 学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	]					
	:	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択・必修区分		*	選択必修		選択必修	ADE	
備考	※作	曲・電子キーボー	-ド・音楽教育・音	楽療法コース必何	修/教員免許状耳	Q得希望者は履修 <i>は</i>	が望ましい
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	ことか	各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる  ピアノ I ~ V で修得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の修得と作品理解に努める。一人一人の技術、到達度に応じた指導を行う					
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	セメスターの学 レッスンについっ		મ્ <i>ઇ</i>		課題曲を準備する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	2	能力に応じた作	品を選び、作品の	の様式・奏法を学	స్	作品の様式に合っ た奏法を考察する	
	3	決定した作品の	時代背景を中心	に学ぶ		作品の時代背景 を調べる	学んだ時代背景 をまとめる
	4	決定した作品の	奏法を中心に学	స్		曲に合った表現を試みる	指示された事柄に ついて練習を進 める
	5	試験の課題曲を決め、読譜する				試験課題候補曲 を準備する	試験曲の正確な読譜を進める
	6	試験曲の分析①時代背景を中心に学ぶ				曲の時代背景を調べる	曲に現れる作曲家の特徴をまとめる
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学				曲に合ったテンポ 感や音色をつかむ	指示された事柄に ついて練習を進 める

曲の様式について 学んだ形式をまと 調べる める

試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ

	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ			同じ時代の他の作 曲家の作品を視 聴する	作曲家の独自性 を確認する	
	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ			構成を形作る上で 重要な強弱法を見 直す		
	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ			ハーモニーと音色 のバランスを確認 する	学んだ和声につ いてまとめる	
	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ			内容に合った音色 を考える	適確なペダリング ができているか確 認する	
	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ			曲の内容をまとめ る	技術および表現 法の改善に取り 組む	
	14	暗譜の確認			暗譜で安定した演 奏が出来るよう練 習する		
	15	まとめ・統括			前回までに学んだ 内容を復習する	学びの総まとめを する	
使用教科書	各担	 当教員が推薦・指定する楽譜					
参考書‧参考資料等							
成績評価基準		評価方法	割合		評価のポイント		
	実技試験 100% 課題曲の完成度						

科目名	ピアノVII			科目ナンバリング	NP3M3C07		
担当者	眞銱	協子 他					
担当形態	クラ	ス分け			単位数	1単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期	I					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		選択	選択必修		選択必修	ΑI	DE
備考	※教	員免許状取得希望	望者は履修が望	ましい			
授業のテーマ及び 到達目標		こ課せられた楽 <b>は</b> べできる	まままままままま ままま ままま おまま ままま ままま ままま ままま まま	でに完成させる。	毎時間の課題を	十分に予習・復習し	てレッスンに臨む
授業の概要		′ I ~Ⅵで修得し る。一人一人の打			作品に触れ、よりア	高度な演奏技術の傾	8得と作品理解に
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	セメスターの学習 レッスンについて		સ્ਲ		シラバスを読み、 授業内容を確認 する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	2	能力に応じた作	品を選び、作品の	の様式・奏法を学	స	作品の様式に合っ た奏法を考察する	
	3	決定した作品の	時代背景を中心	に学ぶ		作品の時代背景 を調べる	学びを表現につな げる
	4	決定した作品の	奏法を中心に学	స్		作品の正確に合っ たふさわしい奏法 を探る	次回に向け、学ん だことをまとめる
	5	試験の課題曲を	決め、読譜する			試験課題候補曲 を準備する	試験曲の正確な読譜を進める
		試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ				曲の時代背景を調べる	曲に現れる作曲 家の特徴をまとめる
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学			曲に合ったテンポ 感や音色をつかむ		
	8	試験曲の分析③ 形式を中心に学				曲の様式について 調べる	学んだ形式をまと める

	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ			同じ時代の他の作 曲家の作品を視 聴する	作曲家の独自性 を確認する	
	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ			構成を形作る上で 重要な強弱法を見 直す		
	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ			ハーモニーと音色 のバランスを確認 する	学んだ和声につ いてまとめる	
	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ			内容に合った音色 を考える	適確なペダリング ができているか確 認する	
	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ			曲の内容をまとめ る	技術および表現 法の改善に取り 組む	
	14	暗譜の確認			暗譜で安定した演 奏が出来るよう練 習する		
	15	まとめ・統括			前回までに学んだ 内容を復習する	学びの総まとめを する	
使用教科書	各担	 当教員が推薦・指定する楽譜					
参考書‧参考資料等							
成績評価基準		評価方法	割合		評価のポイント		
	実技試験 100% 課題曲の完成度						

科目名	ピア	<b>ノ</b> Ⅷ			科目ナンバリング	NP3M3C08	
担当者	眞鍋	協子 他					
担当形態	クラ	ス分け			単位数	1単位	
対象学科	音楽	·············· 学科			開設学年	4年次	
開講時期	後期	l					
	:	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択•必修区分		選択	選択必修		選択必修	AD	EF
備考	※教	員免許状取得希望	望者は履修が望	ましい			
授業のテーマ及び 到達目標	ことか	<b>べきる</b>				十分に予習・復習し	
授業の概要		ピアノI 〜 TTで修得したことを更に発展させる。多様な作品に触れ、より高度な演奏技術の修得と作品理解に努める。一人一人の技術、到達度に応じた指導を行う					
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	セメスターの学習 レッスンについて		₹め		課題曲を準備する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	2	能力に応じた作	品を選び、作品の	の様式・奏法を学	゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	作品の様式に合っ た奏法を考察する	指示された奏法を 取り入れ練習する
	3	決定した作品の	時代背景を中心	に学ぶ		作品の時代背景 を調べる	学んだ時代背景 をまとめる
						指示された事柄に ついて練習を進 める	
	5	5 試験の課題曲を決め、読譜する				試験課題候補曲 を準備する	試験曲の正確な読譜を進める
	6	6 試験曲の分析① 時代背景を中心に学ぶ				曲の時代背景を 調べる	曲に現れる作曲 家の特徴をまとめる
	7	試験曲の分析② 奏法を中心に学				曲に合ったテンポ 感や音色をつかむ	指示された事柄に ついて練習を進 める

曲の様式について 学んだ形式をまと 調べる める

8

試験曲の分析③ 形式を中心に学ぶ

	9	試験曲の構成① 様式を中心に学ぶ			同じ時代の他の作 曲家の作品を視 聴する	作曲家の独自性 を確認する	
	10	試験曲の構成② 強弱法を中心に学ぶ			構成を形作る上で 重要な強弱法を見 直す		
	11	試験曲の構成③ 和声を中心に学ぶ			ハーモニーと音色 のバランスを確認 する	学んだ和声につ いてまとめる	
	12	試験曲の表現法① 音色を中心に学ぶ			内容に合った音色 を考える	適確なペダリング ができているか確 認する	
	13	試験曲の表現法② 奏法を中心に学ぶ			曲の内容をまとめ る	技術および表現 法の改善に取り 組む	
	14	暗譜の確認			暗譜で安定した演 奏が出来るよう練 習する		
	15	まとめ・統括			前回までに学んだ 内容を復習する	学びの総まとめを する	
使用教科書	各担	 当教員が推薦・指定する楽譜					
参考書‧参考資料等							
成績評価基準		評価方法	割合		評価のポイント		
	実技試験 100% 課題曲の完成度						

科目名	演奏実技V 科目			科目ナンバリング	NC3M3T19		
担当者	実技	系教員(主に	管弦打)				
担当形態	クラ	ス分け			単位数	1単位	
対象学科	音楽	 学科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	I					
	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択・必修区分		*				АВ	DE
備考	※原見	則として声楽・ピス	アノ・管弦打は選	択不可			
授業のテーマ及び到達目標	いて <i>0</i> 原則 <i>8</i>	か知識と演奏技術	ずを身に付けるこ  したことのある楽	とができる ************************************	門(例えば管弦打:	等の経験者が更に 楽器)に準ずるほど 等レベルのレッスン:	の実力を持ってい
	□		学習	·  内容		事前学習	事後学習
授業計画		ガイダンス(年間	計画等)			事前に練習をしておく	次のレッスンへの 準備
	2	エチュードの選別 (内容の説明 化				事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードD-1				事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードD-2				事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードD-3				事前練習	学修内容の復習
	6	6 エチュードD-4			事前練習	学修内容の復習	
	7	7 エチュードD-5			事前練習	学修内容の復習	
	8	エチュードD-6				事前練習	学修内容の復習

9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
10	ソロ曲D-1	事前練習	学修内容の復習
11	ソロ曲D-2	希望する曲を探し ておく	学修内容の復習
12	ソロ曲D-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
13	ソロ曲D-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
14	ソロ曲D-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント		
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢		
	演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かせているか		

科目名	演奏実技Ⅵ 科目ナンバリン			科目ナンバリング	NC3M3T20		
担当者	実技	系教員(主に	管弦打)				
担当形態	クラン	ス分け			単位数	1単位	
対象学科	音楽	 学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	I					
	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択・必修区分		*				АВ	DE
備考	※原見	則として声楽・ピス	アノ・管弦打は選	択不可			
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	いて <i>0</i> 原則 <i>8</i>	か知識と演奏技術	うを身に付けるこ  したことのある楽	とができる ************************************	門(例えば管弦打:	等の経験者が更に 楽器)に準ずるほど 等レベルのレッスン	の実力を持ってい
	回			 <sup>1</sup> 内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	ガイダンス(年間	引計画等)			事前に練習をしておく	次のレッスンへの 準備
	2	エチュードの選別 (内容の説明 作				事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードE-1				事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードE-2				事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードE-3				事前練習	学修内容の復習
	6	6 エチュードE-4			事前練習	学修内容の復習	
	7	7 エチュードE-5			事前練習	学修内容の復習	
	8	エチュードE-6				事前練習	学修内容の復習

9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
10	ソロ曲E-1	事前練習	学修内容の復習
11	ソロ曲E-2	希望する曲を探し ておく	学修内容の復習
12	ソロ曲E-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
13	ソロ曲E-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
14	ソロ曲E-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
	演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かせているか

科目名	演奏				科目ナンバリング	NC3M3T21	
 担当者	実技	系教員(主に	管弦打)			I	
担当形態	クラ	ス分け			単位数	1単位	
対象学科	音楽	· 学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期	l					
477 I	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		*				AB	DF
備考	※原	則として声楽・ピス	アノ・管弦打は選	択不可			
授業のテーマ及び到達目標	いて <i>0</i> 原則	か知識と演奏技術	で多い付けるこ 	とができる 器について、専「	門(例えば管弦打:	等の経験者が更に 楽器)に準ずるほど 等レベルのレッスン:	の実力を持ってい
		こ列し、用語する I			以外は守口に向:		
	□		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	ガイダンス(年間	引計画等)			事前に練習をして おく	次のレッスンへの 準備
	2	エチュードの選覧(内容の説明 イ				事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードF-1				事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードF-2				事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードF-3				事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードF-4				事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードF-5				事前練習	学修内容の復習
	8	エチュードF-6				事前練習	学修内容の復習

9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
10	ソロ曲F-1	事前練習	学修内容の復習
11	ソロ曲F-2	希望する曲を探し ておく	学修内容の復習
12	ソロ曲F-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
13	ソロ曲F-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
14	ソロ曲F-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
	演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かせているか

科目名	演奏	実技垭			科目ナンバリング	NC3M3T22	
担当者	実技	系教員(主に	管弦打)				
担当形態	クラ	ス分け			単位数	1単位	
対象学科	音楽	 学科			開設学年	4年次	
開講時期	後期	l					
	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		*				AB	DF
備考	※原	則として声楽・ピス	アノ・管弦打は選	択不可			
授業のテーマ及び到達目標	いての	D知識と演奏技術	がを身に付けるこ	とができる		等の経験者が更に	
授業の概要						等レベルのレッスン	
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	ガイダンス(年間	引計画等)			事前に練習をしておく	次のレッスンへの 準備
	2	エチュードの選別 (内容の説明 代				事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードG-1				事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードG-2				事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードG-3				事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードG-4				事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードG-5				事前練習	学修内容の復習
	8	エチュードG-6				事前練習	学修内容の復習

9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
10	ソロ曲G-1	事前練習	学修内容の復習
11	ソロ曲G-2	希望する曲を探し ておく	学修内容の復習
12	ソロ曲G-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
13	ソロ曲G-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
14	ソロ曲G-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
	演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かせているか

科目名	合唱	١V			科目ナンバリング	MC3M1T05	
 担当者	菊村	   隆史					
担当形態	単独	ļ			単位数	2単位	
対象学科	両学	科共通			開設学年	3年次	
開講時期	前期	]					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択・必修区分		必修				ABC	DEF
備考							
授業のテーマ及び 到達目標	すると		品の演奏に際して	て必要となる基本		ンブル表現の多様習得することを目標の	
授業の概要		-イ·システムのホ 品に取り組む	既念に基づき、合	3唱音楽の演奏に	ふさわしい清潔な	きまと音程感覚を養し	いながら様々な合
	□		学習	3内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	ガイダンス授業計画発表・	学修内容の説明	シラバスを確認	計画を立てる		
	2			)ための基本的な と発声のメカニズ		演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	2	その実習①呼気 する 合唱(コーラス・	ῗのコントロール。 		ムについて研究 発声法の修得と	演習楽曲の研究と 練習 演習楽曲の研究と 練習	習•反復練習
	_	その実習①呼気する 合唱(コーラス・その実習②安定	₹のコントロール。 アンサンブル)の ≧感のあるブレス アンサンブル)の	と発声のメカニズ. 	ムについて研究  発声法の修得と ついて研究する  発声法の修得と	練習 演習楽曲の研究と	習・反復練習 課題に基づき復 習・反復練習
	3	その実習①呼気する 合唱(コーラス・その実習②安定 合唱(コーラス・その実習③様々 究する	表のコントロール。 アンサンブル)の E感のあるブレス アンサンブル)の ななパッセージを	と発声のメカニズ	ムについて研究  発声法の修得と ついて研究する  発声法の修得と	練習 演習楽曲の研究と練習 演習楽曲の研究と	習・反復練習 課題に基づき復習・反復練習 課題に基づき復 課題に基づき復習・反復練習
	3	その実習①呼気する 合唱(コーラス・その実習②安定 合唱(コーラス・その実習③様々 究する	ででは、 でのコントロール。 アンサンブル)のでであるブレス アンサンブル)のででなパッセージをでいまゼーションそ	と発声のメカニズ.  のための基本的なに立脚した声にでいための基本的な歌唱し自らの声と	ムについて研究  発声法の修得と ついて研究する  発声法の修得と	練習 演習楽曲の研究と 練習 演習楽曲の研究と 練習 演習楽曲の研究と 練習	習・反復練習 課題に基づき復習・反復練習 課題に基準習を復習・反復練習を復習・反復練習を復調・反復練習を復調できる。
	3 4 5	その実習①呼気する	ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	と発声のメカニズ.  のための基本的なに立脚した声にでいための基本的な歌唱し自らの声と	ムについて研究 発声法の修得と 発声法の修得と 発声はついて研	練習 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と	習・反復練習 課題に基練習 課題反復 課題反復 課題反復 課題反復 課題 でを でを でを でを でを できる できる できる できる できる できる できる できる できる できる

9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Aの実習、発語(ディクション)について研究する	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語(ディクション)について研究する	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
15	前期の総括	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習

	使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
ı	参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かせている
	課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み

科目名	合唱	₿VI			科目ナンバリング	MC3M1T06	
 担当者	桑原	 〔 理恵·村橋	和子•菊村				
担当形態	単独	l			単位数	2単位	
 対象学科	両学	—————— <sup>2</sup> 科共通			開設学年	3年次	
開講時期	後期	]					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		必修				ABC	DEF
備考							
授業のテーマ及び 到達目標	すると		品の演奏に際して	て必要となる基本		ンブル表現の多様習得することを目標の	
授業の概要		-イ・システムの# 品に取り組む	既念に基づき、合	1唱音楽の演奏に	ふさわしい清潔な	こ声と音程感覚を養し	いながら様々な合
	回		学習	引内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	ガイダンス 作品演奏にふさ うトレーニングに	わしい発声、発 取り組む	語に留意しながら	和声的感覚を養	前期の学修内容 を復習	計画を立てる
	2	楽曲演奏と実習 組曲第1曲の演				演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	3		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				習•反復練習
		組曲第1曲の演 集曲演奏と実習	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			練習 演習楽曲の研究と	習・反復練習 課題に基づき復 習・反復練習
	3	組曲第1曲の演 楽曲演奏と実習 組曲第2曲の演 楽曲演奏と実習	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			練習 演習楽曲の研究と練習 演習楽曲の研究と	習・反復練習 課題に基づき復習・反復練習 課題に基づき復 課題に基づき復習・反復練習
	3	組曲第1曲の演 楽曲演奏と実習組曲第2曲の演 楽曲演奏と実習組曲第3曲の演	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			練習 演習楽曲の研究と 練習 演習楽曲の研究と 練習 演習楽曲の研究と 練習	習・反復練習 課題に基づき復習・反復練習 課題に基準習 課題に基準習 課題に基準習 課題に基準習
	3 4 5	組曲第1曲の演 楽曲は第2曲の演奏ととの 奏曲の実 経組曲第3曲をといる。 奏曲の実 を出の実 を出の実 を出の実 をといる。 をとと、 をとと、 をとと、 をとと、 をとと、 をとと、 をとと、 をとと	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			練習 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と	習・反復練習 課題に基練習 記・反復 課題に及 を を で を で を を で を で を で を を で を を で を を う で り で り で り で り で り で り で り で り で り で

9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
12	楽曲演奏と研究① 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
13	リハーサル	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
14	演奏会	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
15	反省と総括	演習楽曲の研究と 練習	合唱音楽につい てまとめる

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する.詳細は授業時に指示する
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かせている
	課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み

科目名	合唱	¦VII			科目ナンバリング	MC3M4T07	
担当者	菊村	上 隆史					
担当形態	単独	Į.			単位数	2単位	
対象学科	両学	料共通			開設学年	4年次	
開講時期	前期	 ]					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		*				ABC	DEF
備考	※声	楽コース必修				-	
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	すると 合唱・	とともに、合唱作は 音楽の本質的なり	品の演奏に際して 魅力に迫ることか	で必要となる基本 できる	的なテクニックを	ンブル表現の多様 習得することを目標。 な声と音程感覚を養し	とし、芸術としての
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画		ガイダンス授業計画発表・	学修内容の説明	・パート編成分け	+	シラバスを確認	計画を立てる
	2	合唱(コーラス・ その実習①呼気 する			発声法の修得と ムについて研究	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復習・反復練習
	3		アンサンブル)の	ための其本的な	※主:ナの枚須し	演習楽曲の研究と	課題に基づき復
		その実習②安瓦 	≧感のあるブレス	に立脚した声に		練習	習・反復練習
	4	合唱(コーラス・	アンサンブル)の	に立脚した声に <sup>・</sup> 			
		合唱(コーラス・ その実習③様々 究する アンサンブル・ト	アンサンブル) の なパッセージを	に立脚した声にない ための基本的な 歌唱し自らの声と	ついて研究する  発声法の修得と	練習 演習楽曲の研究と	課題に基づき復習・反復練習
	5	合唱(コーラス・ その実習③様々 究する アンサンブル・ト 移動ド唱法とソル アンサンブル・ト	アンサンブル) のななパッセージを なパッセージを レーニングの修り ルミゼーションその	に立脚した声にでための基本的な歌唱し自らの声と 得とその実習① の1	ついて研究する  発声法の修得と	練習 演習楽曲の研究と 練習 演習楽曲の研究と	課題に基づき復習・反復練習 課題に基づき復 課題に基づき復 習・反復練習
	5	合唱(コーラス・ その実習③様々 究する アンサンブル・ト 移動ド唱法とソル アンサンブル・ト	アンサンブル)のななパッセージをデレーニングの修うレーニングの修りレミゼーションそのレニゼーションその	に立脚した声にでための基本的な歌唱し自らの声と 得とその実習① の1 得とその実習② の2	ついて研究する  発声法の修得と	練習 演習楽曲の研究と 演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復習・反復練習 課題に基づき復習・反復練習 課題に基づき復習・反復練習

9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Aの実習、発語(ディクション)について研究する	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語(ディクション)について研究する	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
15	前期の総括	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習

	使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
ı	参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かせている
	課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み

科目名	合唱	Į VIII			科目ナンバリング	MC3M4T08	
担当者	桑原	〔 理恵·村橋	和子•菊村	隆史			
担当形態	単独	l.			単位数	2単位	
対象学科	両学	4科共通			開設学年	4年次	
開講時期	後期	l			•	•	
<sup>2</sup> 中,2 <b>次</b> 反 八		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		*				ABC	DEF
備考	※声	楽コース必修					
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	すると 合唱 <sup>:</sup> コダ-	とともに、合唱作品音楽の本質的なり	品の演奏に際して 魅力に迫ることか	で必要となる基本 できる	▶ 的なテクニックを	・ンブル表現の多様・習得することを目標。	とし、芸術としての
	□		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画		ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和 うトレーニングに取り組む			ら和声的感覚を養	前期の学修内容 を復習	計画を立てる
	2	楽曲演奏と実習 組曲第1曲の演				演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	楽曲演奏と実習				演習楽曲の研究と	
		組曲第2曲の演	矢			練習	習・反復練習
	4	組曲第2曲の演 楽曲演奏と実習 組曲第3曲の演	'3			練習 演習楽曲の研究と 練習	
	4 5	楽曲演奏と実習	<sup>1</sup> ③ 奏			演習楽曲の研究と	課題に基づき復習・反復練習
	Ė	楽曲演奏と実習組曲第3曲の演楽曲演奏と実習	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			演習楽曲の研究と練習 演習楽曲の研究と	課題に基づき復習・反復練習 課題に基づき復習・反復練習
	5	楽曲演奏と実習 組曲第3曲の演 楽曲演奏と実習 組曲第4曲の演 楽曲演奏と実習	13 奏 14 奏 15 奏			演習楽曲の研究と練習 演習楽曲の研究と練習 演習楽曲の研究と	課題に基づき復習・反復練習 課題に基づき復習・反復練習 でを複響 課題に基づき復習・反復練習・反復練習

9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
12	楽曲演奏と研究① 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
13	リハーサル	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
14	演奏会	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
15	反省と総括	演習楽曲の研究と 練習	合唱音楽につい てまとめる

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する.詳細は授業時に指示する
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かせている
	課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み

科目名	合奏Ⅴ			科目ナンバリング	MC3M4T13			
担当者	馬辽	ᇫ 勇•柏尾 岡	削德 他					
担当形態	クラ	ラス分け 単位数				2単位		
対象学科	音楽	············ 学科			開設学年	3年次		
開講時期	前期	1						
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー	
選択∙必修区分		必修			選択必修	ABC	DEF	
備考	※管	弦打楽コース必修	多/音楽療法士 <sup>-</sup>	详「22単位以上」、2和	種においては「14単			
授業のテーマ及び 到達目標	大事に裏	軍者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを 事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演するすることと同時 裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるよこなる						
授業の概要	を主		に「打楽器」、「ヴ			こでは主科生中心 <i>0</i> それぞれの担当者		
	回 学習内			内容	内容		事後学習	
授業計画	1	オリエンテーション(授業計画等)				シラバスを確認	次の授業に備える	
	2	基礎合奏 他				教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習	
	3	合奏における注	意点 他	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習			
	4	吹奏楽コンクー (毎年発表される	ル課題曲 I る全日本吹奏楽:	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習			
	5	吹奏楽コンクー (毎年発表される		コンクール課題曲	(OI)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習	
	6	吹奏楽コンクー (毎年発表される		コンクール課題曲	<b>(ОШ</b> )	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習	
	7	吹奏楽コンクー(毎年発表される		コンクール課題曲	(OIV)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習	
							注意や指摘され	

9	定期演奏会プログラム① (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
10	定期演奏会プログラム② (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
11	定期演奏会プログラム③ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
12	定期演奏会プログラム④ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
13	総リハーサル (本番を想定し、緊張感をもって臨む)	プログラム全曲に ついて、注意すべ き点をチェックする	たところの反復練
14	定期演奏会 (これまでの内容を演奏会に活かす)	本番に備えての準備他	本番を終えての 反省点をまとめる
15	総括と反省会	反省点をまとめて 準備しておく	前期で学んだこと の確認と後期へ の展望を考える

使用教科書	各担当者により指示
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	合奏	合奏Ⅵ 科目ナ			科目ナンバリング	MC3M4T14	
担当者	馬込	込 勇・柏尾 剛德 他					
担当形態	クラ:	プラス分け単位数				2単位	
対象学科	音楽	f楽学科 開設学年				3年次	
開講時期	後期	<u> </u>					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		必修選択必修				ABC	DEF
備考					 ⋠「22単位以上」、2種	重においては「14単	
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	加し、 アンヤ を主と	前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養うことができる。 アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内を主主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容については					も養うことができる
	回	学習内容			事前学習	事後学習	
授業計画	1	前期の復習(前期に学んだ)	ことの復習および確認)			前期で学んだことを今一度復習して おく	次の授業に備える
	2	基本的奏法の修 (教材となる曲の	多得とその応用① D発表とその音出			教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	基本的奏法の修得とその応用② (教材曲の演奏と分析)				教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	基本的奏法の修 (リズム・音程の				教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	5	基本的奏法の修 (リズム・音程の		) 基に発想を自由に	転換)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	(リズム・音程の基本的奏法の修	トレーニングを基	基に発想を自由に 	転換)	叙材となつ (いる	
		(リズム・音程の 基本的奏法の修 (独奏では経験) 基本的奏法の修	トレーニングをを を得とその応用 できない音楽体	<ul><li>は、発想を自由に</li><li>が検をする)</li><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<ul><li>は、<u< td=""><td>転換)</td><td>教材となっている 楽曲の研究と練習 数材となっている</td><td>たところの反復練習 注意や指摘されたところの反復練</td></u<></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul></li></ul>	転換)	教材となっている 楽曲の研究と練習 数材となっている	たところの反復練習 注意や指摘されたところの反復練

9	基本的奏法の修得とその応用® (各楽器・パートそれぞれの役割について)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
10	基本的奏法の修得とその応用⑨ (様々な楽器の特色と奏法)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
11	基本的奏法の修得とその応用⑩ (音楽的表現における音色の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
12	基本的奏法の修得とその応用① (更なる表現方法の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
13	まとめ① (教材楽曲を通しての確認と応用①)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
14	まとめ② (教材楽曲を通しての確認と応用②)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
15	まとめ③ (教材楽曲の発表会[ミニコンサート])	発表会への準備 等	授業の総括と反 省

使用教科書	各担当者により指示
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	合奏Ⅷ			科目ナンバリング	MC3M4T15			
担当者	馬込	▲ 勇•柏尾 岡	削德 他					
担当形態	クラ	ラス分け単位数				2単位		
対象学科	音楽	 <b>学</b> 科			開設学年	4年次		
開講時期	前期	1						
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー	
選択・必修区分		必修			選択必修	ABC	DEF	
備考	※管	弦打楽コース必何	多/音楽療法士	詳「22単位以上」、2和	重においては「14単			
授業のテーマ及び 到達目標	大事に裏	軍者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを 事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演するすることと同時 裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるよ こなる					るすることと同時	
授業の概要	を主る		に「打楽器」、「ヴ			こでは主科生中心 <i>0</i> それぞれの担当者		
	□		学習	門内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1	オリエンテーション(授業計画等)				シラバスを確認	次の授業に備える	
	2	基礎合奏 他				教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習	
	3	合奏における注	意点 他	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習			
	4	吹奏楽コンクー (毎年発表される		コンクール課題曲	Φ I )	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習	
	5	吹奏楽コンクー (毎年発表される		コンクール課題曲	<b>の</b> Ⅱ)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	
	6	吹奏楽コンクー (毎年発表される		コンクール課題曲	<b> の</b> 皿)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習	
	7	吹奏楽コンクー (毎年発表される		コンクール課題曲	IOIV)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習	
		8 吹奏楽コンクール課題曲 V (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲の V)				教材となっている	注意や指摘されたところの反復練	

9	定期演奏会プログラム① (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
10	定期演奏会プログラム② (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
11	定期演奏会プログラム③ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
12	定期演奏会プログラム④ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
13	総リハーサル (本番を想定し、緊張感をもって臨む)	プログラム全曲に ついて、注意すべ き点をチェックする	たところの反復練
14	定期演奏会 (これまでの内容を演奏会に活かす)	本番に備えての準備他	本番を終えての 反省点をまとめる
15	総括と反省会	反省点をまとめて 準備しておく	前期で学んだこと の確認と後期へ の展望を考える

使用教科書	各担当者により指示
参考書•参考資料等	

成績評価基準	<b>基準</b> 評価方法		評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
課題演奏		70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	合奏Ⅷ			科目ナンバリング	MC3M4T16		
———————————— 担当者	馬込 勇・柏尾 剛德 他						
担当形態	クラス分け				単位数	2単位	
対象学科	音楽学科				開設学年	4年次	
開講時期	後期						
33 In . V. 6 - 1	卒業要	件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
選択・必修区分	必修				選択必修	ABCDEF	
備考	※管弦打楽コ	一ス必修	/音楽療法士1	種においては実	技に関する科目郡	详「22単位以上」、2和	種においては「14単
授業のテーマ及び 到達目標		前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養い、実践できるようになる					
授業の概要	アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする						
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画		1 前期の復習 (前期に学んだことの復習および確認)				前期で学んだこと を今一度復習して おく	次の授業に備える
			修得とその応用① の発表とその音出し)			教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
		3 基本的奏法の修得とその応用② (教材曲の演奏と分析)				教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4 基本的奏法の修得とその応用③ (リズム・音程のトレーニング)				教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	
	基本的奏法の修得とその応用④ (リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換)			教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
		基本的奏法の修得とその応用⑤ (独奏では経験できない音楽体験をする)				教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	# + 44:	奏法の修	得とその応用⑥	)		教材となっている	注意や指摘されたところの反復練
			通して曲の表現	方法を学ぶ)		楽曲の研究と練習	習

9	基本的奏法の修得とその応用® (各楽器・パートそれぞれの役割について)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
10	基本的奏法の修得とその応用⑨ (様々な楽器の特色と奏法)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
11	基本的奏法の修得とその応用⑩ (音楽的表現における音色の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
12	基本的奏法の修得とその応用① (更なる表現方法の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
13	まとめ① (教材楽曲を通しての確認と応用①)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
14	まとめ② (教材楽曲を通しての確認と応用②)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
15	まとめ③ (教材楽曲の発表会[ミニコンサート])	発表会への準備 等	授業の総括と反 省

使用教科書	各担当者により指示
参考書•参考資料等	

成績評価基準 評価方法		割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
課題演奏		70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アンサンブル I (重唱)				科目ナンバリング	CP3M1N45	
担当者	桑原 理恵						
担当形態	単独					2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	I					
	:	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		*				ABO	CDE
備考	※声	楽コース必修				•	
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	互いの発音(母音の響き)やフレーズ感をあわせ、ハーモニーを感じながら歌唱できる。歌詞の内容を把握した表現ができる。  歌曲を中心にオペラ・宗教曲・カンタータ・ミュージカルなどの重唱曲を課題とし、ソロとは異なるアンサンブルに必要な能力を養う。						
	回		学習	 ]内容		事前学習	事後学習
授業計画		授業内容の説明	引と課題曲決め			シラバスを読み授 業の概要を確認 する	課題曲の内容を調べる
	2	課題曲1・2 (発音練習と詩の	の朗読・歌唱)			発音練習と譜読み	指導内容と課題 点をまとめる
	3	課題曲1・2 (言葉と響きの7	<i>?</i> ンサンブル)			発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題 点をまとめる
	4	課題曲1·2 (内容研究·歌唱	<b>]</b> )			詩の朗読 作品についての予 習	指導内容と課題 点をまとめる
	5	課題曲3・4 (発音練習と詩(	の朗読・歌唱)			発音練習と譜読み	指導内容と課題 点をまとめる
	6 課題曲3・4 (言葉と響きのアンサンブル) 7 課題曲3・4 (内容研究・歌唱)					発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題点をまとめる
						詩の朗読 作品についての予 習	指導内容と課題 点をまとめる
	8	課題曲5・6 (発音練習と詩の	の朗読・歌唱)			発音練習と譜読み	指導内容と課題 点をまとめる

9	課題曲5·6 (言葉と響きのアンサンブル)	発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題 点をまとめる
10	課題曲5·6 (内容研究·歌唱)	詩の朗読 作品についての予 習	指導内容と課題 点をまとめる
11	課題曲1~6 (アンサンブルのパートナーの決定・歌唱)	課題曲の歌唱	指導内容と課題 点をまとめる
12	課題曲1~6 (言葉と響きのアンサンブルをさらに探究する)	パートナーとの歌 唱練習	指導内容と課題 点をまとめる
13	課題曲1~6 (内容表現をさらに探究する)	パートナーとの歌 唱練習	指導内容と課題 点をまとめる
14	課題曲1~6 (アンサンブルの仕上げ)	パートナーとの歌 唱練習	指導内容と課題 点をまとめる
15	まとめ (アンサンブルの演奏発表と講評)	パートナーとの歌 唱練習	指導内容と課題 点をまとめる

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)		詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み
	期末テスト		アンサンブルのバランス・音楽的表現

シー
を把握した
重唱曲を課
後学習
由の内容を
P容と課題 とめる

9	課題曲11・12 (言葉と響きのアンサンブル)	発声練習 課題曲の歌唱	指導内容と課題 点をまとめる
10	課題曲11·12 (内容研究·歌唱)	詩の朗読 作品についての予 習	指導内容と課題 点をまとめる
11	課題曲7~12 (アンサンブルのパートナーの決定・歌唱)	課題曲の歌唱	指導内容と課題 点をまとめる
12	課題曲7~12 (言葉と響きのアンサンブルをさらに探究する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題 点をまとめる
13	課題曲7~12 (内容表現をさらに探究する)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題 点をまとめる
14	課題曲7~12 (アンサンブルの仕上げ)	パートナーとの歌唱練習	指導内容と課題 点をまとめる
15	まとめ (アンサンブルの演奏発表と講評)	パートナーとの歌 唱練習	指導内容と課題 点をまとめる

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み
	期末テスト	50%	アンサンブルのバランス・音楽的表現

科目名	アンサンブル I (ピアノ)			科目ナンバリング	CP3M1N45		
担当者	眞鍋	協子 他					
担当形態	クラ	ス分け			単位数	2単位	
対象学科	音楽	············· 学科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	]					
ᇃᇷᄽᄷᄝᄼ	:	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択•必修区分		*				ABO	CDE
備考	※ピフ	アノコース必修					
授業のテーマ及び 到達目標						・ぶ。2人で1つの音楽 意欲を持ち作品にE	
授業の概要	て学ん授業	。 ぶ。 はレッスン形式で	·行う。	こより、独奏とは昇 人1組を中心に学		や音のバランスなど	の表現方法につい
	□		学習	日内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	学修計画を立て 簡単な連弾曲を	る 初見で演奏する		連弾曲について調 べる	モーツァルト連弾 ソナタを聴く	
	モーツァルトの四手のためのピアノソナタの中から楽曲を決定する 初見で合わせてみる					モーツァルトの連 弾ソナタを調べる	モーツァルト連弾 ソナタを弾く
	3					モーツァルトの時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練 習する
	4	連弾の構成① 和声を中心に学	修する			プリモとセコンドに 分かれて練習する	各パート奏法の追求
	5	連弾の構成② 様式を中心に学	修する			指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	6	6 連弾曲の構成③ 形式を中心に学修する			ソナタ形式を調べる	楽曲分析	
7 モーツァルトソナタ連弾曲を分析する① プリモ・セコンドの意義					奏法を各パートに 即して練習	指示された事柄に ついて練習を進 める	
	8	モーツァルトソナ 和声を中心に学		- - する②		和声を調べる	和声を意識して練習

9	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する④ 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強 弱のバランスを取 る	音色の追求
11	モーツァルトソナタ連弾曲を分析する⑤ 全楽章の構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底
12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追 求	楽曲全体の音の 調和
14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄に ついて練習を深 める
15	総括 音色やアーティキュレーションのまとめ	課題曲の全ての 項目を練習する	楽曲演奏の改善 点を探る

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	楽曲の完成度
	平常点(行動観察)		授業態度・毎時間の振り返り

							1	
科目名	アンサンブル Ⅱ (ピアノ)			科目ナンバリング	CP3M1N46			
担当者	眞鍋	真鍋 協子 他						
担当形態	クラ	ス分け			単位数	2単位		
対象学科	音楽	 :学科			開設学年	3年次		
開講時期	後期							
	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー	
選択・必修区分		*				ABCDE		
備考	※ピフ	アノコース必修						
授業のテーマ及び 到達目標	ら読∂	外取る力を向上さ	せ、音楽性を高	めることができる		楽しさを理解すること や音のバランスなど		
授業の概要	て学え		行う。			( 60)	0745 <sub>0</sub> 71/41C 20	
	□		学習	内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1	後期の学習計画連弾曲または、		選曲する		アンサンブル曲に ついて調べる	アンサンブル曲を 聴く	
	2	2 古典から印象派までのアンサンブル作品の決定			した曲の分析	アンサンブル曲に ついて調べる	アンサンブル曲を 数曲弾く	
	3	決定した楽曲の	時代背景を中心	に学ぶ		楽曲の時代背景を調べる	指示された内容まで到達するよう練 習する	
		連弾・2台ピアノ 和声を中心に学				プリモとセコンドに 分かれて練習する	各パート奏法の追求	
		5 連弾・2台ピアノ曲の構成② 様式を中心に学修する 6 連弾・2台ピアノ曲の構成③ 形式を中心に学修する			指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める		
					形式を調べる	楽曲分析		
	7	7 選択した課題曲を分析する① 各パートの意義				奏法を各パートに 即して練習	指示された事柄に ついて練習を進 める	
		選択した課題曲和声を中心に学				和声を調べる	和声を意識して練習	

9	選択した課題曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
10	選択した課題曲を発展させる① 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強 弱のバランスを取 る	音色の追求
11	選択した課題曲を発展させる②全楽章の構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底
12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追 求	楽曲全体の音の 調和
14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄に ついて練習を深 める
15	総括 音色やアーティキュレーションのまとめ	課題曲の全ての 項目を練習する	楽曲演奏の改善 点を探る

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	楽曲の完成度
	平常点(行動観察)	20%	授業態度・毎時間の振り返り

科目名	アンサンブルⅢ(ピアノ)			科目ナンバリング	PP3M3N47		
 担当者	真鍋 協子 他					l	
担当形態	クラス分け				単位数	2単位	
対象学科	音楽	 :学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期						
	2	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		選択				ABC	DEF
備考	※ピフ	アノコースの学生	は必ず履修する	ځا			
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	古典から近現代までの連弾曲・2台ピアノを題材にして、アンサンブルの楽しさを理解することができる。楽譜から読み取る力を向上させ、音楽性を高めることができる アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。授業はレッスン形式で行う。学生のそれぞれ力を考慮しながら2人1組を中心として学ぶ。						
		ナンフルを行っこ。			ニーや音のハランス	スなどの表現方法に	· ·
155 MF = 1			字省	7内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	1 学修計画を立てる 簡単な連弾曲を初見で演奏する				アンサンブル曲に ついて調べる	アンサンブル曲を 聴く
	2	古典から印象派	までのアンサン	ブル作品の決定し	した曲の分析	アンサンブル曲に ついて調べる	アンサンブル曲を 数曲弾く
	3	決定した楽曲の	時代背景を中心	に学ぶ		楽曲の時代背景 を調べる	指示された内容まで到達するよう練 習する
		連弾・2台ピアノ 和声を中心に学				プリモとセコンドに 分かれて練習する	各パート奏法の追求
		連弾・2台ピアノ 様式を中心に学				指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
		<ul> <li>連弾・2台ピアノ曲の構成③</li> <li>形式を中心に学修する</li> <li>選択した課題曲を分析する①</li> <li>各パートの意義学修する</li> </ul>				形式を調べる	楽曲分析
						奏法を各パートに 即して練習	指示された事柄に ついて練習を進 める
		選択した課題曲和声を中心に学				和声を調べる	和声を意識して練習

9	選択した課題曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
10	選択した課題曲を発展させる① 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強 弱のバランスを取 る	音色の追求
11	選択した課題曲を発展させる② 構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底
12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容まで到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追 求	楽曲全体の音の 調和
14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄に ついて練習を深 める
15	総括 音色やアーティキュレーションのまとめ	課題曲の全ての 項目を練習する	楽曲演奏の改善 点を探る

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	楽曲の完成度
	平常点(行動観察)	20%	授業態度・毎時間の振り返り

科目名	アン	サンブルⅣ(t	ピアノ) 		科目ナンバリング	PP3M3N48	
担当者	眞鍋	真鍋 協子 他					
担当形態	クラ	クラス分け 単位数				2単位	
対象学科	音楽	············ 学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	]			!	ļ	
22.40 .21.10cm //		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		選択				ABC	DEF
備考	жĽ7	アノコースの学生	は必ず履修する	こと/指定された	日程のオーケス	トラ合わせに参加す	ること
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	ら読 <i>る</i> アン+	古典から近現代までの連弾曲・2台ピアノを題材にして、アンサンブルの楽しさを理解することができる。楽譜から読み取る力を向上させ、音楽性を高めることができる アンサンブルを行うことにより、独奏とは異なるハーモニーや音のバランスなどの表現方法について学ぶ。 授業はレッスン形式で行う。学生のそれぞれ力を考慮しながらペアを作る。アンサンブルを行うことにより、独奏					
			学習	習内容		事前学習	事後学習
授業計画	プレック プログラス フロック フロック フロック フロック フロック フロック フロック フロック			ピアノコンチェルト	を選曲する	アンサンブル曲に ついて調べる	
	2	2 アンサンブル作品の決定した曲の分析				アンサンブル曲に ついて調べる	アンサンブル曲を数曲弾く
	3	決定した楽曲の	時代背景を中心	に学ぶ		楽曲の時代背景 を調べる	
		決定した楽曲の ピアノコンチェル 和声を中心に学	ト・2台ピアノ曲(				で到達するよう練習する
	4	ピアノコンチェル	小・2台ピアノ曲( ピ修する 小・2台ピアノ曲(	の構成①		を調べる プリモとセコンドに	で到達するよう練習する 各パート奏法の追求 指示された事柄に
	5	ピアノコンチェル 和声を中心に学 ピアノコンチェル	・ト・2台ピアノ曲( ・修する ・ト・2台ピアノ曲( ・修する ・ト・2台ピアノ曲(	の構成①		を調べる プリモとセコンドに 分かれて練習する 指示された内容まで到達するよう練習する	各パート奏法の追求 指示された事柄について練習を進
	5	ピアノコンチェル 和声を中心に学 ピアノコンチェル 様式を中心に学	ト・2台ピアノ曲( と修する) ト・2台ピアノ曲( と修する) ト・2台ピアノ曲( と修する)	の構成①		を調べる プリモとセコンドに 分かれて練習する 指示された内さまで到達するよう練習する 形式を調べる	で到達するよう練習する 各パート奏法の追求 指示された事柄について練習を進める

9	選択した課題曲を分析する③ 奏法を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
10	選択した課題曲を発展させる① 表現法を中心に全楽章に取り組む	楽譜をよく見て強 弱のバランスを取 る	音色の追求
11	選択した課題曲を 発展させる② 全楽章の構成を中心に学ぶ	各楽章を弾く	読譜の徹底
12	試験曲の完成度を高める① 共演者とのコミュニケーションの取り方	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
13	試験曲の完成度を高める② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追 求	楽曲全体の音の 調和
14	試験曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄に ついて練習を深 める
15	総括 音色やアーティキュレーションのまとめ	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	楽曲の完成度
	平常点(行動観察)	20%	授業態度・毎時間の振り返り

科目名	アンサンブル I (オーケストラ)			科目ナンバリング	CP3M1N45		
担当者	馬込	、勇•柏尾 岡	徳 他				
担当形態	複数	Ţ.			単位数	2単位	
対象学科	音楽	· 学科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	l					
	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択•必修区分		必修				ABC	DEF
備考	※管	弦打楽コース必何	<b>》</b>				
授業のテーマ及び 到達目標 担業の概要	室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる  弦楽アンサンブル・木管アンサンブル・金管アンサンブル・打楽器アンサンブルおよび混合アンサンブルに加え、オーケストラスタディ他、専攻する楽器により様々な編成を経験しながら個々の技術向上等を目指していく。授業の最後に演奏会を想定した発表会を行う						
	口		学習	7内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーショ (授業計画と教材				シラバスを確認	教材曲の研究と 練習
	2	各楽器の編成に (特色研究)	こよるアンサンブ	JL(1)		教材曲の特色を 研究	授業の復習および練習
	3	各楽器の編成によるアンサンブル② (教材曲研究)				教材曲に対する内 容研究	授業の復習および練習
	各楽器の編成によるアンサンブル③ (音楽的研究)				教材曲の音楽的 研究	授業の復習および練習	
	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル①     (特色研究)			教材曲の特色を 研究	授業の復習および練習		
	6	弦楽·木管·金管 (教材曲研究)	・打楽器による	アンサンブル②		教材曲に対する内 容研究	授業の復習および練習
	<b>—</b>	-					<del> </del>

弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル③ (音楽的研究)

オーケストラスタディ①
(交響曲等の第1楽章)

7

8

教材曲の音楽的 研究

教材曲の研究と練 授業の復習およ 習 び練習

授業の復習およ び練習

9	オーケストラスタディ② (交響曲等の第2楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
10	オーケストラスタディ③ (交響曲等の第3楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習および練習
11	オーケストラスタディ④ (交響曲等の第4楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
12	演奏会を想定した教材曲のまとめ① (流れと注意)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
13	演奏会を想定した教材曲のまとめ② (ポイントと粗通し)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
14	演奏会を想定した発表会のリハーサル	教材曲の研究と練 習	授業の復習および練習
15	演奏会を想定した教材曲の発表会	総合的練習と発表 会の準備	総括と反省

使用教科書	担当教員より指示
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度·積極的姿勢等
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アンサンブル Ⅱ (オーケストラ)			科目ナンバリング	CP3M1N46		
担当者	馬込	馬込 勇・柏尾 剛德 他					
担当形態	複数	τ			単位数	2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	]				•	
	:	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		必修				ABC	DEF
備考	※管	弦打楽コース必何	<b>&gt;</b>				
授業のテーマ及び 到達目標	室内	室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができ る					
授業の概要	後期は基本的に「華麗なる音楽の祭典」(本学定期演奏会)に向けての練習を兼ね、管弦楽(オーケストラスタディ)中心に授業を進めていく。演奏会の本番に向けて真摯に取り組むことも内容に含まれる						
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	1 演奏会の曲目発表および準備その他				シラバスを確認	教材曲の研究と 練習
	2	2 演奏会用プログラム① (楽曲分析等)				教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
	3	演奏会用プログ(曲想・流れ等)	ラム②			教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
	4	演奏会用プログ (技術的問題点				教材曲の研究と練 習	授業の復習および練習
	5	5 演奏会用プログラム④ (音楽表現の工夫等)				教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
	6 パートおよびセクション① (更に細分化したアンサンブル)				教材曲の研究と練 習	授業の復習および練習	
	7	パートおよびセク (①の改善点を				教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
	8	学生ソリストとの	合わせ			教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習

	9	華麗なる音楽の祭典リハーサル (本番を想定し、改善点を見出すこと等)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習	
	10	華麗なる音楽の祭典 本番 (これまでの成果を存分に発揮すること等)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習	
	11	著名な管弦楽曲もしくは交響曲① (第1楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習	
	12	著名な管弦楽曲もしくは交響曲② (第2楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習	
	13	著名な管弦楽曲もしくは交響曲③ (第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	
	14	著名な管弦楽曲もしくは交響曲④ (第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	
	15	演奏会を想定した発表会	発表会の準備他	総括と反省	
使用教科書	担当	3当教員より指示			

使用教科書	担当教員より指示
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度·積極的姿勢等
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アン	アンサンブルⅢ(オーケストラ) 科目ナンバ!			科目ナンバリング	PP3M3N47	
担当者	馬込	、勇•柏尾 岡	川徳 他				
担当形態	複数	Į.			単位数	2単位	
対象学科	音楽	· 学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期	]					
33.15 N. 65 - 43	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択•必修区分		選択				ABC	DEF
備考	※管	弦打楽コース必何	多				
授業のテーマ及び 到達目標	室内	室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる					
授業の概要	え、オ	弦楽アンサンブル・木管アンサンブル・金管アンサンブル・打楽器アンサンブルおよび混合アンサンブルに加え、オーケストラスタディ他、専攻する楽器により様々な編成を経験しながら個々の技術向上等を目指していく。 授業の最後に演奏会を想定した発表会を行う					
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	1 オリエンテーション (授業計画と教材曲の発表)				シラバスを確認	教材曲の研究と 練習
	2	各楽器の編成に (特色研究)	こよるアンサンブ	JL(1)		教材曲の特色を 研究	授業の復習および練習
	3	3 各楽器の編成によるアンサンブル② (教材曲研究)				教材曲に対する内 容研究	授業の復習および練習
	4	各楽器の編成によるアンサンブル③ (音楽的研究)		教材曲の音楽的 研究	授業の復習および練習		
	5	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル① (特色研究)			教材曲の特色を 研究	授業の復習およ び練習	
	6	弦楽·木管·金管 (教材曲研究)	膏・打楽器による	アンサンブル②		教材曲に対する内 容研究	授業の復習および練習

弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル③

7

8

(音楽的研究)

オーケストラスタディ①
(交響曲等の第1楽章)

教材曲の音楽的 研究

教材曲の研究と練 授業の復習およ 習 び練習

授業の復習およ び練習

9	オーケストラスタディ② (交響曲等の第2楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
10	オーケストラスタディ③ (交響曲等の第3楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
11	オーケストラスタディ④ (交響曲等の第4楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
12	演奏会を想定した教材曲のまとめ①	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
13	演奏会を想定した教材曲のまとめ②	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
14	演奏会を想定した発表会のリハーサル	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
15	演奏会を想定した教材曲の発表会	総合的練習と発表 会の準備	総括と反省

使用教科書	担当教員より指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的姿勢等
	課題演奏		学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アンサンブルⅣ(オーケストラ)			科目ナンバリング	PP3M3N48		
担当者	馬込	馬込 勇・柏尾 剛德 他					
担当形態	複数	Ţ			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	l					
	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		選択				ABC	DEF
備考	※管	弦打楽コース必何	<b></b>				
授業のテーマ及び到達目標	対外的 後期(	室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶ 対外的に実践できるようになる 後期は基本的に「華麗なる音楽の祭典」(本学定期演奏会)に向けての練習を兼ね、管弦楽(オーケストラスタ ディ)中心に授業を進めていく。演奏会の本番に向けて真摯に取り組むことも内容に含まれる					
	□		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	1 演奏会の曲目発表および準備その他				シラバスを確認	教材曲の研究と 練習
	2	2 演奏会用プログラム① (楽曲分析等)				教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
	3	演奏会用プログ (曲想・流れ等)	ラム②			教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
	4	演奏会用プログ (技術的問題点				教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
	5	5 演奏会用プログラム④ (音楽表現の工夫等)				教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
	6 パートおよびセクション① (更に細分化したアンサンブル)				教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習	
	7	パートおよびセク (①の改善点を				教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習
	8	学生ソリストとの	合わせ			教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習

	9	華麗なる音楽の祭典リハーサル (本番を想定し、改善点を見出すこと等)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習	
	10	華麗なる音楽の祭典 本番 (これまでの成果を存分に発揮すること等)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習	
	11	著名な管弦楽曲もしくは交響曲① (第1楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習	
	12	著名な管弦楽曲もしくは交響曲② (第2楽章)	教材曲の研究と練 習	授業の復習およ び練習	
	13	著名な管弦楽曲もしくは交響曲③ (第3楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	
	14	著名な管弦楽曲もしくは交響曲④ (第4楽章)	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	
	15	演奏会を想定した発表会	発表会の準備他	総括と反省	
使用教科書	担当	日当教員より指示			

使用教科書	担当教員より指示
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度·積極的姿勢等
	課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科目名	アンサンブル I (電子キーボード)			科目ナンバリング	CP3M1N45		
担当者	中村	真貴					
担当形態	複数	Į.			単位数	2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	l					
選択・必修区分	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
医扒 必修区方		*				ABC	DEF
備考	※電	子キーボードコー	ス必修				
授業のテーマ及び 到達目標				るようになる。相= る能力を身につけ		わせることが出来る	るようになる。
授業の概要	様々7	電子キーボードをソロ楽器としてだけでなく、アンサンブル、コラボレーションのための楽器としてとらえる。 様々な組み合わせで人と協調して一つの音楽を作り上げる。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的で音楽的なアンサンブルを展開する。					
	□		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	同種楽器(電子キーボード)によるアンサンブル1 ポップス 枯葉、フライミートゥーザムーン			ポップス	シラバスに目を通 す	テーマの研究、個 人練習、コードの 分析
		同種楽器(電子キーボード)によるアンサンブル2 ポップス 枯葉、フライミートゥーザムーン			ポップス	テーマの研究 (コード進行)、個 人練習、アンサン ブル	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブルの復習
	3		キーボード)によ ・ハトムジーク、引	るアンサンブル3 玄楽セレナーデ	クラシック	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	スコアの読み方の 復習 アルト記号に慣れ る
	4	」   同種楽器(電子キーボード)によるアンサンブル4 クラシック			スコアの読み方の 復習 アルト記号に慣れ る		
		異種楽器(ボーカルを含む)とのアンサンブル1 オリジナルポップス				選曲、個人練習、 アンサンブル	選曲した曲の楽 譜を書く レジストを作る
	6	異種楽器(ボー: オリジナルポップ	カルを含む) との <sup>.</sup> プス	アンサンブル2		テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	選曲した曲の楽 譜を書く レジストを作る
	7	スタイルによる& ブルグミュラーよ		展1		テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	楽譜を書いてレジ ストも準備する

スタイルによる編曲ピアノ譜の発展2 ブルグミュラーより「乗馬」

ピアノ譜をオーケ ストラに、個人練 習、アンサンブル 楽譜を書いてレジ ストも準備する

8

9	スタイルによる編曲ピアノ譜の発展3 ドビュッシー「アラベスク」	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	楽譜を書いてレジ ストも準備する
10	スタイルによる編曲ピアノ譜の発展4 ドビュッシー「アラベスク」	ピアノ譜をオーケ ストラに、個人練 習、アンサンブル	楽譜を書いてレジ ストも準備する
	ポップス、コード、テンション、コード進行、モード、リズムの知識の 学習	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	テンションを含む コードの復習
12	ポップス、リズムの「ノリ」、ビート感	多くの曲を聴いて 「ノリ」を体感する	多くの曲を聴いて 「ノリ」について考 える
13	前期試験課題への取り組み1	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	録音、録画でアン サンブルを確認
14	前期試験課題への取り組み2	テーマの分析、個 人練習、アンサン ブル	録音、録画でアン サンブルを確認
15	前期試験課題への取り組み3	レジストの仕上 げ、個人練習、ア ンサンブルの仕上 げ	録音、録画でアン サンブルを確認、 仕上げ

使用教科書	新総合音楽講座5「コード進行法」(ヤマハ)
参考書•参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	試験曲
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習

科目名	アンサンブル Ⅱ (電子キーボード)			科目ナンバリング	CP3M1N46		
担当者	中村						
担当形態	複数	Į.			単位数	2単位	
対象学科	音楽	············ 学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	]					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択•必修区分		*				ABC	DEF
備考	※電	子キーボードコー	-ス必修				
授業のテーマ及び到達目標	それ <sup>-</sup> 電子: 様々 <sup>7</sup>	全体の中の自分をとらえることが出来るようになる。相手の音を聴いて合わせることが出来るようになる。 それぞれの編成に合わせて編曲をする能力を身につける。 電子キーボードをソロ楽器としてだけでなく、アンサンブル、コラボレーションのための楽器としてとらえる。 様々な組み合わせで人と協調して一つの音楽を作り上げる。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的で音楽的なアンサンブルを展開する。					
	回		学習	了内容 [内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	スコアリーディン	·グとオーケストレ	<b>ノーション</b> について	5	シラバスに目を通 す	テーマの研究、個 人練習、コードの 分析
	2	2 スコアリーディング 大編成のスコアを見ながら演奏する(三段譜には書き直さな)			書き直さない)	スコアの読譜、研 究、個人練習、ア ンサンブル	スコアの読譜に慣れる
	3	3 スコアリーディング 三段譜に書き直して演奏				テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル
	4			/一ションについて 、弦楽器、打楽器		パート分け、個人 練習、アンサンブ ル	パート分けを工夫 する
	5	基本的奏法の修得とその応用④ (リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換)			転換)	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	楽譜を書いてレジ ストも準備する
	6	基本的奏法の修得とその応用⑤ (独奏では経験できない音楽体験をする)				スコアの読譜、研 究、パート分けを いろいろ工夫する	楽譜を書いてレジ ストも準備する
	7		多得とその応用⑥ F通して曲の表現			テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	楽譜を書いてレジ ストも準備する
	8		多得とその応用⑦ ンルを幅広く理角			指揮の基本を勉 強する	指揮法の練習

9	後期試験楽曲への取り組み1 アナリーゼ	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	楽譜を書いてレジ ストも準備する
10	後期試験楽曲への取り組み2 アレンジの方向性	曲のイメージを作 りアレンジの方向 性を決める	楽譜を書いてレジ ストも準備する
11	後期試験楽曲への取り組み3 アレンジの具体化(編曲)	編曲する	楽譜を書いてレジ ストも準備する
12	後期試験楽曲への取り組み4 アレンジの具体化(編曲)	編曲する	楽譜を書いてレジ ストも準備する
13	後期試験楽曲への取り組み5 曲としての仕上げ	構成の見直し、個 人練習、アンサン ブル	
14	後期試験楽曲への取り組み6 曲としての仕上げ	レジストの見直し、 個人練習、アンサ ンブル	
15	後期試験楽曲への取り組み(まとめ) 曲としての仕上げ	仕上げ	録音、録画でアン サンブルを確認、 仕上げ

使用教科書	新総合音楽講座5「コード進行法」(ヤマハ)
参考書·参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	試験曲
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習

科目名	アン	アンサンブルⅢ(電子キーボード)			科目ナンバリング	PP3M3N47	
担当者	中村	真貴					
担当形態	複数	Ţ			単位数	2単位	
対象学科	音楽	· 学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期	]					
	3	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
選択•必修区分		選択				ABC	DEF
備考	※電	子キーボードコー	-ス開設科目	I.		<u> </u>	
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	それ <sup>-</sup> 電子- 様々 <sup>7</sup>	全体の中の自分をとらえることが出来るようになる。相手の音を聴いて合わせることが出来るようになる。 それぞれの編成に合わせて編曲をする能力を身につける。 電子キーボードをソロ楽器としてだけでなく、アンサンブル、コラボレーションのための楽器としてとらえる。 様々な組み合わせで人と協調して一つの音楽を作り上げる。 多様な演奏法、表現法を用いて効果的で音楽的なアンサンブルを展開する。					
	回		学習			事前学習	事後学習
授業計画	1	同種楽器(電子 ムーンリバー、 <del>7</del>		るアンサンブル1	ポップス	シラバスに目を通 す	テーマの研究、個 人練習、コードの 分析
		同種楽器(電子 ムーンリバー、 <del>5</del>		るアンサンブル2	ポップス	テーマの研究 (コード進行)、個 人練習、アンサン ブル	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブルの復習
	3	同種楽器(電子 四季、威風堂々		るアンサンブル3	クラシック	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	スコアの読み方の 復習 アルト記号に慣れ る
	4	同種楽器(電子 四季、威風堂々		るアンサンブル4	クラシック	テーマの研究、ス コア読譜、個人練 習、アンサンブル	スコアの読み方の 復習 アルト記号に慣れ る
	5	異種楽器(ボー:オリジナルポップ	カルを含む)との プス	アンサンブル1		選曲、個人練習、アンサンブル	選曲した曲の楽 譜を書く レジストを作る
	6	異種楽器(ボー: オリジナルポップ	カルを含む)との プス	アンサンブル2		テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	選曲した曲の楽 譜を書く レジストを作る

スタイルによる編曲ピアノ譜の発展1 ドビュッシー「月の光」

スタイルによる編曲ピアノ譜の発展2 ドビュッシー「月の光」

7

8

色々なスタイルの

研究、個人練習、 アンサンブル

ピアノ譜をオーケ ストラに、個人練 習、アンサンブル

楽譜を書いてレジ ストも準備する

楽譜を書いてレジ ストも準備する

9	スタイルによる編曲ピアノ譜の発展3 モーツァルト「トルコ行進曲」	曲の分析、研究、 個人練習、アンサ ンブル	楽譜を書いてレジ ストも準備する
10	スタイルによる編曲ピアノ譜の発展4 モーツァルト「トルコ行進曲」	色々なスタイルを 試す	スタイルを決める
	ポップス、コード、テンション、コード進行、モード、リズムの知識の 学習	コードの予習	テンションを含む コードの復習
12	ポップス、リズムの「ノリ」、ビート感	多くの曲を聴いて 「ノリ」を体感する	「ノリ」「グルーブ」 のある演奏を研 究する
	前期試験課題への取り組み1 構成、編曲の見直し	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブル	
14	前期試験課題への取り組み2 レジストの見直し	テーマの分析、個 人練習、アンサン ブル	楽譜を書いてレジ ストも準備、録 音、録画で確認
15	前期試験課題への取り組み3	試験曲の仕上げ	録音、録画でアン サンブルを確認、 仕上げ

使用教科書	新総合音楽講座5「コード進行法」(ヤマハ)
参考書·参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	試験曲
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習

科目名	アンサンブルⅣ(電子キーボード)			科目ナンバリング	PP3M3N48			
担当者	中村	中村真貴						
担当形態	複数	ţ			単位数	2単位		
対象学科	音楽	· 学科			開設学年	4年次		
開講時期	後期	]						
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー	
選択・必修区分		選択				ABC	DEF	
備考	※電	子キーボードコー	·ス開設科目			•		
授業のテーマ及び 到達目標	それ	ぞれの編成に合わ	りせて編曲をする	る能力を身につけ	でる。 	おせることが出来る		
授業の概要	様々を	な組み合わせでん	人と協調して一つ	の音楽を作り上り			ことらんる。	
	□		学習	内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1	1 スコアリーディングとオーケストレーションについて			-	シラバスに目を通 す	スコアリーディン グの復習	
	2	2 スコアリーディング 大編成のスコアを見ながら演奏する(三段譜には			書き直さない)	スコアに慣れる	スコアリーディン グの復習	
	3	スコアリーディン 三段譜に書き直				楽譜を書いてレジ ストを準備	楽譜を書いてレジ ストを準備	
	4			/一ションについて 、弦楽器、打楽器		パート分けを考え る	パート分けした楽 譜を書きレジスト を準備	
	5			√ーションについて 、弦楽器、打楽器		管弦楽法の予習	楽譜の修正、レジ ストの修正	
	6	6 クラシック、大編成のスコアのトランスクリプション (パート別:木管楽器、金管楽器、弦楽器、打楽器				パート分け 楽譜を書いてレジ ストを準備	楽譜を書いてレジ ストを準備	
	7	クラシック、大編 まとめ	成のスコアのトラ	ランスクリプション	、リダクションの	レジストの修正、 表現の確認	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブルの復習	
	8	指揮を見ての演	<del></del>			指揮法の予習	指揮法の予習	

9	後期試験楽曲への取り組み1 メドレーのアレンジ1	テーマの選曲	つなぎ方の工夫を 考える
10	後期試験楽曲への取り組み2 メドレーのアレンジ2 構成	全体の流れを考え て編曲	編曲を楽譜にする
11	後期試験楽曲への取り組み3 メドレーのアレンジ3 曲と曲のつなぎ目の工夫	曲ごとのバランス を考える	テーマの研究、個 人練習、アンサン ブルの復習
12	後期試験楽曲への取り組み4 室内楽1 パート分け	選曲と読譜、分析パート分け	楽譜を書いてレジ ストを準備、録 音、録画で確認
13	後期試験楽曲への取り組み5 室内楽2 楽譜とレジスト	楽譜を書いてレジ ストを準備	個人練習、アンサ ンブルで練習、録 音、録画で確認
14	後期試験楽曲への取り組み6 室内楽3 演奏内容	アインザッツの出 し方、合わせ方	個人練習、アンサ ンブルで練習、録 音、録画で確認
15	後期試験楽曲への取り組み(まとめ) 演奏の仕上げ	仕上げ	仕上げ

使用教科書	新総合音楽講座5「コード進行法」(ヤマハ)			
参考書•参考資料等	考書・参考資料等エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)			

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	試験曲
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習

科目名	アンサンブル I (パフォーマンス・コラボレーション)			科目ナンバリング	CP3M1N45		
担当者	西林	西林 博子 他					
担当形態	複数	[			単位数	2単位	
対象学科	音楽	· 学科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	l					
選択∙必修区分		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
医抓•必修区方		*				ABC	DEF
備考	<b>※</b> ミュ	.ージックパフォー 	-マンスコース必(	修			
授業のテーマ及び 到達目標	ンの2 曲のf 多様 <sup>7</sup> ライブ	スタイルを探求し 能力も身に付ける な演奏法、表現法  、コンサート、コ	実践する。他ジャる。 る。 生を用いて効果的  ンテスト、コンクー	ンルとのコラボレ Iで音楽的なアン・	ーションによって	音楽について、様々 生まれるサウンドを る力をつける 編成を決定し、演奏	経験し、必要な編
授業の概要	専攻(				て学習したうえで	、編成に応じた効果	<b>見的な編曲を学修</b>
	回		学習	7内容		事前学習	事後学習
授業計画		オリエンテーション 1 課題・試験曲選曲。可能な編成について				課題曲選曲	課題①練習
	2	2 課題①(既成曲)への取り組み① 分析(背景)と楽曲の特徴について				課題①背景・特徴 について	課題①練習
	3		)への取り組み② ž)とコラボレーシ	) ョンを生かした演	奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習
	4	課題①(既成曲	)への取り組み③ -ミクスと表現表現	) 見について		課題①表情について	課題①練習
		5 課題①(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ					
			)への取り組み④	)		課題①のまとめ	課題②練習
	5	演奏のまとめ 課題②(既成曲	)への取り組み④ )への取り組み① i曲の特徴につい	)		課題①のまとめ 課題②背景・特徴 について	
	6	演奏のまとめ 課題②(既成曲 分析(背景)と楽	)への取り組み(1) 曲の特徴につい	) • T		課題②背景・特徴	課題②練習

9	課題②(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ(音響とPAについて)	課題②の演奏効 果について	課題②練習
10	課題②(既成曲)への取り組み⑤ 演奏のまとめ(録音)	課題②のまとめ	試験曲練習
11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	試験曲練習
12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ (構成)について	試験曲練習
13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習
14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習
15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習•提出 楽譜準備	アンサンブル I の まとめとⅡ の準備 (選曲)

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	アンサンブル Ⅱ (パフォーマンス・コラボレーション)			ラボレーション)	科目ナンバリング	CP3M1N46	
担当者	西林	西林 博子 他					
担当形態	複数	[			単位数	2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	l					
選択∙必修区分		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
医抓•必修区方		*				ABC	DEF
備考	<b>※</b> ミュ	.ージックパフォー 	-マンスコース必(	修			
授業のテーマ及び 到達目標	ンのえ 曲の食 多様 <sup>カ</sup>	スタイルを探求し 能力も身に付ける な演奏法、表現法	実践する。他ジャる。 る。 生を用いて効果的  ンテスト、コンクー	ンルとのコラボレ Iで音楽的なアン・ 	ーションによって サンブルを展開す	音楽について、様々 生まれるサウンドを る力をつける 編成を決定し、演奏	経験し、必要な編
授業の概要	専攻(	の理解のため、コ			て学習したうえで	、編成に応じた効果	<b>見的な編曲を学修</b>
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画		オリエンテーショ課題・試験曲選	コン 曲。可能な編成り	こついて		課題曲選曲	課題①練習
	2		)への取り組み① 善曲の特徴につい			課題①背景·特徴 について	課題①練習
	3		)への取り組み② ž)とコラボレーシ	) ョンを生かした演	奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習
	4	課題①(既成曲	)への取り組み③ -ミクスと表現表現	) 見について		課題①表情について	課題①練習
		5 課題①(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ				-m n = 0 / + n =	
			)への取り組み(4 			課題①のまとめ	課題②練習
	5	演奏のまとめ 課題②(既成曲	)への取り組み(4 )への取り組み(1 !曲の特徴につい	)		課題①のまとめ 課題②背景・特徴 について	
	6	演奏のまとめ 課題②(既成曲 分析(背景)と楽	)への取り組み(1) 曲の特徴につい	) • T		課題②背景・特徴	課題②練習

9	課題②(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ(音響とPAについて)	課題②の演奏効 果について	課題②練習
10	課題②(既成曲)への取り組み⑤ 演奏のまとめ(録音)	課題②のまとめ	試験曲練習
11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	試験曲練習
12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ (構成)について	試験曲練習
13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習
14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習
15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習•提出 楽譜準備	アンサンブル II の まとめとIII の準備 (選曲)

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	アン・	サンブルⅢ(パ <del>.</del>	フォーマンス・コ <sup>・</sup>	科目ナンバリング	PP3M3N47		
担当者	西林	西林 博子 他					
担当形態	複数	Ţ		単位数	2単位		
対象学科	音楽	············ 学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期	 ]					
ᅄᄱᇝ		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択・必修区分		*				ABC	DEF
備考	<b>※</b> ミュ	∟ージックパフォー	-マンスコース必	修			
授業のテーマ及び 到達目標	ンのご曲の前	スタイルを探求し 能力も身に付ける	実践する。他ジャ る。	ンルとのコラボレ		音楽について、様々 生まれるサウンドを <sup>-</sup> る力をつける	
授業の概要	楽譜領専攻の	制作などを実践し	ノ、演奏する。 コード、ハーモニー	-等の理論につい		「編成を決定し、演習 『、編成に応じた効!	
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲。可能な編成について				課題曲選曲	課題①練習
	2		)への取り組み① ≦曲の特徴につい			課題①背景・特徴について	課題①練習
		課題①(既成曲)への取り組み② 分析(アナリーゼ)とコラボレーションを生かした演奏表現について					課題①練習
	3		ざ)とコラボレーシ	ョンを生かした漬	(奏表現について	課題①アナリーセ	
	3	分析(アナリーも 課題①(既成曲	ヹ)とコラボレーシ 	ョンを生かした淳 	奏表現について	課題①アナリーセ 課題①表情について	課題①練習
	4	分析(アナリーも 課題①(既成曲	ž)とコラボレーシ 	ョンを生かした濱 (アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・	奏表現について	課題①表情について	
	4 5	学が(アナリー・ 課題①(既成曲 フレーズ、ダイナ 課題①(既成曲 演奏のまとめ 課題②(既成曲	ぎ)とコラボレーシ )への取り組み③ -ミクスと表現表も )への取り組み④	ョンを生かした濱 ) 見について	奏表現について	課題①表情について	課題①練習課題②練習
	5	分析(アナリー・ 課題①(既成曲フレーズ、ダイナ 課題①(既成曲演奏のまとめ 課題②(既成曲分析(背景)と楽 課題②(既成曲	ぎ)とコラボレーシ )への取り組み③ -ミクスと表現表ま )への取り組み④ )への取り組み④ )への取り組み① (き曲の特徴につい )への取り組み②	ョンを生かした演 ) 別について ) っ  ( )	奏表現について	課題①表情について 課題①あまとめ 課題②背景・特徴について	課題①練習課題②練習課題②練習

9	課題②(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ(音響とPAについて)	課題②の演奏効 果について	課題②練習
10	課題②(既成曲)への取り組み⑤ 演奏のまとめ(録音)	課題②のまとめ	試験曲練習
11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	試験曲練習
12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ (構成)について	試験曲練習
13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習
14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習
15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習•提出 楽譜準備	アンサンブルⅢの まとめとⅣの準備 (選曲)

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

T. D. 5				_ i*i				
科目名 ————————————————————————————————————	アンサンブルIV(パフォーマンス・コラボレーション)   科目ナン				料目ナンバリング			
担当者	西林	西林 博子 他 						
担当形態	複数	Į.			単位数	2単位		
対象学科	音楽	<b>学科</b>			開設学年	4年次		
開講時期	後期	1						
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー	
選択•必修区分		*				ABC	DEF	
備考	<b>※</b> ₹⊐	ュージックパフォー	マンスコース必	修				
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	ンの 曲の 多様 ライン 楽譜	スタイルを探求し、能力も身に付けるな演奏法、表現法を表し、表現法・表現法・表現法・表現法・表現法・表現法・表現法・表別を表し、コンサート、コンサート、コンサート、コンサート、コンサート、コンサート、コンサート、コンサート、コンサート、コンサート、コンカーをといる。	実践する。他ジャる。 る。 まを用いて効果的  ンテスト、コンクー ム、演奏する。	マンルとのコラボレ かで音楽的なアン・ 	ーションによって サンブルを展開す 	[編成を決定し、演奏	経験し、必要な編	
<b> </b>		の埋解のため、= 買奏を活かすPAIS			て字習したうえて	、編成に応じた効果	<b>具的な編曲を字修</b>	
	回		学習	内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1	オリエンテーション 1 課題・試験曲選曲。可能な編成について				課題曲選曲	課題①練習	
	2		)への取り組み(1 <曲の特徴につい			課題①背景・特徴について	課題①練習	
	3	課題①(既成曲分析(アナリーも	)への取り組み(2 ヹ)とコラボレーシ	) コンを生かした演	奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習	
	4		)への取り組み③ トミクスと表現表類			課題①表情について	課題①練習	
	5	5 課題①(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ				課題①のまとめ	課題②練習	
	L	漢矢のよこの						
	6	課題②(既成曲	)への取り組み(1 5曲の特徴につい			課題②背景・特徴について	課題②練習	
		課題②(既成曲分析(背景)と楽	き曲の特徴につい		奏表現について			

9	課題②(既成曲)への取り組み④ 演奏のまとめ(音響とPAについて)	課題②の演奏効 果について	課題②練習
10	課題②(既成曲)への取り組み⑤ 演奏のまとめ(録音)	課題②のまとめ	試験曲練習
11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと 作曲者等について	試験曲練習
12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ (構成)について	試験曲練習
13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレー ション、ダイナミク ス)について	試験曲練習
14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウ ンド)について	試験曲練習
15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習•提出 楽譜準備	アンサンブル™の まとめ

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	管弦	管弦楽法 科目ナンバリン			科目ナンバリング	<sup>r</sup> MC3M4T55		
担当者	柏尾	柏尾 剛德						
担当形態	単独				単位数	2単位		
対象学科	音楽	············· 学科			開設学年	4年次		
開講時期	後期	]						
ᇃᄱᄵᅜᅎᄼ		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー	
選択•必修区分		*				ABO	CDE	
備考	※作	曲コース・電子キ	ーボードコース必 	%修				
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	解する管弦を	る)を得ることがで 	き、楽曲の創作 ション)を学え 上げ、スコアリー	および編曲する	術を学ぶことがで ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	めに必要な知識(各語) きる 1る必要がある。従っ 1曲を試み、よりオー	て各楽器について	
				7内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1	導入および弦楽 (弦楽器の種類	器①				弦楽器についての復習等	
	2	弦楽器② (各種奏法と曲体	列他)			弦楽器の特徴等 を調べる	弦楽器について の復習等	
	3	才管楽器① (定義·移調楽器·編成他)				木管楽器について		
		(人我 19時末日	4. 水平1火167			調べておく	ての復習	
	4	木管楽器②	ボエ・クラリネット	・ファゴットと曲係	列他)		木管楽器につい	
	4 5	木管楽器② (フルート・オーラ			列他)	木管楽器の特徴	木管楽器についての復習	
	Ė	木管楽器② (フルート・オーラ 金管楽器① (定義・バルブと	ボエ・クラリネット	)		木管楽器の特徴がわかる曲を聴く 金管楽器について調べておく	木管楽器についての復習金管楽器についての復習等金管楽器についての復習等	
	5	木管楽器② (フルート・オーラ 金管楽器① (定義・バルブと	ボエ・クラリネット スライド・倍音他 ペット・トロンボー:	)		木管楽器の特徴がわかる曲を聴く 金管楽器について調べておく 金管楽器の特徴	木管楽器につい ての復習 金管楽器につい ての復習等 金管楽器につい ての復習等	

9	ハープと鍵盤楽器① (ハープ)	ハープについて調 べる	ハープについての 復習等
10	ハープと鍵盤楽器② (鍵盤楽器)	鍵盤楽器について調べる	鍵盤楽器につい ての復習等
11	実習① (総譜の書き方実例と研究他)	スコアを読んでお く	総譜を書いてみる
12	実習② (編曲の実例と研究他)	編曲作品を研究しておく	楽曲を編曲してみる
13	実習③ (実践と応用他①)	これまでの学びを 基に作品を研究し ておく	
14	実習④ (実践と応用他②)	これまでの学びを 基に作品を研究し ておく	
15	総まとめ	すべてのおさらい をしておく	総括と反省

使用教科書	新総合音楽講座8「管弦楽法概論」(ヤマハ音楽振興会),
	3つのケーススタディでよくわかる「オーケストレーション技法」(リットーミュージック)
参考書·参考資料等	[完本]管弦楽法(音楽之友社),
	管弦楽法(音楽之友社)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	作品提出	70%	理解した上で作品が書けているかどうか
	課題/小テスト	10%	内容の理解度
	平常点	20%	授業態度·積極的姿勢等

科目名	西洋音楽史I			科目ナンバリング	MC3M3T60		
担当者	木木	木村 博子					
担当形態	単独	3			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 <b>学</b> 科			開設学年	3年次	
開講時期	前期	1					
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー
選択∙必修区分		選択			選択必修	ABCE	
備考							
授業のテーマ及び 到達目標		ラの歴史を学ぶこ いてより豊かな芸			および音楽の社会	会性について理解し	、演奏や創作など
授業の概要	その	誕生以来多くの <i>)</i> 視聴しつつ、オペ	、々を魅了してき ラの魅力につい	た。本講義ではオ て探っていく。音楽	トペラの創始から <del>-</del>	あるいは豪奢な娯: モーツァルトまでの付 美術などとどう関係 ら考察する	弋表的なオペラ作
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	ガイダンス:オペラとは何か				シラバスを熟読す る	オペラ史の大まか な流れをまとめる
	2	古代ギリシアの	演劇と中世の音	ギリシア演劇について調べる	古代ギリシアの音 楽論についてまと める		
	3	ルネサンスの宮廷音楽劇 〜インテルメディオとバレエの発祥				イタリア・ルネサン スの歴史について 調べる	インテルメディオ について調べる
	4	4 オペラの創始 ~カメラータの試みとモンテヴェルディ				モンテヴェルディ の『オルフェオ』を 視聴する	モンテヴェルディ について調べる
	5	5 オペラの発展と社会 ~ヴェネツィア・オペラとナポリ派オペラ				ヴェネツィアとナポ リの文化について 調べる	
		6 フランス、ドイツ、イギリスのバロックオペラ				1 1 1 1 1 1 to the control	オペラにおける言
	6	フランス、ドイツ	、イギリスのバロ	ックオペラ		ヴェルサイユ楽派 について調べる	葉と音楽について 考える
	7	フランス、ドイツ オペラハウスの ~18世紀の社3	構造とオペラの_				

9	モーツァルトのオペラ 〜概説	モーツァルトの生 涯をまとめる	授業中に紹介した 作品のうちーつを 全曲視聴する
10	モーツァルトのオペラ① ~『フィガロの結婚(前半)』の解説と分析	『フィガロの結婚』 のあらすじを調べ る	『フィガロの結婚』 全曲を視聴する
	モーツァルトのオペラ② ~『フィガロの結婚(後半)』の解説と分析	『フィガロの結婚』 全曲の別ヴァー ジョンを視聴する	演出による違いを まとめる
12	モーツァルトのオペラ③ ~『ドン・ジョヴァンニ』の解説と分析	『ドン・ジョヴァン 二』のあらすじを調 べる	『ドン・ジョヴァン 二』全曲を視聴す る
13	モーツァルトのオペラ④ ~『魔笛(第1幕)』の解説と分析	『魔笛』のあらすじ を調べる	『魔笛』全曲を視 聴する
	モーツァルトのオペラ⑤ ~『魔笛(第2幕)』の解説と分析	フリーメーソンにつ いて調べる	ジングシュピール の発展をまとめる
15	授業のまとめ 〜授業内容を振り返り、全体の流れを再確認する。質疑応答も行 う	これまでの内容を 整理し、疑問点を 把握する	課題レポートを作 成する

使用教科書	プリント配布
参考書•参考資料等	授業中に適宜指示

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	30%	事前・事後学修に基づく意見や疑問への発言
	課題 / レポート	70%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容

科目名	西洋音楽史Ⅱ			科目ナンバリング	MC3M3T61		
担当者	木村	木村 博子					
担当形態	単独	l			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 学科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	]					
<b>设也,必收应八</b>		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
選択•必修区分		選択			選択必修	AB	CE
備考							
授業のテーマ及び 到達目標				の歴史を学ぶこと てより豊かな芸術		芸術の関係性およびうになる	<b>が音楽の社会性に</b>
授業の概要	いった	こかを見る。前半 オペラ、イタリア( 、オペレッタの発	はベートーヴェン のベルカント・オ・	ν以降ヴァグナーⅠ ペラからヴェルデ	に至るまでのドイ ィ、プッチーニに3	)ような形でミュージ ソ・オペラの流れ、フ ≧る流れを概観し、む ルについて、代表作	プランスにおけるグ あわせてオペラ・コ
	回		学習	引内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	ベートーヴェンと ~『フィデリオ』と				フランス革命につ いて調べる	『フィデリオ』全曲 を視聴する
	2	ウェーバーの『ß ~ロマン派のの				『魔弾の射手』の あらすじを調べる	『魔弾の射手』全 曲を視聴する
	3	~ロマン派のの ヴァグナーの楽	ろし 				曲を視聴する
		~ロマン派のの ヴァグナーの楽	あし 劇論 おとしてのオペラ			あらすじを調べる ヴァグナーの生涯 を調べる 『ニーベルングの	曲を視聴する 配布資料を熟読 する
	3	~ロマン派のの ヴァグナーの楽 ~総合芸術作品 ヴァグナーの作 ~『ニーベルンク	ろし 劇論 品としてのオペラ 品 がの指環』	ジョワ社会と音楽		あらすじを調べる ヴァグナーの生涯 を調べる 『ニーベルングの 指環』のあらすじ	曲を視聴する 配布資料を熟読する 『ニーベルングの 指環』の中の一作
	3	~ロマン派のの ヴァグナーの楽 ~総合芸術作品 ヴァグナーの作 ~『ニーベルング フランスのグラン ベルカント・オペ	あし 劇論 品としてのオペラ 品がの指環』 バオペラ〜ブル	ジョワ社会と音楽		あらすじを調べる ヴァグナーの生涯を調べる 『ニーベルングの 指環』のあらすじ を調べる 19世紀のパリ社会 について調べる	曲を視聴する 配布資料を熟読する 『ニーベルングの指環』の中の一作を視聴する グノーの『ファウスト』全曲を視聴する
	3 4 5	~ロマン派のの ヴァグナーの楽 ~総合芸術作品 ヴァグナーの作 ~『ニーベルング フランスのグラン ベルカント・オペ	ろし 劇論 品としてのオペラ 品がの指環』 バオペラ〜ブル ラの世界 ベッリーに、ドニセ	ジョワ社会と音楽		あらすじを調べる ヴァグナーの生涯を調べる 『ニーベルングの指環』のある 19世紀のパリ社る 「セビリアの現聴す	曲を視聴する 配布資料を熟読する 『ニーベルングの指環・リングの作を視聴する グノーの『ファウオる 『ノルマ』または『愛の聴する

9	オペレッタの世界 〜世紀末ウィーンとパリ	『こうもり』のあらす じを調べる	『カルメン』全曲を 視聴する
10	アメリカ音楽概説 ~クラシックとポピュラーの混淆、ジャズの誕生	アメリカ社会につ いて調べる	『ポーギーとベス』 全曲を視聴する
11	モダンバレエの興隆とミュージカルの誕生 〜歌・踊り・芝居はどのように統合されたか	モダンバレエの歴 史を調べる	『ウェスト・サイド・ ストーリー』全曲を 視聴する
12	映画とミュージカル 〜『サウンド・オブ・ミュージック』『マイ・フェア・レディ』『シェルブー ルの雨傘』	左記3作のあらす じを調べる	左記3作を視聴す る
13	ミュージカルと社会 ~アメリカ社会とミュージカル	『ウェスト・サイド・ ストーリー』を再度 視聴する	『キャッツ』を視聴 する
14	日本のオペラとミュージカル 〜浅草オペラから劇団四季まで	日本におけるオペ ラ、オペレッタの歴 史を調べる	
15	まとめ 〜これまでの流れを振り返り、授業内容を復習する	疑問点を書き出す	課題レポートを作 成する

使用教科書	プリント配布
参考書·参考資料等	授業中に適宜指示

成績	評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		平常点(態度・行動観察)	30%	事前・事後学修に基づく意見や疑問への発言
		課題 / レポート	70%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容

科目名	音楽科の授業設計と指導法I			科目ナンバリング	мсзмзсзз			
担当者	中村 理恵	中村 理恵						
担当形態	単独			単位数	2単位			
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次			
開講時期	前期			•				
>22 LD - >1 lbc DT //	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー			
選択・必修区分	選択	必修			AC	EF		
備考		•		•				
授業のテーマ及び 到達目標 担業の概要	学習指導要領の内 材「浜辺の歌」の模擬 理解とその方法を身( 生徒主体の授業の 「浜辺の歌」を教材。	「学習指導要領の内容を理解し、生徒の思考を促すような授業設計と指導法を探ろう」 学習指導要領の内容を読み解くことを通して、身につけさせたい資質・能力について理解を深める。また、教材「浜辺の歌」の模擬授業と検討会を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりについての理解とその方法を身につけることができる。 生徒主体の授業のあり方や深い学びについて考える。 「浜辺の歌」を教材とした授業を構想し、題材観や指導観などを整理し、学習指導案にまとめる。 御船町教育委員会及び嘉島町教育委員会と提携して行う学校支援ボランティア活動を通して、生徒への理解						
	を深め、生徒主体の	学習展開を工夫す			事前学習	事後学習		
授業計画	生徒主体の授	生徒主体の授業のあり方について・主体的に学習に取り組む姿とは			シラバスを熟読しておく	事後子自 「生徒主体の授 業」について自分 の考えをまとめる		
	深い学びの実現のために 2 ・音楽科の「見方・考え方」 ・「生徒の学び」への視点の転換を				配付資料を熟読しておく	「深い学び」につ いて自分の考えを まとめる		
	3 音楽科の目標の	科の目標と指導内容			学習指導要領解 説の当該箇所を 熟読しておく	学年レベルで目標と指導内容を一覧にまとめる		
	「赤とんぼ」の教 4 ・曲の背景を踏				「赤とんぼ」の弾き 歌いができるよう に練習しておく	「赤とんぼ」の教 材としての価値を まとめる		
	5 教材観				配付資料を読んでおく	「教材観」をまとめる		
	指導案の形式。 6 題材設定の理				配付資料を読んでおく	「題材設定の理 由」を考え、まとめ る		
	7 系統観				教科書教材(歌唱)の指導内容を 確認しておく	「系統観」をまとめる		
	8 思春期の音楽学習と生徒観							

9	主体的・対話的な学習の工夫	配付資料を読んでおく	主な学習活動を考える
10	学びを助ける情報機器の活用	利用できそうな教 育機器について考 えておく	必要な視聴覚教 材を作成する
11	指導観	配付資料を読んでおく	「指導観」をまとめる
12	評価規準と指導計画	評価規準を自分なりに作っておく	「指導計画」をまとめる
13	本時の目標と学習展開	本時の主な学習 活動を確認してお く	「本時/展開案」をまとめる
14	模擬授業(代表者)と検討会	模擬授業の準備をしておく	討議内容につい て自分なりの考え をまとめる
15	授業設計の改善と修正 レポート課題の提示	配付資料を読んでおく	自分の指導案を 修正する

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),				
	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽(東洋館出版社),				
	中学生の音楽1(教育芸術社),				
	中学生の音楽2・3上下(教育芸術社)				
参考書•参考資料等					

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	課題検討の取り組み	40%	事前事後学修の内容や意見の深まり
	教育支援ボランティア	10%	ボランティアの取り組みと生徒理解
	毎時間の振り返り	10%	課題についての理解度、自分の考え

科目名	音楽科の授業設計と指導法Ⅱ			科目ナンバリング	мсзмзсзз		
担当者	中村 理恵	中村 理恵					
担当形態	単独			単位数	2単位		
対象学科	音楽学科			開設学年	3年次		
開講時期	後期						
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー	
選択•必修区分	選択	必修			AC	EF	
備考							
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	学習指導要領B鑑賞 る。また、「魔王」と「日 びの視点に立った鑑賞 生徒主体の授業のあ	「学習指導要領の内容を理解し、深い学びを促すような授業設計と指導法を探ろう」 学習指導要領B鑑賞の指導内容を読み解くことを通して、身につけさせたい資質・能力について理解を深める。また、「魔王」と「日本の伝統音楽」を教材とした模擬授業とその検討会を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に立った鑑賞領域の授業づくりについて理解を深めることができる。 生徒主体の授業のあり方や深い学びについての考えを深める。 教材「魔王」「雅楽」「能・狂言」「文楽」「歌舞伎」の指導案作成と模擬授業及び検討会を通して、主体的・対話					
	学校支援ボランティブロ	ア活動を通して得					
授業計画	1 鑑賞の指導 ・鑑賞活動と言語		770		シラバスを熟読し ておく	「鑑賞活動と言語活動」について自分の考えをまとめる	
	2 鑑賞と表現の関	連			配付資料を熟読しておく	「鑑賞と表現の関連」について自分の考えをまとめる	
	3 「魔王」の教材研	<del>T</del> 究			「魔王」を視聴し、 内容をまとめてお く	「魔王」の教材性をまとめる	
	4 「魔王」の学習展	<b>長開を構想</b>			気づかせたい内 容・事項を考えて おく	「魔王」の授業に 必要な視聴覚教 材等を作成する	
5 聴き深める学習の工夫 おおまかな活動の流れを考えておく が流れを考えておく が							
	6 ICTを活用した搭	受業の実践研究			学習指導要領解 説の当該箇所を 読んでおく	「ICT活用の意 義」をまとめる	
	6 ICTを活用した技 7 授業構想プレゼ		見交換		説の当該箇所を 読んでおく 		

9	日本の伝統芸能の歴史	配布資料を熟読しておく	伝統芸能の歴史 で分かったことを まとめる
10	選択した教材についての教材研究 ・「雅楽」「能・狂言」「文楽」 「歌舞伎」から選択	選択した教材を視 聴しておく	「文楽」と「歌舞 伎」の相違点を調 べる
11	※「文楽」選択の場合を示す 教材研究「文楽」 ・人形のひみつ	人形遣いについて 調べておく	人形遣いの特徴 についてまとめる
12	教材研究「文楽」 ・義太夫節のひみつ	義太夫節について 調べておく	義太夫節と三味 線についてまとめ る
13	教材研究「文楽」 ・舞台のひみつ	舞台の仕掛けに ついて調べておく	「文楽」を教材とし た授業構想を作 成する
14	意見交換会「こんな授業を展開したい」	発表内容をまとめ ておく	交換会での意見 を参考に、授業構 想を修正する
15	意見交換会 「日本の伝統音楽を取り扱う意義」 レポート課題の提示	関連資料を探し、 読み、分かったこ とをまとめておく	自分の考えをまと める

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽(東洋館出版社),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上下(教育芸術社)
参考書‧参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	課題検討の取り組み	40%	事前事後学修の内容や意見の深まり
	教育支援ボランティア	10%	ボランティアの取り組みと生徒理解
	毎時間の振り返り	10%	課題についての理解度、自分の考え

科目名	オペ	ラ研究 I			科目ナンバリング	MC3M3N37	
担当者	桑原	〔 理恵					
担当形態	複数	Į.			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 <b>学</b> 科			開設学年	4年次	
開講時期	前期	]				1	
ᅄᇄ		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		選択				ABO	CDE
備考	※声	楽コースは履修が	が望ましい。オペ	ラ研究Ⅱをあわせ	せて履修すること		
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	* 本 <sup>5</sup>	オペラの楽譜の読み取り方(言葉・音楽・背景)を習得し、それに則した歌唱表現ができるようになる。 *本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む モーツァルトをはじめとするオペラから場面を取り出し、それぞれの声質に合った役のレチタティーヴォ、アリア、アンサンブルを研究する。					
			学習	習内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	授業内容の説明 課題作品の時代		りについて		シラバスを読み授 業の概要を確認 する	課題作品について調べる
	2	2 課題曲1・2 (歌詞の台詞読み・歌唱)				発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題 点をまとめる
	3	課題曲1·2 (音楽的基礎部	分の確認)			台詞を読み、正確 に歌唱できるよう に練習する	指導内容と課題 点をまとめる
	4	課題曲1・2 (アンサンブル0	)確認)			相手のパートを意 識して正確に歌え るように練習する	指導内容と課題 点をまとめる
	5	5 課題曲3・4 (歌詞の台詞読み・歌唱) 6 課題曲3・4 (音楽的基礎部分の確認)				発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題 点をまとめる
	6		分の確認)			台詞を読み、正確 に歌唱できるよう に練習する	指導内容と課題点をまとめる
	6					に歌唱できるよう	

9	課題曲5·6 (音楽的基礎部分の確認)	台詞を読み、正確 に歌唱できるよう に練習する	指導内容と課題 点をまとめる
10	課題曲5·6 (アンサンブルの確認)	相手のパートを意 識して正確に歌え るように練習する	指導内容と課題 点をまとめる
11	課題曲1~6 (アンサンブルのパートナーの決定)	自分のパートの役割を捉え正確に歌えるように練習する	指導内容と課題 点をまとめる
12	課題曲1~6 (役柄の特徴とアンサンブル)	役柄の特徴を考 察しパートナーと 歌唱練習する	指導内容と課題 点をまとめる
13	課題曲1~6 (内容表現の考察)	作品の内容表現を考察しパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題 点をまとめる
14	課題曲1~6 (アンサンブルの仕上げ)		指導内容と課題 点をまとめる
15	まとめ (演奏発表と講評)	役柄の所作をイ メージしてパート ナーと歌唱練習す る	演奏録音から自 分の課題点をまと める

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み
	期末テスト		アンサンブルのバランス・音楽的表現

科目名	オペ	ラ研究Ⅱ			科目ナンバリング	MC3M3N38	
担当者	桑原	. 理恵					
担当形態	複数	Ţ.			単位数	2単位	
対象学科	音楽	·····································			開設学年	4年次	
開講時期	後期	]			1		
		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー
選択・必修区分		選択				AB	CDE
備考	※声	楽コースは履修だ	が望ましい。				
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	オペラの楽譜の読み取り方(言葉・音楽・背景)を習得し、それに則した歌唱表現ができるようになる。 *本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む  オペラ研究 I で取り組んだ作品の役を演じるために必要な心理的動きに伴う所作を研究し演技力を身につける。また舞台で必要なマナー、コミュニケーションを学ぶ。						
	回		学習	内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	授業内容の説明 課題作品の時代	月 弋背景▪登場人物	について		課題曲の練習 役柄・作品につい て調べる	自分の演じる役材についてまとめる
	2	課題曲1~6(音楽練習/歌	唱による劇の表:	現)		課題曲の練習	指導内容と課題 点をまとめる
	3	課題曲1~6 (音楽練習/譜	面から動きを探る	3)		課題曲の練習	指導内容と課題 点をまとめる
		課題曲1~6 (音楽練習/動きを意識したアンサンブル)					北洋古中上田田
	4		きを意識したアン	<b>,</b> サンブル)		共演者との練習	指導内容と課題 点をまとめる
	4	(音楽練習/動	きを意識したアン			共演者との練習 共演者との練習	
	5	(音楽練習/動	柄による動きの違				点をまとめる 指導内容と課題
	5	(音楽練習/動 課題曲1~6 (表現練習/ 課題曲1~6 (表現練報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報	柄による動きの違	違い)		共演者との練習	点をまとめる 指導内容と課題 点をまとめる 指導内容と課題

9	課題曲1~6 (立ち稽古/歌詞からの演技考察)	共演者との練習	指導内容と課題 点をまとめる
10	課題曲1~6 (立ち稽古/音楽からの演技考察)	共演者との練習	指導内容と課題 点をまとめる
11	課題曲1~6 (立ち稽古/歌詞と音楽と演技の関係)	共演者との練習	指導内容と課題 点をまとめる
12	課題曲1~6 (立ち稽古/相手とのコミュニケーションの取り方)	共演者との練習	指導内容と課題 点をまとめる
13	課題曲1~6 (立ち稽古/歌唱・演技での対話表現)	共演者との練習	指導内容と課題 点をまとめる
14	課題曲1~6 (仕上げ)	共演者との練習	指導内容と課題 点をまとめる
15	まとめ (衣装・道具をつけての舞台発表と講評)	共演者との練習	演奏録音から自 分の課題点をまと める

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み
	期末テスト	50%	アンサンブルのバランス・音楽的表現

科目名	伴奏法Ⅲ 科目ナンバリング				MC3M3T43			
担当者	塩津 貴子							
担当形態	単独	R			単位数	2単位		
対象学科	音楽	· 学科			開設学年	3年次		
開講時期	前期	1						
ᅄᄱᇄ		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー	
選択・必修区分		選択			選択必修	ΑI	DE	
備考				•		•		
授業のテーマ及び 到達目標		ナンブルの基礎能をバランスの良い			力の向上・積極的	に伴奏を行い、自分	うの力で様式感に	
授業の概要		/奏法の要点、役 を確認していく	割、方法等を研	究する。色々な人	の演奏を聴き合う	うことにより、良い伴	奏とはどのようなも	
	□		学習	日内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1	授業内容のオリエンテーション (授業計画と伴奏への認識について)			シラバスを読み、 授業の概要を確 認する	指定された楽譜を 準備しておく		
	2	岡野貞一の作品 の関連性につい		:味わい、その情:	景と伴奏パート	教材曲について調 べ、練習する	曲の課題をまとめておく	
	3	3 全体の音量を支えるバスパートの重要性を認識する				歌パートを意識し練習する	歌詞の情景の表現法を復習する	
	4	ピアノのハーモニ	ニーの中に歌がる	あることを感じる		ハーモニーを意識 し練習する	技術および表現 法の改善に取り 組む	
	5	山田耕筰の作品 アノに活かす	品を題材に、歌の	パートを歌い、そ	のドラマを感じピ	教材曲について調 べ、練習する	曲の課題をまとめておく	
	6 ハーモニーや拍子の変化を味わう				歌パートとのバラ ンスを意識し練習 する	歌詞の情景の表 現法を復習する		
	7	7 美しいメロディーを美しい音で表現する					技術および表現 法の改善に取り 組む	
		ナカ宝ニの作品	・	ナンスルナンラギ		教材曲について調	歌詞の意味・曲の 特徴をまとめてお	

9	日本的抒情を表現するテクニックを学ぶ	フレーズを意識し 練習する	指導された事柄を まとめ、復習して おく
10	ハーモニーを支えるバスパートの重要性を感じる	曲の内容と音色の 関連性に留意し練 習する	
11	滝廉太郎の人物像と作品について考察する	有節歌曲の表現 上の工夫をまとめ る	歌詞の意味・曲の 特徴をまとめてお く
12	歌と伴奏パートの関連性について学ぶ	伴奏パートの音型 の意図するものに ついて考えておく	
13	言葉とメロディー、伴奏に求められるものを考察する		技術および表現 法の改善に取り 組む
14	中田喜直の作品を題材に、華麗なピアニズムと表現のドラマ性を学ぶ	教材曲について調 べ、練習する	情景と音色の結 びつきをまとめて おく
15	音型によってどのような世界を作り出していくか研究する	指示された内容ま で到達するよう練 習する	授業で学んだこと をまとめる

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	実技発表への取り組み、成果
	平常点(態度・行動観察)	50%	授業中の積極的な参加、練習状況

科目名	伴奏法Ⅳ			科目ナンバリング	MC3M3T44		
担当者	塩津						
担当形態	単独	<u> </u>			単位数	2単位	
対象学科	音楽	 <b>学</b> 科			開設学年	3年次	
開講時期	後期	1					
		卒業要件 教職課程 保育			音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		選択			選択必修	AC	EF
備考							
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	の能:	初級向けの楽曲指導についての講義を通して、指導者として必要な様々な知識と、レッスンを円滑に行うための能力を実践的に身につけることを目標とする  初級者のための教材、メソッドについて学び、ピアノ指導に必要な基本的指導法等を体験、考察する。初級向けの楽曲指導を実践的に学ぶ					
	回		学習	图内容		事前学習	事後学習
授業計画	1	指導法概論、アンケート等			シラバスを読み、 授業の概要を確 認する	指定された楽譜を 準備しておく	
	2	入門教材の研究	÷.			指示された事柄に ついて調べてくる	読譜についてまと める
		1					
	3	初級者向けの教	枚材研究①			指示された導入教 材を読んでおく	指導例を熟読す る
		初級者向けの教					
	4		女材研究②			材を読んでおく テクニック上、難しい場所を確認して	指導例を熟読し、まとめる
	4	初級者向けの教	女材研究② 養うために			材を読んでおく テクニック上、難しい場所を確認しておく 指示された導入教	指導例を熟読し、 まとめる リズム唱の意義に ついてまとめる 各曲の指導法を
	5	初級者向けの教子どもの感性を	対研究② 養うために 品の研究			材を読んでおく テクニック上、難しい場所を確認しておく 指示された導入教材を読んでおく 指示されたバロッ	指導例を熟読し、 まとめる リズム唱の意義に ついてまとめる 各曲の指導法を

9	基礎的ピアノ奏法① (運指の考え方、姿勢等)	指示されたバロッ ク作品を練習する	様式をふまえた表 現法についてまと める
10	基礎的ピアノ奏法② (スケール、アルペジョ等の効果について)	指示された小品を 練習する	表現法の変化に ついてまとめる
11	楽語(発想記号、速度記号、強弱記号等)の解釈について	指示された小品を 練習する	様式感を引き出 す指導案をまとめ る
12	楽語(発想記号・速度記号・強弱記号等)の解釈について①	今まで学修した曲 の楽譜をそろえ、 練習する	バロック期の作 風、表現法をまと める
13	変奏曲の特色について	指示されたバロッ ク期の教材を練習 する	課題曲について まとめる
14	ソルフェージュ、エチュードに沿ったアプローチ法について	教材曲を練習する	講義内容の整理 および指導者とし ての理念をまとめ る
15	まとめ	今まで学修した曲 を復習しておく	学びの総まとめを する

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	発表	50%	学修課題の理解・修得
	平常点(態度・行動観察)	50%	授業中の積極的な参加

科目名	対位法科目				科目ナンバリング	MC3M4N29	
					111 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	14100141420	
担当者	四州	西林 博子 					
担当形態	単独				単位数	2単位	
対象学科	音楽	学科			開設学年	4年次	
開講時期	前期	I					
ᄬᄱᇕᄽᅜᅙᄼ		卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	アポリシー
選択・必修区分		*				ABC	DEF
備考	※作	曲コース・電子キ	一ボードコース必	修			
授業のテーマ及び到達目標	基礎的な対位法を理解し、課題の実施ができる。 ポリフォニーに関する楽曲に関心が持ち、創作や演奏に於ける表現力の充実を目指す。 和声学Ⅲ・Ⅳ習得程度の理解力をもっての履修の履修が望ましい。  二声の対位法を学ぶと共に、バッハの作品を考察することにより、ポリフォニーに対するより深い意識を以て、 日頃接する楽曲の理解力を高める						深い意識を以て、
	□		学習	'内容		事前学習	事後学習
授業計画	1				· 考察	対位法、及びポリ フォニーとは何か 調べておく	本時で取り上げた 曲と類似した作品 を探す
	2	2 対位法成立の要因である旋律について考察する				テキストの第1章 及び第2章を読む	全音符のみによ る旋律を作成
	3	3 1:1 の理論を学ぶ テキスト第6章を読む				課題の実施	
	4	4 1:1 による二声対位法を実施する				テキスト第6章を読 む	課題の実施
	5	5 1:2の理論を学ぶ				テキスト第7章を読 む	課題の実施
	6	6 1:2の二声対位法を実施する			テキスト第7章を読 む	課題の実施	
	7	7 1:3の二声対位法を実施する (テキストには掲載なし)				非和声音について 調べ、テキスト第3 章を読む	課題の実施
	8	1:4の二声対位	法を実施する			テキスト第8章を読 む	課題の実施

9	1:1、1:2、1:4の総括と確認テスト	1:1、1:2、1:4の復 習	課題の実施
10	移勢対位法を学ぶ	テキスト第3章の 掛留を理解し、第9 章を読む	課題の実施
11	華麗対位法を学ぶ	テキスト第10章を 読む	課題の実施
12	種々のカノンについて学ぶ	テキスト第13章を 読む	カノンを採用した 作品を探す プレアンブルム
13	バッハのインヴェンションを考察する	シンフォニア2・6・ 7・14を聴聴き、分 析を試みる	インヴェンション4 番を分析する
14	インヴェンション4番の総括 シンフォニアを考察する	シンフォニア2・6・ 7・14を聴聴き、分 析を試みる	他のインヴェン ションとシンフォニ アの考察を試みる
15	ホモフォニック作品に於ける ポリフォニー様式を考察する		授業を通して培っ た内容を総括的 に振り返りまとめ る

使用教科書	名曲で学ぶ対位法(音楽之友社)
参考書·参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント		
	平常点(態度・行動観察)	10%	学びに対する積極的な姿勢と言動		
	課題の実施 / 発表		課題の完成度の高さ/積極的な発表内容		
	筆記試験	60%	課題の完成度		

科目名	卒業研究(声楽)			科目ナンバリング	MC3M1N49	
担当者	桑原 理恵他					
担当形態	クラス分け			単位数	4単位	
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次	
開講時期	通年					
	卒業要件	卒業要件 教職課程 保育士			ディプロマポリシー	
選択・必修区分	必修				ABCDEF	
備考						

備考	
授業のテーマ及び 到達目標	楽曲を様々な角度から捉え理解を深め、演奏表現の向上に結びつける。また、自分が修得した技術や表現に ついて文字や言葉で伝えることを修得する。
授業の概要	声楽実技研究で取り組む楽曲に関しての研究を行う。自分が演奏する作品の歴史、作曲家、作詞者、演奏技 法などの研究を行う。また、様々なジャンルの芸術に触れ豊かな感性を育てる。
学修計画	1. これまでに学修してきたレパートリーや演奏能力などをもとに指導教員と年間の学修計画を立てる
	2. 作品の概要、時代背景等を探る
	3. 作曲家や楽曲様式について調べる
	4. 作品の演奏技術や表現を追求する
	5. 卒業試験曲(日本歌曲を含む)について考察したことを演奏レポートとして作成、提出する
	[形 式] 形式は自由。1ページを1200字とした場合、3~10ページを目安とする (ページを明記のこと)

[提出期限] 2025年1月24日(金)17時30分

[提出窓口] 教務課窓口 \*必ず本人が提出すること

使用教科書	楽譜等を授業時に提示		
参考書•参考資料	等		
成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	卒業試験曲の演奏レポート	30%	内容の深さと充実、論旨の一貫性等
	口頭試問	30%	研究動機・主体的取り組みの内容等
	特別講座への取り組み	10%	主体性、積極性、追求性
	実技試験	30%	演奏内容

科目名	卒業研究(ピアノ)			科目ナンバリング	MC3M1N49	
担当者	眞鍋 協子 他					
担当形態	クラス分け			単位数	4単位	
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次	
開講時期	通年					
	卒業要件 教職課程 保育士			音楽療法	ディプロマポリシー	
選択・必修区分	必修				ABCDEF	
備考						

# 授業のテーマ及び 到達目標

音楽学科において、これまでに研究した演奏技術と音楽的表現をもとに、さらに高度な技術力、洞察力をつける。音楽作品を通して、深い芸術性と豊かな人間性を養う

# 授業の概要

卒業年次に選んだテーマに沿って楽曲を選択し、作曲家の作品の歴史、様式、演奏技法等の研究を行う。4年間で修得した技術と奏法を舞台において発表する

# 授業計画

## 前期

これまでに学んできた実技の技術、理論に加えて、ステージで演奏するために更に深く音楽を追求し、それをもって学内演奏に臨む

## 後期

学内演奏の経験を踏まえ、演奏法と楽曲の研究の両方から更なる研鑚を積む。卒業試験のために選ん だ楽曲について、その作曲家の全体像にも触れ、作品の背景、様式上の特性を考慮しつつ、より完成度 の高い演奏を目指す

## [成績評価]

- 1、卒業試験(実技試験・公開演奏)
- 2、口頭試験:卒業試験(器楽実技研究\m)で演奏した曲の内容について口頭試験を行う 口頭試験は、事前に作曲家・作曲家の作品の歴史、様式、楽曲分析、演奏技法などをレポート用紙5 枚程度に調べた上で、口頭試験に臨む
- 3、学内、学外での演奏会、講座等の鑑賞や出演で評価する
  - ※提出期限 該当年度の1月31日(祝日の場合は翌週の月曜日) 17;30 提出窓口 学務課

使用教科書 参考書·参考資料等			
成績評価基準	評価方法 実技試験 卒業試験曲の演奏レポート ロ頭試問 特別講座への取り組み	割合 30% 30% 30% 10%	評価のポイント 演奏内容 内容の深さ・主体的取り組み 研究動機・研究内容に対する詳細な質問 主体性・積極性・追求性

科目名	卒業研究(管弦打)			科目ナンバリング	MC3M1N49	
担当者						
担当形態	クラス分け			単位数	4単位	
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次	
開講時期	通年					
12.40	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
選択•必修区分	必修				ABCDEF	
備考						
授業のテーマ及び 到達目標		り、深い芸術性を	を養うこと。さらにこ	専攻楽器の専門	みならず、歌劇他、多方面の芸術を実 生を磨くことに加え、管弦打楽器の知 なる	
授業の概要					の研究を前提とする。4年間を通して を意味する。学内演奏会・卒業試験が	
授業計画	1.前期は学内演 研究をする	奏会、後期は卒	業試験として公開	見試験となるので	、それぞれに向けた選曲および、楽曲	
	2.専攻楽器のレ	パートリーの研究	究をする			
	   3.普段の実技と   し、レポートを提		アナリーゼを中心	かとし、楽曲の時代	背景や作曲された経緯その他を研究	
	4.その他、管弦 な角度から研究		深め、将来学校理	見場等で吹奏楽や	o管弦楽を指導することも想定し、様々	
	<ul> <li>※3.のレポートについて</li> <li>●形式:自由形式</li> <li>●サイズ:A4</li> <li>●文字数:1ページ1200字程度</li> <li>●枚数:3枚以上10枚以内</li> <li>●提出窓口:学務課</li> <li>●提出期限:別途定める</li> </ul>					

使用教科書 参考書·参考資料等			
成績評価基準	評価方法 実技試験 卒業試験曲の演奏レポート ロ頭試問 特別講座への取り組み	割合 30% 30% 30% 10%	評価のポイント 演奏内容 内容の深さ・主体的取り組み 研究動機・研究内容に対する詳細な質問 主体性・積極性・追求性

科目名	卒業研究(作曲)			科目ナンバリング	MC3M1N49	
担当者	西林 博子 他					
担当形態	複数			単位数	4単位	
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次	
開講時期	通年					
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
選択·必修区分	必修				ABCDEF	
備考						
授業のテーマ及び 到達目標		聴衆と音楽的コ			社会的に実践できる力をつけるの成長と音楽の美しさを追求し、地域	
授業の概要		导した様々な作曲			なジャンルの編成や楽器等とスタイルで個性ある芸術作品を創作する。ま	
授業計画	①和声学 和声の実習 ②対位法 パレストリーナスタイル、カノン更にはフーガまで学習する ③管弦楽法 a楽器学 b室内楽 c管弦楽 d吹奏楽 ④アナリーゼ パロック、古典、ロマン、近現代の楽曲を分析する ⑤コード進行法 クラシックだけでなくポピュラーの楽曲のコード進行を分析し、更にはコードネーム無し一段譜による演奏を試みる ⑥様々な音楽形式の研究と創作 ⑦編曲 クラシックだけでなくポピュラーの楽曲をピアノまたは室内楽に編曲し、演奏する ⑧スコアリーディング 管弦楽(総譜)、室内楽の視奏および分析 ③鑑賞 週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成・提出する ⑩ピアノ、キーボードによる即興演奏法 ①作曲実習 自由なテーマによる作曲 以上、11のテーマを通年にわたって行う					

吏用教科書	指導教員より指示		
参考書·参考資料	·等		
	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	80%	自作曲の質、表現の完成度、楽譜提出
	平常点	20%	積極的な取り組み、演奏会の鑑賞・出演

	_							
科目名	卒業研究(電子キーボード)				科目ナンバリング	グ MC3M1N49		
担当者	中村	中村 真貴 他						
担当形態	複数	τ		単位数	4単位			
対象学科	音楽	音楽学科開設学年				4年次		
開講時期	通年	<u> </u>						
		卒業要件	教職課程	音楽療法	ディプロマ	7ポリシー		
選択・必修区分		必修				ABC	DEF	
備考								
授業のテーマ及び 到達目標 授業の概要	現代 音編 リーク カーク た技能	のニーズにあった を通して、人間性 に力を入れる。 ダクション→原曲 ランスクリプション ・ックからポップス 能・知識を駆使。	・電子オルガン感 豊かな情操を養 のイメージを忠身 ・→原曲の本質を など、幅広いジャ	ミに電子オルガン :損ねず、電子オノ	。 に再現 ルガン独自の作品 リジナル曲、また!	引に書き直す。 よ編曲作品を作成し	、4年間で修得し	
	回		学習	内容		事前学習	事後学習	
授業計画	1	コード進行法 クネームも意識し		(()の楽曲の和声を	を分析し、コード	コードネームの復 習 古典派の曲を選 んで来る	古典派の曲の和 声を分析	
	2	コード進行法 ク 分析し、コードネ		派)、ポピュラー <i>0</i> 演奏	)楽曲の和声を	ロマン派の曲を選 んで来る	ロマン派の曲の 和声を分析	
	3	ポピュラー、ジャ 意識して演奏	ズの楽曲のコー	ド進行を分析し、	コードネームを	ポップス、ジャズの 曲を選んでくる	テンションを含む コードを分析	
	4	管弦楽法 a.楽器学 b.室内	N楽 c.管弦楽 c	ł.吹奏楽		多くの曲を聴く	楽器の使い方を 調べる	
	5	管弦楽法 a.楽器学 b.室内楽 c.管弦楽 d.吹奏楽				多くの曲を聞き、 楽器の編成につ いて考える	ピアノ曲をオーケ ストラに編曲	
	アナリーゼ 条曲の構成の理解と実践					多くの曲を聴き、 楽曲の構成を書 いて来る	ピアノ曲をオーケ ストラに編曲	
	7 管弦楽、室内楽のスコアリーディング(総譜)				室内楽のスコアを 準備する	室内楽のスコアか ら電子オルガン用 のアレンジをする		
	8	学内演奏会準備 自分でチェック、	情 学生同士でチェ	ックしあう		徹底的に弾き込ん でより良い音楽を 目指す		

9	スコアリーディング管弦楽(総譜)、室内楽	室内楽のスコアを 準備する	室内楽のスコアか ら電子オルガン用 のアレンジをする
10	スコアリーディング管弦楽(総譜)、室内楽	管弦楽のスコアを 準備する	管弦楽のスコアか ら電子オルガン用 のアレンジをする
11	スコアリーディング管弦楽(総譜)、室内楽	管弦楽のスコアを 準備する	管弦楽のスコアから電子オルガン用 のアレンジをする
12	オリジナルの作成1 今まで学んだ音楽知識を使いオリジナルを作曲	課題作成 イメージ、構成、編 成	授業でのアドバイ スを活かし課題作 成
13	オリジナルの作成2 今まで学んだ音楽知識を使いオリジナルを作曲	課題作成 メロディー、ハーモ ニー、リズム	授業でのアドバイ スを活かし課題作 成
14	オリジナルの作成3 今まで学んだ音楽知識を使いオリジナルを作曲	課題作成 楽譜の完成とレジ スト準備	授業でのアドバイ スを活かし課題作 成
15	公開演奏会シミュレーション 自分でチェック、学生同士でチェックしあう	練習を重ね良い 音楽に仕上げる	自分の演奏を録 音、録画して完成 させる

使用教科書	ラインハルトオルガン教本50番(音楽之友社),
	エレクトーンメロディーズNEWベストセレクション(ヤマハミュージックメディア)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験		試験曲
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	毎時間の振り返り		日々の練習や鑑賞の記録
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習

科目名	卒業研究(パフォー	ーマンス)		科目ナンバリング	MC3M1N49
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
SELID NATIONAL	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
選択•必修区分	必修				ABCDEF
備考					
授業のテーマ及び 到達目標	I 個々の実力に応じ 力を身につける II 現代のニーズにあ III 音楽を通して、人間	った演奏感覚を	身に付ける	、音楽表現	
授業の概要	げる	の専攻実技の基	本的な奏法を、		、個々の専攻実技のレパートリーを広 、コード、ハーモニー等の理論について
授業計画	専攻の幅広い 楽曲の背景(イ ・各専攻の理解 表現力を身につ ・各専攻の理解 他ジャンルとの 編曲を行う 創作に必要な	作曲者、作詞者、 と総合力を高める ける のため、コード、 シコラボレーション 作曲技法・編曲技 楽曲の分析、奏	器について、歴史 時代等)について るため、ミュージが ハーモニー等の野ンを行い、個々の 支法を学ぶ	コル、オペラ、ライ 里論について学習 専攻(楽器)を活た	知識と表現力を身につける ブコンサート等、数多くの経験を積み、

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択	:する 	
\$考書·参考資料	·等		
	評価方法	割合	評価のポイント
VIQTI IM	実技試験	80%	専門実技の習熟度
	平常点	20%	積極的な取り組み、演奏会への出演
	1 17 ///	20/0	「大学 」 「 「 「 「 「
			_

科目名	卒業研究(サウンドデザイン)			科目ナンバリング MC3M1N49				
———————— 担当者	矢賀部	矢賀部 竜成 他						
担当形態	複数	複数単位数				4単位		
対象学科	音楽学	音楽学科				4年次		
開講時期	通年							
	卒美	業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマ	マポリシー	
選択・必修区分	Į.	<b>必修</b>				ABC	DEF	
備考								
授業のテーマ及び 到達目標				として成功させる きう。(企画、舞台	。(運営を含む) 、運営などのスタ <sup>、</sup>	ッフの仕事)		
授業の概要	マッチした bでの作品	た「音楽」を作 品の公開。	る。ヴォーカルや	他の楽器等との	コラボレーションも	「音楽」にマッチした ら行い、個性的な音が の様子の映像をDVI	楽を制作する。We	
	回		学習内容			事前学習	事後学習	
授業計画	1 音	ンピュータの沿 楽や映像で活 ビジネス系の	用してきたコンヒ	マイクロソフトオ フィスに慣れておく	マイクロソフトオ フィスに慣れてお く			
	2 道·	具としてのコン	としてのコンピュータ				マイクロソフトオ フィスに慣れてお く	
	3 1/3	3 いろいろな映像、音楽ソフトの操作をすばやく理解する能力				有名なフリーのソ フトを短期間に使 えるようにする	授業で使ったソフ トの復習	
						72 001 71 - 7 0		
		に対する感性 Dなどで多くの	曲を聞き、音色	面から研究		多くの曲を聞く(好きな曲も嫌いな曲も)	サウンドを作って みる	
	4 CC	つなどで多くの	曲を聞き、音色で	面から研究  リ、グルーブの面	īから研究	多くの曲を聞く(好きな曲も嫌いな曲も)	みる	
	4 CC 5 「ノ 5 CC	ひなどで多くの	曲を聞き、音色で		īから研究	多くの曲を聞く(好きな曲も嫌いな曲も) 多くの曲を聞き、ノリ、グルーブを感じる 多くの曲を聞き、	みる 多くの曲を聞き、 ノリ、グルーブに	
	4 CCC 5 「ノ CCC 6 淵 f	つなどで多くの 「リ」のある音楽 つなどでたくさん 曲の構成の理性、和声、コー	曲を聞き、音色で楽しいの曲を聞き、ノ			多くの曲を聞く(好きな曲も嫌いな曲も) 多くの曲を聞き、ノリ、グルーブを感じる 多くの曲を聞き、楽曲の構成を書いてくる	多くの曲を聞き、 ノリ、グルーブに ついて考える ネット曲を聞き、 楽曲の構成を書 いてくる 授業で使う機材の 特徴をネットで確	

9	共演(コラボレート) バンド活動をしてない学生にアンサンブルを体験	様々な形態の共 演を考える	共演をいろいろな 形で試してみる
10	キーボードハーモニー、和声学などの知識を活用して曲を分析する	コードネームの予 習	コードの復習
11	キーボードハーモニー、和声学など知識を活用して、コードネーム で分析する	スケールの予習 (アベイラブルノー トスケール)	スケールの復習
12	オーケストレーション クラシック曲のオーケストラスコアの研究	オーケストラにつ いて予習	授業内容の復習
13	オーケストレーション ポップスの音源からスコアをイメージする	オーケストラにつ いて予習	スコアリーディン グの復習
14	公開実技試験シミュレーション(1) 機材の確認とセッティング図、レイアウト図を制作する	さまざまな演奏形態の共演を考えておく	必要な機材のリス トをまとめる
15	公開実技試験シミュレーション(2) 自己チェック、学生同士でチェックしあう下級生にスタッフを依頼し 適切な指示を出させるようになる	スタッフを依頼す る下級生を決めて おく	運営を体験してみる

使用教科書	担当教員が配付、指示
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度)	10%	授業中の指示に対する、正しい作業
	課題/レポート	10%	課題を習得・練習
	実技試験	80%	公開試験での演奏、スタッフとしての働き

科目名	卒業研究(音楽教	育)	科目ナンバリング	MC3M1N49	
担当者	岩山 惠美子				
担当形態	単独			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
選択・必修区分	必修				ABCEF
備考	※仮題目提出 R6	年 5月22日 正式題	題目提出 R6年1	0月16日 査読申記	青書提出 R7年 1月17日

授業のテーマ及び 到達目標	音楽教育における教育研究の方法を修得する	
授業の概要	各自が設定した音楽教育に関するテーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる。	

## 授業計画

## [概要]

音楽教育コースにおける卒業論文は「卒業研究」(必修4単位)として 大学が課す卒業要件のひとつである。音楽教育コースにおいては、 卒業論文によることなく上記単位の取得は認められない。

## [提出期限及び提出先]

・卒業論文提出期限は、2025年1月17日(金)午後4時15分とする。時間厳守のこと。

期限時刻を過ぎた場合は、理由の如何を問わず、一切受理しない。

- ・必ず本人が本学教務課窓口に持参し、提出すること。
- ・提出時には査読用に論文を5部提出すること。

## [諸手続き]

・卒論提出にあたっては、以下の手続き申請を済ませなくてはならない。

下記に照らし欠格事項のある者の卒業論文査読は行わない。 卒業論文仮題目届(別紙様式1) 2024年5月22日(水) 卒業論文正式題目届(別紙様式2) 2024年10月16日(水) 卒業論文査読申請書(別紙様式3) 2025年1月17日(金)論文提 出時

- 卒業論文発表会(2025年1月 補講期間に実施)

卒業論文口頭試問(卒業論文発表会の後で実施、日時は別途定める)

## [内容]

・音楽教育コースの卒業論文は、音楽教育に関する実践研究を旨とする。その基礎理論として 教育学、音楽教育学、心理学、音楽史などの内容を含む。概ね以下のような内容が望ましい。

音楽教育の題材内容、指導課程、指導法、評価に関する実地研究 (授業研究)

音楽教育の基礎理論に関する実証的研究(調査研究) 音楽教育の基礎理論に関する文献的研究(文献研究)

## [形式及び体裁]

[記述上の注意]

《目次》 各プロットおよび、それらが何ページ目から始まるか明記する。

《本論》以下の流れを基本とする。(わかりやすくするための変更は可)・はじめに:研究の動機などについて論述する。

・研究主題について:何を明らかにするのかを明確にする。 先行研究や社会的諸問題、教育界の動向などから、問題点を明らかにする(問題提起)

・研究の構想:仮説を立てる。研究の基本的な考え方や方法について論述する。

・研究の実際:問題点にせまった方法とその結果についてまとめる。 研究授業を行った場合は、実践授業の内容や児童生徒の変容と 実践で明らかになったこと。

調査研究の場合は、調査の方法や手続き、分析結果など。 文献研究の場合は、文献を読み解き、関係性や新たな視点を見 いだすこと。

・成果と課題:研究主題で掲げた問題提起や研究の構想で掲げた仮説がどのように検証されたのかを分析・考察し、その結果を読み解きながら、音楽教育についての新たな考えについて論述する。また、今後に残された課題について論じる。

・図表・画像・楽譜は必要な分にとどめる。

- ・必要な図表は全て載せること。論旨に関係があるかどうかよく吟味すること。
  - ・図表・画像・楽譜の下には必ずキャプション(説明)をつけること。
- ・図表・画像・楽譜には通し番号をつけ、本文中で参照図表を指定する。

(「~については表1を参照されたい」など) なお、表の場合は、表1、表2・・のように、 ・A4版縦、横書き、1ページ40字×36行とする。 余白は上下2cmずつ、左右に2.5cmずつそれぞれ空けること。

- ・見出しは、10.5ポイントのMSゴシック、本文は10.5ポイントのMS明朝であること(邦文、欧文ともに)
- ・必ずワープロソフトを用いて作成すること。
- ・論文は以下の順で綴じること(左側をひもで綴じる)

黒表紙(表)(表紙には、研究主題、学籍番号、氏名を記載し押印)

内表紙 (研究主題、学籍番号、氏名、提出年月日を記載する)

論文要旨 (論文全体の趣旨を簡潔に説明する)

目次

本論

注釈 引用·参考文献一覧

資料 (使用した調査用紙、アンケート、学習カード、楽譜、教材原稿等の見本)

黒表紙(裏)

総ページ数、30ページ程度が一応の目安

図と画像の場合は、図1、図2・・のように、

楽譜については、譜例1、譜例2・のように記す。

・図表・画像・楽譜はデジタルデータによる書き込み・埋め込みとし、 本文への貼り付けは認めない。

### [引用・参考文献一覧]

・引用文献・論証の根拠となる文献は、公刊されたもののみとする。 パンフレット、講演資料、商業誌、放送、報道、インターネット記事は 本編において引用してはならない。

・文献の表記について

著者、発表年、タイトル、掲載紙名、巻・号、掲載ページを明記すること

例:國安愛子 2005 情動と音楽 音楽之友社 74-78

・ 文献の記載順序について

引用、参考箇所に関係なく、著者姓名のアルファベット順(邦人の場合は、表記は日本語で、順序はローマ字で)とする

同一著者に複数の文献がある場合は発表年順とする。

#### [その他]

論文は査読後、1冊製本し、本学図書館に保管する

## <成績評価規準>

卒業論文の審査に当たっては、主査1名(音楽教育主任)、副査4名(うち、一人は教職課程担当)とする。

評価は5名の評定平均。単位認定は、査読者の合議に基づき音楽 教育主任が行う。

使用教科書	
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	論文査読	40%	内容の充実、論旨の一貫性、データの扱い
	口頭試問	40%	研究内容に関する詳細な質問への回答内容
	研究への取り組み	20%	主体性、積極性、追求力

科目名	卒業研究(音楽療法)			科目ナンバリング	MC3M1N49
担当者	村橋 和子・竹下 健太				
担当形態	オムニバス			単位数	4単位
対象学科	音楽学科			開設学年	4年次
開講時期	通年				
選択·必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCEF
備考					

授業のテーマ及び	ì
到達日標	

音楽療法における学術的研究の方法を修得する

授業の概要

各個人が音楽療法に関する自分のテーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる。

## 授業計画

## [概要]

音楽療法コースにおける卒業論文は「卒業研究」(必修4単位)として 大学が課す卒業要件のひとつである。音楽療法コースにおいては、 卒業論文によることなく上記単位の取得は認められない。

### 「提出期限及び提出先」

・卒業論文提出期限は、2025年1月17日(金)午後4時15分とする。時間厳守のこと。

期限時刻を過ぎた場合は、理由の如何を問わず、一切受理しない。

- ・必ず本人が本学教務課窓口に持参し、提出すること。
- ・提出時には査読用に論文を5部提出すること。

### [諸手続き]

・卒論提出にあたっては、以下の手続き申請を済ませなくてはならない。

下記に照らし欠格事項のある者の卒業論文査読は行わない。 卒業論文仮題目届(別紙様式1) 2024年5月22日(水) 卒業論文正式題目届(別紙様式2) 2024年10月16日(水) 卒業論文査読申請書(別紙様式3) 2025年1月17日(金)論文提出時

卒業論文発表会(2025年1月 補講期間に実施)

卒業論文口頭試問(卒業論文発表会の後で実施、日時は別途定める)

## [内容]

・音楽療法コースの卒業論文は、音楽教育に関する学術的研究を旨とし、その基礎科学として 周辺諸科学(医療・福祉・心理学・教育学・ 社会学・音楽学など)の内容を含む。概ね以下のような方法・内容が 望ましい。

音楽療法の実践法に関する実地研究、対象者・治療プロセスに関する研究(臨床研究)

音楽療法の基礎理論に関する実証的研究(調査・実験研究) 音楽療法の歴史および基礎理論に関する文献学的研究(文献研究)

## [目次]

各章、各節のタイトルおよび、それらが何ページ目から始まるか明示する。

### [本編]

- 本編は章、節、項からなる。
- ·章の序数はローマ数字を用いる。(例:第 I 章、第 I 章···)
- ・節の序数は算用数字を用いる。(例:1. 問題提起・・・)
- ・項の序数は括弧つきの算用数字を用いる。(例:(1)手続き・・・)
- ・本文中の論文箇所を特定したい場合は、上記の序数規則に従い表 記する。
- (第1章・第2節・第3項を示す場合は、I-2-(3) のように表記する)・本編は以下の流れを基本とする。(わかりやすくするための変更は可)
- ・序章:「はじめに」に相当する部分。研究動機などについて論述する ・第 I 章:何を明らかにするのかを明確にし、先行研究から未解明の 問題点を明らかにする。(問題提起)仮説を立てる。
- ・第 II 章:「実証」に相当する部分。前章で指摘した問題点を、解明した方法とその結果についてまとめる。臨床研究の場合は臨床実践とそこから明らかになったこと。調査、実験研究の場合は調査の方法や手続き、分析結果など。文献研究の場合は文献を読み解き、関係性や新たな視点を見出すこと。
- ・第皿章:「考察」に相当する部分。第 I 章で掲げた問題提起や仮説が どのように実証、立証されたのかを考察し、その結果を読み解きなが ら、音楽療法についての新たな知見、理論を展開する。
- ・結語:研究を振り返り、まとめを行う。また今後に残された課題につい て論じる。
- ・謝辞:必要な場合は記載する。特に研究に協力してくれた人たちに対 する感謝の気持ちを記す。
- ・図表・画像は必要な分にとどめる。
- ・必要な図表は全て載せること。論旨に関係のない図表は載せてはならない。
- ・図表・画像は全て白黒で掲載すること。ただし特に色彩見本などを必要とする場合はその限りではない。

### [形式及び体裁]

- ・A4版縦、横書き、1ページ40字×30行とする。
- 余白は上下2cmずつ、左右に2.5cmずつそれぞれ空けること。
- ・タイトル・見出しは、10.5ポイントのMSゴシック、本文は10.5ポイントのMS明朝であること(邦文、欧文とも)
- ・必ずワープロソフトを用いて作成すること。手書きは認めない。
- 黒表紙、左側をひも綴じする。
- 論文は以下の順で綴じる。

黒表紙(表)(表紙には、タイトル(副題)、学籍番号、氏名を記載し 押印する)

見返し(白紙1枚)

内表紙 (タイトル(副題)、学籍番号、氏名、提出年月日を記載)

論文要旨 (3~4ページ:論文全体の趣旨を簡潔に説明する)

目次

本論 注釈

引用,参考文献一覧

附録 (使用した質問紙・調査紙・アンケート・教示原稿等の 見本を綴じ込む)

黒表紙(背)

- ・総ページ数、50ページ以上が一応の目安(短ければ十分な論述はできない。長すぎるのは冗長となる)
- •「だ・である」調の統一すること。

・図表・画像には通し番号をつけ、本文中で参照図表を指定する。 (「~については表1を参照されたい」など)

なお、表の場合は、表1、表2・・のように、

図と画像の場合は、図1、図2・・のように記す

楽譜については、譜例1、譜例2・・のように記す。

・図表・画像はデジタルデータによる書き込み・埋め込みとし、本文への貼り付けは認めない。

## [引用・参考文献]

- ・引用文献・論証の根拠となる文献は、公刊されたもののみとする。 パンフレット、講演資料、商業誌、放送、報道、インターネット記事は 本編において引用の対象・論拠としてはならない。
- ・文献の表記について

著者、発表年、タイトル、掲載紙名、巻・号、掲載ページを明記するこ

邦文、欧文の表記方法は以下の通りとする。

例:柏木恵子 1986 自己制御の発達 心理学評論、29、3-24 安田三郎・海野道郎 1977社会統計学 改訂2版 丸善 Paivio,A,1968 A factor-analytic study of word attributes and verbal learning.

Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior,7(1),41-49

- ・文献掲載例は日本心理学会編「心理学研究・執筆・投稿の手引き」 1991年改訂版 を参照した。
- ・文献の掲載順序について

引用、参考箇所に関係なく、著者姓名のアルファベット順(邦人の場合は、表記は日本語で、順序はローマ字で)とする 同一著者に複数の文献がある場合は発表年順とする。

#### [その他]

論文は査読後、1冊製本し、本学図書館に保管する

使用教科書	
参考書•参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	論文査読	40%	内容の充実、論旨の一貫性、データの扱い
	口頭試問	40%	研究内容に関する詳細な質問への回答内容
	研究への取り組み	20%	主体性、積極性、追求力